

授業計画書

(シラバス)

科目名：日本語表現法

1単位: 30時間

設定理由

看護を実践するためには、科学的な思考が必要である。また、自分が観察したこと、実践したこと、その事実と考えを他者に正確に伝える力が必要である。情報を共有する手段として文章が用いられるが、自分の考えを筋道立てて的確に文章に表現することや、他者の文章から、客観的に正しく読み取することは簡単ではない。そこで、「論理的に考える」「論理的に述べる」とはどういうことなのかを学び、論理的思考を身につけ、自分の考えを第三者に的確に伝える文章表現力を養う機会とする。

目的： 論理的に考える、論理的に述べる（書く）とは、どういうことかを学び、論理的思考と文章表現を身につける。

一般目標： 1. 論理的思考と日本語の特性と文の基本構造がわかる
2. 日本語表記の原理がわかる
3. 論理的文章の作成手順がわかる
4. 論理的でわかりやすい文章表現ができる。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 日本語表現	30	1. 論理的思考とは 論理、論理的とは 思考の法則（前提、推論、演繹と帰納） 2. 日本語の特質と文の基本構造 3. 日本語表記の原理 文体と文末表現、語句の意味と文脈、文脈の道筋（文章読解力）、原稿用紙の使い方・書き方 4. 文章全体の要旨をつかみ、文章化する。 （文学作品・評論から文章の論理性をみる） 5. 文章構成と成文化 6. 事実と意見の書き分け 7. レポートと論文の違い 8. 述べることと説明することの違い 9. 課題解決型の文章構成など * 主語、述語、助詞の正しい使い方がわかる。 意味が通じやすい文章の長さで表現する。 文章を書く際に「序論・本論・結論の三段構成」を意識することができる。 * 書き表す学習を多く実施する。	西藤 彰悟

テキスト：大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 改定第2版，国書刊行会

科目名： 情報科学 I

1単位: 15時間

設定理由

患者中心の医療、安全な医療を実現するひとつの方法として、医療の情報化が進められている。また、コンピュータの普及によって医療・看護業務の他、学習、生活など、あらゆる場面でコンピュータが使用されている。コンピュータやインターネットを道具として活用し、より良い医療を提供するためには、情報に関する知識、情報処理を行うためのコンピュータに関する知識が必要である。そのため、情報管理やコンピュータのしくみや操作方法を学ぶとともに、ワープロ・表計算などアプリケーション操作の基礎技術について学ぶ。

目 的： 情報およびコンピュータの特性や仕組み、インターネットに関する知識を学び、それらを道具として活用するための基本操作を身につける。また、パソコンを利用して実用的な文章を作成できる。

- 一般目標：
1. コンピュータの特性と仕組みがわかる。
 2. 情報をめぐる倫理的問題と情報管理の必要性が理解できる。
 3. 医療を支えるコンピュータネットワークシステムの実際がわかる。
 4. コンピュータの基本的な操作方法が理解できる。
 5. ワードプロソフトを利用して文書の作成ができる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 情報の基礎知識	15	1. 情報と情報処理 2. コンピュータの概要と仕組み（2進法を含む） 3. コンピュータ・ネットワークとインターネット 4. 情報セキュリティと情報倫理 5. 医療とコンピュータ 6. コンピュータおよびソフトウェアの操作 7. 情報検索（医療・看護文献に関する Web 検索） 8. 文書作成演習	忽滑谷 多鶴舞

テキスト：医療・看護系のための情報リテラシー第2版 Office2024 対応版，東京図書。

※ 授業で使用するため。事前に USB を購入しておくこと。

科目名： 情報科学Ⅱ

1単位: 30時間

設定理由

看護業務や看護研究などでコンピュータを利用する機会が多くなっている。文書作成や情報検索に留まらず表計算などを活用したデータの解析やプレゼンテーション能力を習得することが必要である。また、研究に欠かせない統計処理はコンピュータに頼るところが大きいが、データを解釈できる能力が必要である。つまり、集めたデータをどのように統計処理することで、事実の意味を正しく伝えることができるのか、また統計処理された結果からその意味を解釈するために必要な統計処理の基本を学ぶことで、保健統計への応用を可能にすることをねらいとする。

目的： 表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを活用するための情報処理技術を学び、統計学に基づいた情報の整理と情報処理の基礎を身につける。

- 一般目標：
1. 表計算・プレゼンテーションソフトの操作を理解し、データの解析やプレゼンテーションに活用できる。
 2. 統計処理のための基本的な考え方や手法がわかる。
 3. 表計算ソフトを用いてデータの加工ができる。
 4. 統計を用いた推計・検定処理の基本がわかる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. コンピュータの活用	10	1. 表計算（Excel）ソフトの活用 表計算の概要、数式・関数を使った計算、表とグラフ 2. プレゼンテーション（Power Point）ソフトの活用 スライドの作成、グラフ・表・イラスト挿入、 アニメーション・トランジション、サウンドなど編集	忽滑谷 夢鶴舞
2. 統計処理	20	1. 統計処理の概要 2. 記述統計 3. 推測統計 4. 仮説検定	

テキスト：医療・看護系のための情報リテラシー第2版 Office2024 対応版，東京図書。

※ 授業で使用するため。事前に USB を準備しておくこと。

科目名：倫理学

1単位：15時間（実質16時間）

設定理由

看護は、患者と看護師という人間対人間関係を基盤に発展するものであり、本質的に倫理的であることが求められる。現在、疾病構造の変化や医療の高度化、少子高齢化などに伴い、看護師に期待される役割も多様であり、患者の権利を尊重し、患者本位のサービスを提供する観点から、豊かな人間性や人間を理解する意識の涵養することが重要視され、その人らしく生きること重点がおかれるようになり、看護師の倫理観がより一層問われる時代となっている。ここでは、医療倫理・看護倫理の基礎となるよう、人としての倫理の考え方の基本を学び、倫理的に考える機会としたい。

目的：規範倫理学の基本的立場を理解し、倫理的な問題を考えるのに必要な知識と思考法を習得する。さらに、道徳的行為・判断の際に、自分がいかなる立場にもとづいて行為・判断しているかについて自覚できる。

一般目標： 1. 善悪の判断が、どのような基準や根拠に基づいているのか、倫理学の理論、学説、方法論の基本を理解できる。
2. 現代社会が直面する問題を取り上げ、それらを倫理的に考えることができる。
3. グループワークと発表などの参加型の学習を通じて、議論するコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。

評価方法：試験（時間内）

単 元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 倫理	16	1. 倫理とは何か 倫理学の起源と発展 2. 規範倫理学の三つの立場 功利主義、義務論、徳倫理学 3. 身近な道徳的倫理問題を考える ※テーマに沿ってグループワークを行い、倫理的観点から多面的に考える	藤本 良伺

テキスト：新版 現実を見つめる道徳哲学，晃洋書房。

基礎分野 人間と生活・社会の理解

「コミュニケーション論」科目設定の理由

看護は、健康課題をもった人々の課題解決に多くの関係者と協力しながら、携わる職種である。従って、世代の違う看護師達とチームを組んだり、年齢の異なる患者と接したりすることが必至である。しかし、学生はメーラ世代であり、対面でのコミュニケーションや世代の違う人々との関わりは多くはないため、同世代も含め、看護の対象となる人々とのコミュニケーションを図っていくには訓練が必要である。そこでコミュニケーションの基礎を学び、それを基に援助者に必要なあり方や病気を患う人を理解する為に必要な知識や技術を学ぶことが必要である。中でも、身体障害をもつ人たちは看護の必要度が高い人たちであり、特に、全国に34万人以上いる見た目には健常者と区別つかない聴覚・言語障害を持つ人とのコミュニケーション手段を学ぶことの意義は大きいと考える。そこで、「コミュニケーション論」を設け、ⅠとⅡに分けて、自分に焦点をおいたコミュニケーションの一般的な内容と援助者に求められる内容に分けて学ぶ機会とした。

科目名：コミュニケーション論Ⅰ

1単位：30時間

目的：社会的存在である人間同士が互いを尊重し円滑に意思を伝えあい、良好な関係を築く為の基礎を学ぶ。

- 一般目標：1. 各々の個性を尊重し合いながら、相互理解を進めるためのコミュニケーションの基本が理解できる。
2. 相手や場の状況に合わせてコミュニケーションがとれる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. コミュニケーション 概論	20	1. コミュニケーション(定義、構成要素、働き) 2. 言語的、非言語的コミュニケーション 3. 効果的なコミュニケーションと阻害要因 「持てる力を伸ばしあう関係」「歪みを生じる関係」 4. 交流分析的手法による演習 ・人生脚本とその分析 ・自我の構造と機能 ・理想的な人間関係	今井 常晶
2. コミュニケーション の実際	10	1. 言葉遣いの基礎知識Ⅰ ・敬語の使い方 2. 言葉遣いの基礎知識Ⅱ ・相手や状況に応じた言葉遣い 3. 電話対応と患者対応 4. コミュニケーション技法の実際 ・相手や状況に応じた対応（演習）	

テキスト：系統看護学講座 基礎分野 人間関係論，医学書院.

科目名：コミュニケーション論Ⅱ

1単位：30時間

目的：援助者となる自分や援助の対象となる人々への理解に必要な知識や技術を学ぶ。併せて聴覚障害を持つ人と臨床場面で意志疎通が図れる為の基礎的技術を養う。

一般目標：1. 病気になった人への心理的な支援方法の基本的な考え方が理解できる。
2. 聴覚・言語機能に障害がある人と、身体的コミュニケーションツールを用いて積極的に関わろうと努力することが出来る。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 人間関係とコミュニケーション	15	1. 病気になった人の心理的变化 ・保健行動から病者役割行動へ ・家族の障害受容 2. 援助者としてのコミュニケーション 3. カウンセリング ・カウンセリングの定義、種類、限界 ・カウンセリングの基本的技法 ・アサーショントレーニング ・積極的傾聴法と演習	中里 のぞみ
2. 聴覚・言語障害者とのコミュニケーション	15	1. 医療場面での手話によるコミュニケーション ・ろう者が病院施設に受診した際に生じること ・病院で活用するために知っておきたい手話 体の部位や内臓、一般的な病名、診療科名、 病院内の場所、診察や処置、入院生活に必要な手話 ・手話コミュニケーション演習	高橋 由美子

テキスト：系統看護学講座 基礎分野 人間関係論，医学書院。

病院に手話で話す人が来たらー医療にたずさわる人達の手話，D.L企画事務所とうるーす。

科目名：生活科学

1単位：30時間

設定理由

人間に備わった生きる力は、生活の場の条件によって大きな影響を受け、健康状態はつねに揺れ動くものである。今日の人間の生活は、豊かさが感じられ利便性が高まる半面、さまざまな問題をもっている。人間の健康を支えるために援助する看護者は、対象の生命力の消耗を最小にするように生活過程を整えられるようにならなければならない。その為、生活過程を構成する生活と社会に対する理解が必要である。そこで「生活科学」を設定し、社会的存在である人間の生活を理解するための基礎として人間の社会的行為の意義と役割や社会集団、社会構造との関係など、日常生活を科学的にとらえ、よりよい環境を作り出す基礎的な力をつける。さらに、自己の健康を整える事が他者の健康を守る事にも繋がることから自己の生活を調整する力も身に付けていく。

目 的： 生活環境のあり方を科学的にとらえ、より良い環境をつくりだす基礎を学び自己の日常生活を整える視点が明確になる。

- 一般目標：
1. 生活を科学的にとらえ、健康と衣・食・住の関係が理解できる。
 2. 健康を守るために必要な衣生活の基礎知識や整え方が理解できる。
 3. 健康を守るために必要な食生活の基礎知識や整え方が理解できる。
 4. 健康を守るために必要な住生活の基礎知識や整え方が理解できる。
 5. 家族のライフサイクルの変化に対応して、健康を整える住環境のあり方がわかる。
 6. 一人一人の日常生活のあり方が環境問題と密接な関係にあり、それが地球に甚大な影響を及ぼすことがわかる。
 7. 自分の生活の現状を理想的な健康生活と比較し、科学的に振り返る事ができる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 生活を科学する	16	<生活科学概論>生活科学の定義 ・食生活；食生活をめぐる諸問題、食生活の現状と課題、健康な食生活の条件、食生活の安全性と環境問題、食品添加物と食品汚染、環境汚染と食物、食生活と廃棄物問題 ・衣生活；衣服の目的と役割・機能、被服素材、繊維の知識と科学、素材の多様化、布の改質と新素材、布オムツと紙オムツの違い(デモ実験)、衣服の選択と管理、ユニバーサルファッションの考え方、衣類の手入れ(洗濯と保管)、洗濯をとりまく科学、健康な衣生活の条件 ・住生活；住居の役割と機能、ライフサイクルに対応する住居、健康を守る住環境の条件、快適な室内環境とは、住まいの安全性バリアフリーとユニバーサルデザイン、住まいの手入れの実際、住生活と環境問題、室内気候 ・生活環境；地球環境を考える。環境と安全、廃棄物処理とリサイクル、環境ホルモン、ダイオキシン問題、環境にやさしい暮らしとは？	宮森 芳子
2. 自己の生活を科学的に振り返り	14	<現代の生活時間の実態と課題> 生活時間の管理：学生個人の生活時間調査とレポート 1. 一日24時間の過ごし方	後藤 道子

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
返る		2. 普段の日と休日の過ごし方の違い～調査したものを基に分析する 3. 換気と保温 ・なぜ、「換気と保温か」 ・「換気と保温」実践への指針 4. 食事、食物の選択 ・「食事」「食物の選択」がなぜ大切なのか ・ライフサイクルの中で「食事」「食物の選択」を位置づける 5. 自分の生活リズムをとらえる ・「運動・変化」はなぜ大切か ・ライフサイクルから生活リズムをとらえ、リズムを意図的につくる ＊自分の生活のあり方を健康な生活と比較し実践に繋げる	

テキスト：図説 国民衛生の動向 2025/2026, 厚生労働統計協会.

看護覚え書 改訳第7版、現代社.

新装版 科学的看護論 第3版、日本看護協会出版会.

器官レベルからみるからだ、アノック

科 目 名： 体 育

1 単位: 3 0 時間

設 定 理 由

適切な運動・身体活動は、生活習慣病の予防やストレスの解消など健康な生活に重要であるが、現代社会の生活様式では身体活動量が低下し、多くの日本人は運動が不足している。成人期の初期にある学生にとって運動が生涯の健康な生活の実現に資するものであることを理解することが必要である。また、現代の若者はストレス耐性が弱い傾向にあることから学校生活の中で生じるストレスへの効果的な対処法を学ぶことが必要である。自己の健康管理および看護職として、健康の保持増進を図るための知識や方法を習得し、運動習慣の重要性について学ぶ。また、運動を実践しながら基礎体力づくり、運動習慣の継続に役立てる。さらにチームで行うスポーツを通して、楽しさを実感しながら、自己表現力を高め協調性を養う機会とする。

目 的： 体力の保持増進に関する運動の知識と具体的な方法を学ぶ。また、実技を通してストレスの発散法を学び、学生同士の交流の場とする。

一 般 目 標： 1. 現代社会における健康と運動の意義を理解できる。
2. 健康の保持・増進および疾病の予防のための運動の留意点と実践方法が理解できる。
3. フィットネスの実践を通して体力を保持増進できる。

評 価 方 法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 健康管理 と運動	1 6	<講義> 1. 現代人の健康状態 2. 健康と体力との関連 3. 健康危機と生活環境 4. 健康の概念と健康観 5. 運動とストレス概念・ストレスコーピング 6. 運動の効果と必要性 7. 子どもと高齢者、障がい者の健康と運動（アダプテッド・スポーツ） 8. トレーニング論と運動処方作成	平井 敏幸
2. フィットネス	1 4	<実技> 1. 体力診断テスト 2. ウォームアップとクーリングダウン 3. 生涯スポーツ（レクリエーション・スポーツ）の実践 4. チームプレーを意識した試合づくり	

テキスト：なし

「英語」科目設定の理由

社会の国際化が急速に進展し、異文化交流がますます盛んになる中で、医療現場での共通のコミュニケーションとして、英語での会話を求められることが多々ある。そのため、看護師養成教育においても、国際的視点と資質を備えた人材の育成が求められているといえる。ここでは今まで学んできた英語をもとに国際語としての英語に親しみ、語彙力を高め、英語コミュニケーションの能力（読む・書く・聞く・話す）向上を図る。

科 目 名 : 英 語 I

1 単 位 : 1 5 時 間

目 的 : 国際的なコミュニケーション言語としての英語とその文化を学ぶ。

一般目標 : 1. 日本語との比較を通し、英語の発想や文化の違いについて学ぶ。

2. 基礎英語力を伸ばし、英語によるコミュニケーション力を高める。

評価方法 : 試験 (時間内)

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 英文読解とリスニング	1 5	1. 英文法の基礎と表現 1) 英文読解とリスニング 2) 英語の特徴と表現 ※ 英語教材 (映画や音楽など) を通して英語を読む力、聞く力、書く力を高める	中西 綾子

テキスト : なし

科 目 名 : 英 語 II

1 単 位 : 3 0 時 間

目 的 : 「聞く・話す」を中心とした実践的英語コミュニケーション能力を養う。

一般目標 : 1. 基礎的な英会話を踏まえたうえで、看護の様々な状況に応じた表現や語彙、会話が理解できる

2. 英語でのコミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行うことができる。

評価方法 : 試験 (時間内)

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 英会話	3 0	1. 日常会話の基本 2. 基礎的な看護用語 3. 医療専門用語 4. 医療場面で必要な英会話	ミヤザキディレイナ

テキスト : Strange Strategies, Delaina Miyazaki

Cutting Conversation Corners, Miyazaki

科目名：心理学

1単位：30時間

設定理由

看護とは、対象となる人々の生命力の消耗を最小にするよう、生活過程を整えることである。健康を害した人々は往々にして、その生活の仕方に問題があることが多い。従って、その健康回復には、その人の心・認識に迫って、それまでの生活の仕方を変更してもらう必要がある。そこで看護者には、心理学の理論や知識を学ぶことで、対象者への関わり方を工夫することができると考える。ここでは、人々の心や行動の特性、心理面に影響する要因等を学ぶ機会とする。

目的：人間の心の成り立ちや認知機能のあり方を学び、人間理解や対人関係の構築に役立てられる。

- 一般目標：1. 人間の認知の成り立ちや働き、且つ、認知に影響する要因などを理解する。
 2. 日常生活で無意識に行われている認知の仕方を知り、その成因の根拠が理解できる。
 3. 自分が見聞したことは、事実とは限らないこともあると真摯に受け止める姿勢がもてる。
 4. 人間の欲求やそれが満たされない場合の反応のあり方を知り、学習へと向かわせる働き方が理解できる。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 認知の不一致が起るしくみ	15	1. 心理学とは（定義、種類、歴史） 2. 脳と知覚のメカニズム ・脳と心の関係 ・脳の仕組みと働き ・記憶の仕組みと法則（アトキンソンとシフリンの説－記憶の一連の過程、3種類の記憶とその特徴、スキーマとは） ・「感覚」「知覚」「認知」の関係 ・五感それぞれの特徴、錯覚・残像現象が生じる仕組み ※ 普段、意識しない自分の認知の仕方をゲーム形式で体験し実感する。	吉野 巖
2. 人間の基本的な人格形成と学習	15	1. ライフサイクルにおける基本的人格形成とその発達に影響を及ぼすもの ・感情とは（定義、心理学で扱う「情動」、それを生み出す脳の部位、キャノン・バード説とジェームズ・ランゲ説） ・欲求とは（定義、種類）・生理的欲求と心理的欲求 2. 深層心理とは（定義、フロイト他の考え方） ・本音が見える錯誤行為 ・欲求不満のメカニズム ・欲求の葛藤と合理化（ストレスとストレスコーピング） 3. 学習と本能 ・本能とは ・学習行動のメカニズム ・学習の法則（ソングの见解；試行錯誤による学習、スランプ後の高原現象、学習性無力感とひらめき学習） ・人間の情報処理の仕方 ・ボトムアップ処理とトップダウン処理 ・言語と解釈と行動	

テキスト：新体系 看護学全書 心理学，メヂカルフレンド社。

科目名：文化人類学

1単位：30時間

設定理由

現代はグローバル化が進み、異文化と接する機会が増えている。一方で、異文化間には摩擦が生じやすい要素が多く含まれているのも事実である。看護は、対象の生活過程に密着して個別的な援助を行うことに独自性をおいている。人間の日々の生活行動は、その人の心であり、心は感性と理性を土台に意思決定される。個人の心は所属する社会の中でつくられるため、人間社会の多様性を理解することが必要である。ここでは自分と異なるさまざまな文化をもつ他者を理解するための基本を学び、対象となる人々の生まれ育ってきた文化的な背景に関心を寄せ、相手を尊重できる基盤をつくる機会とする。

目的：自他の複雑で多様な人間のあり方を文化という要素から捉えるための基本を学び、人間社会の多様性を尊重する姿勢を養う。看護の対象となる人々と接する際に、その人が育ち生きて来た歴史（生活過程の特徴）に関心を寄せ、その価値観を尊重できる基盤をつくる。

一般目標：1. 文化は、風土と生活のあり方が作りあげてきたものであり、その反映がそこに住む人々の考え方や生活習慣などに現れることが理解できる。

2. 自文化、および他文化（または異文化）の特性や行動を方向付けるものを学び、看護の対象となる人たちが歩んできた生活背景に関心を向ける素地ができる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 文化人類学の基本	26	1. 文化人類学とは（定義、意義） 2. 人間社会と文化 ・自文化と他文化 ・人間性と文化 ・通過儀礼 ・文化人類学に於いての宗教 ・文化人類学に於いての世界観 ・分類／境界／二項対立／穢れとタブー（禁忌） ・日本文化と多文化	水崎 禎
2. 文化人類学の応用	4	1. 現代社会に於いての文化人類学の応用 健康、病気、治療、生、死など医療に焦点をあてて、身近なところから、文化人類学を考える。	

テキスト：なし

科目名：家族社会学

1単位：15時間

設定理由

社会はさまざまな集団によって成り立っており、人はそれらの集団に所属し、人と人とのかかわりを持ちつつ生活している。それらの社会集団のなかで、私達が通常、最初に所属し社会関係をもつ集団が家族である。すなわち、私達は家族の一員として生まれ、家族を媒介にして親族、地域社会へと関係を広げていく。家族は私達にとって最も身近な集団であり、生活の基本単位である。

看護の対象は、生活者としての個人を中核とする家族である。しかしながら、「家族とは」と問われると定義づけることが極めて難しい。家族のありようは、その時代や社会、文化によってさまざまであり、今日では少子化、晩婚化、核家族化、高齢化、価値の多様化により、さらに複雑化している。

ここでは、家族の形態や構造、家族の機能が社会の変動に伴いどのように変化してきたかを捉え、現代における家族の動向、家族関係を理解する。また、家族理解のための基礎的な諸理論を学び、家族を含めた看護を展開する力を養うための基礎的な学習をする。

目 的： 家族の形態・構造・機能が社会の変動に伴いどのように変化してきたかを捉え、現在における家族の動向、家族関係を学ぶ。また、家族理解のための基礎的な諸理論を学ぶ。

- 一般目標： 1. 家族の定義、家族の類型と分類が理解できる。
 2. 家族のライフサイクルにおける課題が理解できる。
 3. 家族の内部構造と機能が理解できる。
 4. 家族を理解するための諸理論が理解できる。
 5. 家族の安定維持のために必要な親族や地域社会との関係が理解できる。
 6. 家族が構造面ならびに機能面でどのように変動してきたかが理解できる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 家族の定義と構造	6	1. 家族の定義 1) 家族とは 2) 家族の類型と分類 2. 家族の一生と生活設計 1) ライフサイクル 2) 家族の生活設計 3. 家族の内部構造 1) 家族の役割構造 2) 家族の勢力構造	工藤 遥
2. 家族の機能と理論	9	1. 家族の機能 1) 子どもの社会化 2) 老親の扶養 2. 家族理解の諸理論 1) 家族発達理論 2) 家族システム理論 3) 家族ストレス対処理論 3. 家族と外部社会 1) 親族関係 2) 家族と地域社会 4. 家族の変動 1) 家族形態の変化 2) 家族機能の変化 5. 家族の未来	

テキスト：なし

科目名：芸術

1単位：15時間

設定理由

芸術とは、作品の創作と鑑賞によって精神の充実体験を追求する文化活動であり、文学、音楽、造形美術、演劇、舞踊、映画などの諸分野がある。芸術は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするものであり、豊かな人間性を涵養し、創造性をはぐくみ、感性を育てるほか、他者に共感する心を通じて、他人を尊重し、考えを異にする人々と共に生きる資質をはぐくむものと言われている。当校の教育理念に基づき、豊かな感性と創造性を育み、主体的かつ発展的な充実した学生生活を過ごすためには、芸術がもつ、これらの特性が重要である。

ここでは歌を歌うことで叙情的な気分浸ったり、皆で合唱することで、連帯感や協調性を高め、心の安らぎと生活に活力を与える機会とする。

目的：音楽の本質と意義を理解し、表現を通して豊かな感性と創造性・協調性・主体性を養う。

一般目標：1. 音楽の特性と意義を理解する。

2. 芸術作品の観賞を通して、感じ取ったことを表現できる。

3. 音楽のもつ特性を生かし合唱、独唱による表現ができる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 音楽の特性と意義	4	1. 音楽の特性と意義 1) 音楽と情操 2) 音楽と創造性 3) 音楽と生活 4) 音楽と人間形成	則竹 正人
2. 音楽の実際	11	1. 芸術鑑賞 1) オペラ、ミュージカルなど 2. 合唱、独唱 1) 童謡など	

テキスト：なし

※独唱では、子守唄・絵描き歌・数え歌・遊び歌なども含めて子どもに歌を聞かせ、また一緒に遊びながら歌えるものを選択し、人前で独唱できることを到達目標とする。

「解剖生理学」の科目設定の理由

人間に働きかけ、その人の日常生活を支援する看護師には、その人のそのときの健康状態を的確に把握する能力が求められる。そのため、まず人体の正常な構造と機能について、医学と共通する基本的な知識を学び、医学で使用される用語のもつ概念を理解することが必要である。そこで、疾病の成り立ちを学習する前提として、結びつきの強い臓器に分けて解剖生理学Ⅰ～Ⅳの科目立とした。さらに看護をするためには、部分（臓器別）の知識がどう関連し、日常生活行動とどう繋がっているのかをイメージできるように主体的に学ぶ解剖生理学Ⅴを設定した。

科目目	単位（時間数）	単元名
解剖生理学Ⅰ	1 単位（15 時間）	1. 人体の基本構造とそのなりたち 2. 内臓機能の調節と身体の変化
解剖生理学Ⅱ	1 単位（30 時間）	1. 血液循環とその調節 2. 呼吸と血液のはたらき 3. 外部環境からの防御
解剖生理学Ⅲ	1 単位（30 時間）	1. 栄養の消化と吸収 2. 内部環境を調整する臓器の働き 3. 生殖器系の構造と機能
解剖生理学Ⅳ	1 単位（30 時間）	1. 脳神経系の構造と機能 2. 感覚器系の構造と機能 3. 身体の支持と運動
解剖生理学Ⅴ	1 単位（30 時間）	1. 生活行動を支える身体のしくみ

科目名：解剖生理学Ⅰ

1単位：15時間

目的：人体の基本構造とそのなりたち、内臓機能の調節の働きを学び、人体の全体像がイメージでき、その概要を説明できる力をつける。

- 一般目標：1. 人体が階層構造をもつ意味と、その素材として細胞・組織の構造と機能が理解できる。
 2. 人体の区分け方、各部の名称、方向と位置を示す用語など体内地図を描くための基本が理解できる。
 3. 日常生活を営む上で必要な生命を維持する働きとそれを活用する働きが理解できる。
 4. 生体内外の環境の変化に応じた諸臓器の調節の働きが理解できる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 人体の基本構造とそのなりたち	6	1. 人体とはどのようなものか 1) 人体の階層性（個体－器官系－器官－組織－細胞－細胞小器官－分子、約60兆の細胞の秩序だった構造がイメージできる様に） 2) 自然界における人類の位置（地球に住む生物達の生態系、進化の流れと人類の位置） 2. 人体の素材としての細胞・組織 1) 細胞の構造と細胞内情報伝達（DNAの構造の特徴） 2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成（ATP産生の3つの過程） 3) 細胞膜の構造と機能（細胞膜のタンパク質の働き） 4) 遺伝子と遺伝情報 5) 細胞分裂（染色体の複製と有糸分裂） 5) 分化した細胞がつくる組織 3. 構造と機能からみた人体と内部環境の恒常性 1) 構造からみた人体（内部構造からみた人体の区分、腔所と膜、人体の形状、方向と位置を示す用語） 2) 機能からみた人体（生命維持システムとしての植物機能と運動・調節システムとしての動物機能） 3) 体液とホメオスタシス（内部環境とは、体液とは、ホメオスタシスとの関係）	岡 亨治
2. 内臓機能の調節と身体の変化	9	1. 内臓機能の調節 1) 自律神経による調節、内分泌による調節 2) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 3) ホルモンの種類と分泌の調節（フィードバック機構） 4) 内分泌器官の構造とホルモンの機能（自律神経とホルモンの関係、下垂体前葉ホルモンと本能、生体リズム、ストレスへの生体反応） 2. 成長による変化 1) 成長による組織・臓器の形態的变化 2) 成長による臓器の機能的変化	鷺見 佳泰

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①，医学書院。

科目名：解剖生理学Ⅱ

1単位：30時間

目的：生命を維持する植物機能の一端を担う循環器・呼吸器・血液・免疫系の構造や機能を学び、個々の臓器とそれぞれの器官系の関係がイメージでき、その概要を説明できる力をつける。

- 一般目標：1. 血液循環のしくみと働き・その調整が理解できる。
 2. 呼吸と血液の働きが理解できる。
 3. 呼吸と循環のつながりが理解できる。
 4. 人体を守る防御機能を担う免疫細胞とその働きが理解できる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 血液循環とその調節	10	1. 流通経路としての循環器系の構造と機能 1) 循環器系の構成 2) 心臓の構造（位置と外形、4つの部屋と4つの弁、心臓壁の特徴、血管と神経） 3) 心臓の拍出機能（心臓の興奮とその伝播、心電図、心臓の収縮） 4) 末梢循環系の構造と機能（血管の構造と働き－血管の種類と構造、体循環と肺循環） 5) 血液循環の調節（血圧、血液の循環、血圧・血流量の調節、微小循環、循環器系の病態生理） 6) リンパとリンパ管（リンパ管の構造、リンパの循環）	渡部 寿一
2. 呼吸と血液のはたらき	10	1. 呼吸器の構造と機能 1) 呼吸器の構成 2) 上気道、下気道と肺、胸膜・縦隔 3) 外呼吸と内呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸気量、ガス交換とガスの運搬、肺循環と血流、呼吸運動の調節 2. 血液 1) 血液の組成と機能（血漿、血餅・血清、細胞成分とその分化、血液の機能） 2) 赤血球（赤血球数・大きさ・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット、ヘモグロビンの構造と機能、赤血球の新生部位、赤血球の破壊を担当する器官と色素の処理のしくみ、貧血と赤血球増加症） 3) 白血球（顆粒球、リンパ球、単球）組織適合性抗原（HLA） 4) 血小板 5) 血漿タンパク質と赤血球沈降速度 6) 血液の凝固と線維素溶解 7) 血液型	岡 亨治
3. 外部環境からの防御	10	1. 侵入物に対する生体防御機構のしくみと働き 1) 皮膚の構造と機能（皮膚の組織構造、皮膚の付属器、皮膚の血管と神経、皮膚の機能） 2) 生体の防御機能（非特異的防御機構、特異的防御機構、生体防御の関連臓器） 3) 体温とその調節（熱の出納、体温の分布と測定、体温調節、発熱、高体温と低体温）	野呂 秀策

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①，医学書院。

科目名：解剖生理学Ⅲ

1単位：30時間

目的：生命を維持し、種を保存しつつ再生産する植物機能を担う消化吸収・排泄、内部環境を調整する肝臓・腎臓・脾臓及び生殖器官系の構造や機能を学び、個々の臓器とそれぞれの器官系の関係がイメージでき、その概要を説明できる力をつける。

一般目標：1. 外界から栄養物を取り込み、消化・吸収するしくみや働きが理解できる。
 2. 不要物を排泄するしくみや働きが理解できる。
 3. 外界から栄養を取り込み、消化吸収した後、どう体内で活用されるのか、その概要が理解できる。
 4. 人の再生産、生命の連続性を維持するために必要な生殖器官系の構造と機能が理解できる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 栄養の消化と吸収	10	1. 口・咽頭・食道の構造と機能 1) 口の構造と機能 2) 咽頭と食道の構造と機能 2. 腹部消化管の構造と機能 1) 胃の構造と機能 2) 小腸の構造と機能 3) 栄養素の消化と吸収＜糖質（炭水化物）、タンパク質、脂肪、水・電解質・ビタミン＞ 4) 大腸の構造と機能 5) 腹膜（腹膜と腸間膜、腹膜と内臓の位置関係、胃の周辺の間膜）	高梨 正美
2. 内部環境を調整する臓器の働き	12	1. 脾臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 1) 脾臓 2) 肝臓と胆嚢の構造 3) 肝臓の機能 2. 腎臓・排泄路の構造と機能 1) 腎臓、糸球体、尿細管の構造と機能、傍糸球体装置、レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系、糸球体濾過量 2) 排泄路の構造、尿の貯蔵と排尿 3) 体液の調節	高梨 正美 （2時間） 高橋 州平 （10時間）
3. 生殖器官系の構造と機能	8	1. 男性生殖器官の構造や機能 1) 精巣 2) 精路と付属生殖腺 3) 外陰部 4) 生殖機能 2. 女性生殖器官の構造と機能 1) 卵巣 2) 卵管・子宮・膣 3) 外陰部 4) 乳腺 5) 生殖機能 3. 受精（胎児の発生）と妊娠 1) 生殖細胞と受精 2) 初期発生と着床 3) 胎児と胎盤	森 大輔

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①，医学書院。

科目名：解剖生理学Ⅳ

1単位：30時間

目的：生命を活用する動物機能を担う全身を統括する脳・神経系やその命令に従う運動器系の構造や機能を学び、個々の臓器とそれぞれの器官系の関係がイメージでき、その概要を説明できる力をつける。

一般目標：1. 身体内外の情報を受容・処理・指令する中枢神経系と末梢神経系のつくりやしくみが理解できる。
2. 外界を受け止める感覚器の構造やしくみが理解できる。
3. 身体を支える骨格、筋の配置やそのしくみと働きが理解できる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 脳神経系の構造と機能	12	1. 神経組織 1) 中枢神経系と末梢神経系 2) 神経細胞と支持組織、神経細胞と情報伝達 2. 脊髄と脳 1) 構造と機能 2) 脊髄神経と脳神経の構造と支配域 3) 運動機能と伝導路、感覚機能と伝導路 4) 自律神経による内臓機能の調整 3. 中枢神経系を保護する構造と働き 1) 頭蓋骨、脳循環、血液脳関門 2) 脳室と髄膜、脳脊髄液の循環 4. 脳の高次機能 1) 脳波、睡眠、記憶	村上 宣人
2. 感覚器系の構造と機能	8	1. 眼の構造と視覚 眼球の構造、眼球付属器、視覚を生じるしくみと伝導路 2. 味覚と嗅覚 味覚器の構造、味覚の特徴、嗅覚器と嗅覚の特徴と伝導路 3. 耳の構造と聴覚・平衡覚 耳の構造、聴覚と平衡覚を生じるしくみと伝導路	村上 宣人 （4時間） 小西 正訓 （4時間）
3. 身体の支持と運動	10	1. 人体を構成する骨格 1) 全身の骨格、骨の形態と構造、骨の組織と組成 2) 骨の発生と成長、骨の生理的な機能 2. 骨の連結 1) 関節の構造、形状と可動性 2) 不動性の連結 3. 骨格筋 1) 構造、作用、神経支配 2) 体幹、上肢、下肢、頭頸部の骨格と筋 4. 筋の収縮 1) 骨格筋の収縮機構、骨格筋の種類と特性 2) 不随意筋の収縮と特徴	三上 和雄

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①，医学書院。

科目名：解剖生理学Ⅴ

1単位：30時間

目的：系統毎に学習した内容を看護に活かせるように、器官系のつながりからみた身体を土台に日常生活行動が、どのような身体のしくみによってなされているのかを改めて、各自が目的をもって確認し、知識の定着を図る。

- 一般目標：1. 身体の各部分が生活者としての人間をどのように支えているのかが理解できる。
 2. 主体的に学ぶ姿勢を身につけ学習の成果をまとめることができる。
 3. グループで協働し互いに学習の共有を図り問題解決能力を高めることができる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 生活行動を支える身体のしくみ	30	1. ガイダンス 1) 看護の視点で人体をとらえるとは 2) 学習方法 ・学習課題にそって身体の構造と仕組みを整理する。 ・グループワークで質疑応答を通して理解を深める。 ・グループで課題に取り組み成果を発表し合う。 2. 学習課題と主な問い 1) 息をし、血液を廻らす働き ・息をするために使う器官とそのつながり、取り込んだ酸素の行方。 ・心臓から動脈を経て血液が流れ、組織（細胞）とやりとりして静脈を経て心臓に戻ってこられる構造や仕組み。 ・赤血球の形が意味すること。造血と処理。 2) 食べて、トイレへ行き出す働き ・飲食物の選択・食べ方。飲み込んだ後、勝手に消化吸收してくれるそれぞれの臓器の構造や働き。 ・便意・尿意を感じてからトイレへ行って出すまでの仕組みとその発達。 3) 生活をつくりだす上肢と行動範囲を拡大する下肢の働き ・自分が動きたい時に動ける身体の仕組みとは。 ・なぜ子どもは一人で歩けるようになるまでに1年ほどかかるのか。 4) 内部環境を調整する働きと睡眠の関係 ・血糖を調節する仕組みに関係している器官系の関係とは。 ・人はなぜ眠るのか、睡眠にはどのような特徴や役割があるだろう、睡眠を起こさせる仕組みやリズムとは。 5) 人を再生産する働きと生体防御システムとの関係 ・配偶子形成のプロセス、生殖を支える性ホルモンの種類と働き、月経前の女性の変化、性の決定と分化の仕方。 ・生殖と生体防御システム、胎児が母胎から排除されないシステム。	木村真由美

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①，医学書院。

看護形態機能学 第4版，日本看護協会出版会。

看護のための人間論 ナースが視る人体，講談社。

看護のための疾病論 ナースが視る病気，講談社。

「栄養学」科目設定の理由

人体の細胞総数の約 2%が毎日新しい細胞と入れ替わりながら、健康が維持されていくといわれる。健康は細胞の健康度に左右されるため、人々の健康を守る看護師には酸素と同様に欠かすことのできない栄養素が摂取された後、どの様に変化し、活用、処理されるのかを生化学的視点と併せて栄養学を学ぶ必要がある。また、傷病者の様々な病態や栄養状態に応じた栄養のとり方を知ること健康回復を促す関わりを行う上では重要である。

栄養のとり方は、育つ家庭の中で食習慣として身につけ、様々な生活習慣病と関係が深い。日々、無自覚的に行われていることが多く、入学生も同様であると予測される。そこで、学生自身の食生活を振り返り、これまでの食習慣を見直す体験をもつことが必要である。以上の理由から栄養学のⅠとⅡを設け、栄養に関する基礎知識と基本的な食事療法を学ぶ。

科 目 名 : 栄養学Ⅰ

1 単位 : 30 時間

目 的 : 健康な細胞個々のつくりかえに必須な栄養素を人体が活用する為の仕組みやライフステージの中で、健康を維持するために必要な食事の仕方が理解できる。また、健康な生活を営むために各自の食生活を見直し、食についての関心を高める。

一般目標 : 1. 各栄養素の性質と役割、及び、各栄養素の代謝過程が理解できる。

2. 各ライフステージに合った栄養のとり方が理解できる。

3. 健康を維持する為に必要な栄養状態を評価する方法が分かる。

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 栄養と代謝	20	生化学的な栄養素の代謝も含め、栄養素の摂取と消化・吸収・代謝・エネルギー生産と消費が結びつく様に学習する。 1. 生体で起きている化学反応 : ①代謝 (同化と異化) ②生体化学反応が進行できる理由 2. 食物の摂取と消化・吸収 (ウィリアムスの生命の輪) 3. エネルギー源となる三大栄養素と主に身体の構成や機能を調整する2大栄養素 (タンパク質の性質 : 分類、構成成分、構造、変性と機能他、糖質の代謝 : 定義、分類と構造、TCA 回路、解糖系、消費と貯蔵の形態、血糖の調整、脂質の代謝 : 種類と化学的性質、代謝、ビタミンとミネラルの種類と役割) 4. 酵素の働きと性質 (定義、特性、種類、反応速度) 5. ライフステージと栄養 : 日本人の栄養所要量、エネルギー所要量、各発達段階の生活活動と栄養の特徴	稲葉 久子
2. 栄養状態評価・判定	10	1. 栄養状態の評価・判定の定義と目的、方法 エネルギー代謝 : 食品と体内のエネルギー、エネルギー代謝測定、エネルギー消費 (基礎代謝、活動代謝他)、臨床診査、身体計測、臨床検査、食事調査 ◎個人の判定方法 (各自の栄養素摂取量の計算演習) 摂取エネルギーの過不足、必須栄養素の不足、国民栄養調査 ※4 群点数法他を利用し、各自が健康な食生活を目指せるように、日常生活の中で使ってみる。	

テキスト : 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③, 医学書院。

科目名：栄養学Ⅱ

1単位：15時間

目的：栄養素の過不足が身体に及ぼす影響を学び、生命力の幅を広げられるように消化吸収力や内臓諸器官の状況に応じた食事内容や食形態のあり方を理解する。

一般目標：1. 食生活と健康障害との関連を知り、健康回復に必要な食事療法の基礎を理解する。
2. 消化吸収力や処理力に応じた栄養と食形態に関する基礎を理解する。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当教員
1. 食と健康	2	1. 食の状態から見た健康レベルの見方 1) 食の観察による健康状態の観察 2) 健康悪化に伴う食変化 3) 回復期の食の留意点 2. 食に影響を与える健康問題 削除	稲葉 久子
2. 疾病と栄養	13	1. 病院食 1) 病院食の意義とその種類 2) 一般食（常食、軟食、流動食） 3) 特別食（成分コントロール食、易消化食、術後食） 4) 検査食（注腸食、乾燥食、潜血食、ヨウ素制限食） 2. 疾患別食事療法 1) 循環器疾患患者の食事療法 2) 消化器疾患患者の食事療法 3) 栄養・代謝疾患患者の食事療法 4) 腎臓疾患患者の食事療法 5) 血液疾患患者の食事療法 6) 食物アレルギー疾患患者の食事療法 7) 骨粗鬆症患者の食事療法 8) 咀嚼・嚥下障害患者の食事療法 9) 術前・術後患者の食事療法 3. 栄養補給法 1) 経腸栄養法 ・経腸栄養法の種類と特徴、使用時の留意点他（経口栄養法、経管栄養法、瘻管栄養法） 2) 静脈栄養法 ・中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法と栄養剤の種類と使用時の留意点 4. 食事提供の実際 嚥下調整食や栄養補給食を用いて、食形態の違いによる食感や味覚を体験し、食事の意義と味わうことの意味について考える機会とする。	

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③，医学書院。
糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版，文光堂。

科目名：病態学総論

1単位：15時間

設定理由

ナイチンゲールは、すべての病気は、その経過のどの時期をとっても、程度の差こそあれ、その性質は回復過程であると、病気を定義づけた。この言葉は、人体の自然治癒力を基にした病気の捉え方である。この考え方を基に、看護師は患者の健康状態をアセスメントし、看護行為が患者の安全や安楽を脅かさずに、回復を促進できなければならない。従って、健康な人体の構造と機能を基に、それが、どのような変化をたどって疾病はつくられていくのか、不都合な身体状況を癒そうとして働いた結果が症状として現われることを踏まえて、その原因や形態的、機能的変化を踏まえた疾病の成り立ちや症状を概略的に学習する必要がある。ここでは、正常な生命活動が異常を来たした状態や診断・治療の総論的な内容を学ぶ機会とする。

目的：体内で生じる病的な状態を医学の分類に基づいた方法でおさえ、異常状態に対する診断・治療・処置やそれに伴う個体の変化などの概略を学ぶ。

一般目標：1. 平常の状態から病気となる身体的変化や異常状態の特徴の概略を理解できる。
2. 病気に対する医療として必要な診断過程や治療についての概略が理解できる。

評価方法：試験（時間内）

単 元	時 間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 生体と変化	15	1. 平常（健康）な状態からの逸脱とその現われ 1) 生体の反応と疾病の要因（内因、外因、生活習慣） 2) 生体の回復過程 神経内分泌の反応、免疫系の反応、代謝系の反応 回復に影響する身体的・心理・社会的要因 3) 個体差と個人の反応 2. 異常状態の特徴 1) 細胞や組織に生じる変化 炎症・受け身の病変（変性、萎縮、壊死とアポトーシス） 循環障害・臓器不全、増殖性の病変（肥大と過形成、再生と修復）腫瘍 2) 異常状態を引き起こす個体側の要件 免疫機構・機能の異常、内分泌・代謝異常、廃用症候群、老年症候群、遺伝子異常、先天異常 3. 異常状態に対する診断 1) 健康な状態からの変化を確認する診断過程 ①健康診断・健康診査 ・問診 ②一般検査と特殊検査 ・身体診察、検体検査 ・生体機能検査、画像検査^{※1}、内視鏡検査 2) 死の三徴候、死の判定 4. 異常状態に対する治療 1) 内科的治療（種類、目的、適応他） 薬物治療（多剤耐性ブドウ球菌感染症、中毒含）、放射線障害^{※2}、安静などの生活療法、栄養療法、対症療法 2) 外科的治療（目的、適応他） 麻酔、手術療法（創傷の治癒過程を含む）、化学療法	阿部 剛典 （13時間） ※1. 2 志賀 智己 （2時間）

テキスト：コアテキスト2 疾病の成り立ちと回復の促進① 総論，医学書院。

科目名：微生物学

1単位：30時間

設定理由

人間は、目に見えない微生物を知らないうちに呼吸・飲食物・血液・創傷を介して体内に取り込みながらも生活を営んでいる。近年、新型インフルエンザの世界的流行やエイズによる感染者数の増加など人間に危害を加えないとされていた細菌も変異して病原性を獲得するような状況がみられている。したがって、健康を維持するためには微生物との付き合い方が必要であり、看護師は微生物についての理解が不可欠である。ここでは、微生物の特徴と生体に及ぼす影響および感染防御などの基礎を学ぶ。

目的：病原微生物に関する特徴を知り、感染症の発生と感染防御を学ぶ。

- 一般目標：1. 微生物の種類とその特徴が理解できる。
2. 微生物が人体に及ぼす影響が理解できる。
3. 感染症の成り立ちと感染防御のしくみが理解できる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 微生物学 総論	4	1. 微生物とは 1) 微生物の種類と生物界における位置 2) 微生物が人体に及ぼす影響 2. 微生物の種類と特徴 細菌・ウイルス・真菌・原虫など	続 佳代
2. さまざまな感染症と病原微生物	16	1. 臓器別、組織別感染症 1) 呼吸器感染症 インフルエンザ 感冒<かぜ症候群> 2) 結核（結核予防を含む） 3) 消化器系感染症 食中毒 腸管出血性大腸菌感染症 4) 肝炎 ウイルス性肝炎 5) 脳・神経系感染症 6) 尿路感染症 7) 性感染症 ヒト免疫不全ウイルス HIV 感染症／後天性免疫不全症候群<AIDS> 8) 発疹性感染症、リケッチア感染症 麻疹 風疹 水痘 9) 皮膚・粘膜の感染症 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌<MRSA> 2. 宿主の因子が影響する感染症 1) 人畜共通感染症 2) 寄生虫感染症 3) 高齢者の感染症 4) 小児の感染症 5) 母子感染	

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
3. 感染症と 防御機 構	10	1. 感染と感染症成立の要因 2. 感染症のおもな分類 3. 微生物の感染経路と潜伏期間 4. 感染に対する生体防御機構 5. 感染の予防 1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法> 2) ワクチン接種・血清療法 3) 滅菌と消毒 6. 医療による健康被害 院内感染、針刺し事故	続 佳代

テキスト：ナーシンググラフィカ 臨床微生物・医動物 疾病の成り立ち③, メディカ出版.

「病態学」科目設定の理由

人々は病気になったとき、それが自身の手には負えなくなった場合、医療の助けを求める。その際、医師は患者に現れた病状の意味を究明し治療方針をたて、看護師は、その状態で過ごす 24 時間の生活の仕方を整えていく。この 2 方向の専門性が発揮されると、疾病からの回復がうまく進む。つまり看護師にとって医学は目の前の患者の健康状態に対する他の専門家の判断・処置を理解しつつ生活調整をしていくために学んでおくことが必要だといえる。

そこで、ここでは看護実践に活かすことができるよう解剖生理学で学習した健康時の常態と病理学総論で学習した診断・治療の総論を基に、各器官系統別に代表的な疾患と検査・治療を学ぶ機会とする。大よそ 9 系統ある器官系統を関連の深い 5 つに分け病態学Ⅰ～Ⅴとした。

科 目 名	単 位 (時間数)	単 元 名
病態学Ⅰ	1 単位 (30 時間)	1. 酸素を供給する呼吸器系の障害 2. 全身へ血を巡らす循環器系の障害
病態学Ⅱ	1 単位 (30 時間)	1. 栄養を消化吸収する機能の障害 2. 体液環境を維持する働きの障害 3. 生命活動を支える血液・造血機能の障害
病態学Ⅲ	1 単位 (15 時間)	1. 生命活動を支える生体防御機能、内分泌代謝系機能の障害
病態学Ⅳ	1 単位 (30 時間)	1. その人らしさをつくり内外の情報を統合する脳の働きの障害 2. 生活をつくり出し行動範囲を拡大する働きの障害 3. 外界を映し出す感覚機能の障害
病態学Ⅴ	1 単位 (15 時間)	1. 女性生殖器系の障害 2. 男性生殖器系の障害

科目名：病態学Ⅰ

1単位：30時間

目的：生命を維持する上で主要な役割を担う器官系の働きが障害された時に生じる疾患の病態生理、診断・治療の概要を学ぶ。

- 一般目標：1. 生命維持に直結する器官系に障害をもつ患者の状態把握ができる基礎知識を習得する。
 2. 呼吸器系、循環器系の代表的な疾患の病態、主要症状を理解する。
 3. 上記器官系の代表的な疾患の診断に必要な検査や治療の概要を理解する。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 酸素を供給する呼吸器系の障害	14	1. 呼吸器系の障害 1) 主な症状と病態生理—咳嗽・喀痰・咯血、チアノーゼ、呼吸困難・呼吸不全、吃逆、呼吸機能の障害による循環機能への影響（肺性心）、体液の調節障害（酸塩基平衡の異常） 2) 代表的疾患の病態生理、症状、検査、治療 ① 気道と肺の疾患：気道・肺の炎症（結核、感冒、肺炎）、気道の閉塞をきたす疾患（気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患）、肺循環障害（肺梗塞、肺塞栓症）、肺の腫瘍（がん、中皮腫）、胸膜・縦隔・横隔膜の疾患	麓 健太郎 （6時間） 佐藤 憲市 （8時間）
2. 全身へ血を巡らす循環器系の障害	16	1. 循環器系の障害 1) 主な症状と病態生理—胸痛、不整脈、浮腫、生命の危機をもたらす症状（ショック、熱中症、脱水、低体温） 2) 代表的疾患の病態生理、症状、検査、治療 ① 心臓の疾患：先天性疾患、虚血性心疾患、心筋症、心不全、不整脈、心内膜炎と弁膜疾患 ② 血管系の疾患：動脈硬化、高血圧症、起立性低血圧、閉塞性動脈硬化、大動脈瘤、控滅症候群、静脈瘤・深部静脈血栓症	瀬尾 善宣

テキスト：系統看護学講座 専門分野 呼吸器 成人看護学②，医学書院。
 系統看護学講座 専門分野 循環器 成人看護学③，医学書院。
 系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院。

目的：生きる上で必要な栄養を消化・吸収する機能、体内の体液環境を維持する機能、生命活動を支える血液・造血機能が障害された時に生じる疾患の病態生理、診断・治療の概要を学ぶ。

一般目標：１． 消化吸収機能、血液・造血機能、内部環境調節機能に障害をもつ患者の状態把握ができる基礎知識を習得する。

２． 消化器系、血液・造血器、腎臓・泌尿器の代表的な疾患の病態、主要症状を理解する。

３． 上記器官系の代表的な疾患の診断に必要な検査や治療の概要を理解する。

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 栄養を消化吸収する機能の障害	16	1. 消化器の機能障害 1) 主な症状と病態生理—嘔気・嘔吐、下痢、便秘、腹痛、腹部膨満、黄疸、吐血・下血、必須栄養素とエネルギー不足・ビタミン欠乏 2) 代表的疾患の病態生理と症状、検査、治療 ① 口腔と食道の疾患：舌がん、逆流性食道炎、食道アカラシア、食道静脈瘤、食道がん ② 消化管の疾患：炎症性疾患（胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症、腸管出血性大腸菌感染症、潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、痔瘻）胃・十二指腸潰瘍、イレウス、胃がん、腫瘍（大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌） ③ 腹壁・腹膜の疾患 ④ 肝臓、胆嚢、膵臓の疾患：炎症性疾患（肝炎、胆のう炎、膵炎）肝硬変、肝不全、腫瘍（肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌）脂肪肝、胆石症 2. 口腔の疾患（齲蝕・歯周病）	野村 亮太 （14時間） 伊藤 忠弘 （2時間）
2. 体液環境を維持する働きの障害	10	1. 体液調節と排尿機能の障害 1) 主な症状と病態生理—脱水、乏尿、無尿、頻尿、浮腫、体液の調節障害（水と電解質の異常、酸塩基平衡の異常） 2) 代表的疾患の病態生理、症状、検査、治療 腎・泌尿器の疾患：腎炎・慢性腎臓病、尿路の炎症、炎症性疾患（腎盂腎炎、膀胱炎）腎・尿路の腫瘍（腎癌、尿管癌、膀胱癌）排尿障害（過活動膀胱、腹圧性失禁、夜尿症）腎不全（臓器移植・再生医療、透析療法）	高橋 州平
3. 生命活動を支える血液・造血機能の障害	6	1. 血液・造血に関わる諸機能の障害 1) 主な症状と病態生理、検査、治療—貧血、出血傾向 2) 代表的疾患の病態生理、症状、検査、治療 造血器の疾患：貧血（鉄欠乏性貧血、巨赤芽性貧血、溶血性貧血、二次性貧血）白血球減少症、出血性疾患（血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固）腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫〈輸血・臓器移植〉）	石渡 規生

- 14 -

科目名：病態学Ⅲ

1単位：15時間

目的：生命活動を支える生体防御機能の障害、内分泌代謝系機能に障害を及ぼす疾患の病態生理、診断・治療の概要を学ぶ。

- 一般目標：1. 生命活動を支える生体防御機能の障害、内分泌代謝系機能の障害をもつ患者の状態把握ができる基礎知識を習得する。
2. 生体防御機能、内分泌代謝系機能に影響を与える代表的な疾患の病態、主要症状を理解する。
3. 上記器官系の代表的な疾患の診断に必要な検査や治療の概要を理解する。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1.生命活動を支える生体防御機能、内分泌代謝系機能の障害	15	1. 内分泌代謝系の機能障害 1) 主な症状と病態生理—全身・神経症状、循環器症状、消化器症状、やせ、肥満 2) 代表的疾患の病態生理、症状、検査、治療 ①内分泌系の疾患：間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎）、副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、多発性内分泌腫瘍 ②栄養バランスの不均衡による疾患：糖尿病、肥満症とメタボリックシンドローム、脂質異常症、尿酸代謝障害（高尿酸血症と痛風）	石渡 規生 （6時間）
		2. 生体防御機能の障害 ＜アレルギー性疾患・自己免疫疾患＞ 1) 主な症状と病態生理—生体防御機構と免疫反応の機序 2) 代表的疾患の病態生理、症状、検査、治療 ①膠原病：全身性エリテマトーデス、シェーングレン症候群、全身性強皮症 ②アレルギー性疾患：花粉症（アレルギー性鼻炎）、蕁麻疹、接触性皮膚炎	御神本 雅亮 （5時間）
		＜感染性疾患＞ 1) 主な症状と病態生理—感染の成立と免疫、呼吸器系、消化器系におこる症状、発熱 2) 代表的疾患の病態生理、症状、検査、治療 ①全身の感染性疾患：ウイルスによる感染性（インフルエンザ、流行性耳下腺炎＜ムンプス＞、麻疹、風疹、エボラ出血熱、コロナウイルス感染症、ヒト免疫不全ウイルス＜HIV＞感染症 ②細菌による感染症（結核、コレラ、破傷風、梅毒） ③菌血症・敗血症（全身性炎症反応性症候群＜SIRS＞急性呼吸促拍症候群＜ARDS＞ ④院内感染（多剤耐性菌感染症）	中村 博彦 （4時間）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 成人看護学⑥，医学書院。

系統看護学講座 専門分野 アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑪，医学書院。

科目名：病態学Ⅳ

1単位：30時間

目的：外界の情報を脳へ伝える感覚機能、その人らしさをつくり内外の情報を統合する脳の機能、生活をつくり出し行動範囲を拡大する機能が障害された時に生じる疾患の病態生理、診断・治療の概要を学ぶ。

一般目標：1. その人らしさをつくり統合する機能障害、生活をつくり出し行動範囲を拡大する運動機能障害、人の再生産・生命の連続性を保つ機能に障害をもつ患者の状態把握が出来る基礎知識を習得する。

2. 脳・神経系、感覚器、運動器系の代表的な疾患の病態、主要症状を理解する。

3. 上記器官系の代表的な疾患の診断に必要な検査や治療の概要を理解する。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. その人らしさをつくり内外の情報を統合する脳の働きの障害	14	1. 脳・神経系の機能障害 1) 主な症状とその病態生理—頭蓋内圧亢進に伴う症状（意識障害・頭痛）、脳死、言語障害、運動障害（麻痺・失調）、感覚の異常、痙攣、睡眠障害、せん妄 2) 代表的疾患の病態生理、症状、検査、治療 ①中枢神経系の疾患：脳血管系の循環障害（脳梗塞、脳内出血、クモ膜下出血、もやもや病）、脳・神経系感染症（脳炎、髄膜炎）、変性疾患・脱髄性の疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症）、認知症（アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症）、脳腫瘍、頭部外傷、二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患 ②末梢神経系の疾患：ギラン・バレー症候群、顔面神経麻痺、自律神経失調症 ③関節筋肉の疾患：筋ジストロフィー、重症筋無力症 ④精神・心身の疾患：不眠症、ナルコレプシー、睡眠時無呼吸症候群	岡 亨治 （6時間） 村上 宣人 （8時間）
2. 生活をつくり出し行動範囲を拡大する働きの障害	8	1. 運動機能の障害 1) 主な症状と病態生理—骨折の分類、骨折治癒、創傷治癒、脱臼、捻挫、圧迫性神経障害 2) 代表的疾患の病態生理と症状、検査、治療 ①中枢神経系の疾患：脊椎の外傷と脊髄損傷 ②骨・関節・筋肉の疾患：骨粗鬆症、骨折（上腕骨下端骨折、大腿骨頸部骨折）、骨の腫瘍（骨肉腫、軟部組織腫瘍）、変形性関節症（股関節・膝関節）、腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）、炎症性疾患（骨・骨髄炎、関節炎）	三上 和雄
3. 外界を映し出す感覚機能の障害	8	1. 感覚機能障害 1) 主な症状と病態生理—皮膚感覚機能の障害、視覚の障害 2) 代表的疾患の病態生理、症状、検査、治療 ①感染症：麻疹、風疹、水痘・带状疱疹、疥癬、蜂窩織炎、脂漏性皮膚炎 ②アレルギー疾患：蕁麻疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、光線過敏症 ③腫瘍および色素異常：色素性母斑、ケロイド、有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫	中村 博彦 （2時間）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
3. 外界を映し出す感覚機能の障害		④活動や行動の制限による疾患：褥瘡 ⑤外因性障害：熱傷、胼胝、鶏眼 ⑥全身に伴う皮膚病変：皮膚筋炎 ⑦眼科疾患：白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症 3) 耳鼻咽喉機能の代表的疾患、病態生理と症状、検査、治療 ①聴覚・平衡覚の障害：突発性難聴、メニエール病 ②嗅覚・味覚の障害：アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、味覚障害 ③咀嚼・嚥下機能の障害：炎症性疾患（咽頭炎、扁桃炎）咽頭・喉頭がん	橋本 雅人 （2時間） 小西 正訓 （4時間）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 脳・神経 成人看護学⑦，医学書院.
系統看護学講座 専門分野 運動器 成人看護学⑩，医学書院.
系統看護学講座 専門分野 皮膚 成人看護学⑫，医学書院.
系統看護学講座 専門分野 眼 成人看護学⑬，医学書院.
系統看護学講座 専門分野 耳鼻咽喉 成人看護学⑭，医学書院.

科目名：病態学V

1単位：15時間

目的：性・生殖機能が障害された時に生じる疾患の病態生理、診断・治療の概要を学ぶ。

- 一般目標：1. 性・生殖機能に障害をもつ患者の状態把握が出来る基礎知識を習得する。
 2. 性・生殖機能および生殖器系の代表的な疾患の病態、主要症状を理解する。
 3. 上記の代表的な疾患の診断に必要な検査や治療の概要を理解する。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 女性生殖器系の障害	13	1. 性・生殖機能の障害 1) 主な症状と病態生理 ① 月経異常（過多月経・月経困難症状）、貧血・不正出血、血性帯下、下腹部痛、外陰部掻痒感、不定愁訴 ② 性欲の減退、性的興奮障害、性交障害、不妊症 ③ 思春期における性的成熟の障害 ④ 加齢による生殖機能や性ホルモンの変化（更年期障害） 2) 代表的疾患の病態生理と症状、検査、治療 ① 子宮筋腫、子宮内膜症、子宮頸癌、子宮体癌、卵管・卵巣疾患 ② 感染症：STD ③ 乳腺の疾患：乳腺炎、乳腺症、乳癌、その他	逸見 博文 岩城 豊 （9時間） 池田 詩子 （2時間） 岡 亨治 （2時間）
2. 男性生殖器系の障害	2	1. 男性生殖器系の障害 1) 主な症状と病態生理 ① 疼痛、腫脹、腫瘍 ② 性欲減退、勃起不全、早漏・遅漏、不妊 2) 代表的疾患の病態生理と症状、検査、治療 ① 性器の疾患（前立腺炎、前立腺肥大） ② 性器の腫瘍（精巣腫瘍、陰茎癌、前立腺癌） ③ 感染症、その他	高橋 州平 （2時間）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 成人看護学⑨，医学書院。
 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 成人看護学⑧，医学書院。

科目名：薬理学

1単位：30時間

設定理由

健康問題を抱えその健康回復の為に医療者の助けを求めて医療機関を訪れる人々に対して、医師が行う治療の重要な部分を占めるのが薬物療法である。生命力の消耗を最小にするよう患者の特殊な生活過程を整える役割をもつ看護師は、診療の補助業務を担い、治療の行為者として薬物を取り扱う機会が非常に多い。しかも、薬物は極微量でも、命に甚大な影響を与える物質である為、看護師は患者の命を守る者として、薬物治療が安全に行われるのに必要な知識を身につける必要がある。ここでは看護師に求められる薬物の基礎知識を学ぶ機会とする。

目的：看護の対象の安全を守り、薬物治療を効果的に実施するための基礎知識を学ぶ。

- 一般目標：1. 薬理作用と人体への影響を理解する。
 2. 薬効に影響する因子を理解できる。
 3. 安全を守る事ができる管理方法や取り扱い上の留意点が理解できる。
 4. 薬の投与経路による吸収、分布、代謝、排泄という薬物動態の仕組みが理解できる。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 看護に必要な薬理学総論	6	1. 医薬品総論 1) 医薬品とは： ①医薬品の分類と取り扱い方法 ②名前、 ③医薬品に関連する法律 ・薬局の種類と機能 ④開発から臨床で使用されるまで 2. 医薬品の作用原理とその影響 1) 薬理作用の原理 2) 体内における薬の動き（薬物動態）：吸収、分布、代謝、排泄 3) 体内の動きに影響を与えるもの ・薬剤の作用・投与量・投与方法による生体への影響、起こりやすい合併症、生活への影響 4) 好ましくない副作用（薬物有害反応） 5) 相互作用 6) 薬害 3. 医薬品の適正な使用に向けて 1) 薬剤使用時の注意点（依存、耐性、中毒と対処、催奇形性、授乳時の移行、小児・妊婦・高齢者への投与） ・医薬品と医療用具の取り扱い ・毒薬・劇薬の取り扱い 2) 医薬品添付書の読み方 3) 処方から投与まで 4) 医薬品の安全対策 ・混合の可否 ・禁忌 ・保存方法 ・薬理効果に影響する要因 ・誤薬	青沼 光映

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
2. 生体における薬理作用と薬物療法	24	- おもな生活習慣病に使用する薬 ・強心薬 ・抗不整脈薬 ・狭心症治療薬 ・降圧薬 ・昇圧薬 ・血液凝固に関係する薬 ・糖尿病治療薬 - がん・痛みに使用する薬 ・免疫抑制剤 ・抗がん薬 ・麻薬 ・消炎鎮痛薬 - 感染症に関する薬 ・抗菌薬 ・抗ウイルス薬 - 脳・中枢神経疾患で使用する薬 ・中枢神経作用薬 - 救命救急時に使用する薬 ・副腎皮質ステロイド ・麻酔薬 ・輸液製剤、血液製剤 - アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬 - 消化器系に使用する薬 - その他の症状に使用する薬	青沼 光映

テキスト：ナーシンググラフィカ 臨床薬理学 疾病の成り立ち②，メディカ出版.

今日の治療薬 2026 年解説と便覧，南江堂.

科目名：病態生理学

1単位：30時間

設定理由

看護は生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることが目的であるから、対象の身体の状態が、生きかつ生活するあり方にどのような影響を及ぼすのかを知ることが不可欠である。つまり、その状態が正常な人体の構造と機能にどのような変化が生じてなぜ起こっているのかを知ることによって予防や苦痛の緩和につながる看護を考えたり、臨床判断を下す根拠となり得るからである。ここでは、健康障害により生じる徴候に着目し解剖生理学及び病態学の基礎知識の活用方法を理解しながら看護の視点で捉えられるように学んでいく。併せて、検査値が示す身体の状態や疾患との関連性を理解し、看護に役立つ基礎知識を学ぶ。

- 目的：1. 病的な状態の身体の中で起きている変化をとらえるための基本を理解する。
2. 看護師としての病気の捉え方を理解し、状態に応じた看護を実践するための基礎的知識を学ぶ。

- 一般目標：1. 血液学検査、生化学検査、尿検査の目的および基準値の基となる生理的意味と疑われる疾患との関連性が理解できる。
2. 健康障害に関する主な症状の仕組みを理解できる
3. 主な症状の仕組みの学びが看護につながることを理解できる
4. 主な症状の理解の為に解剖生理学や病態学などの基礎知識の活用方法が理解できる

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 検査データで読むからだの様子	8	1. 臨床検査とは一医師の診断との関係。臨床検査の目的。臨床検査の種類。正常値とは。単位の意味。正常値のもつ意味 2. 尿と便からわかるからだの情報、その意味と疑われる疾患 1) 尿の検査 2) 便の検査 3. 血液でわかるからだの情報、その意味と疑われる疾患 1) 血液一般検査のデータ 2) 肝臓・胆道・膵臓の機能検査 3) 腎臓の機能検査 4) 脂質代謝と糖代謝の検査 5) 電解質の検査	杉尾 啓徳 (4時間) 荻野 達也 (4時間)
2. 主要症状の病態生理	22	1 主要症状のメカニズム 1) 呼吸困難・チアノーゼ 2) 浮腫 3) 黄疸 4) 吐血・喀血・下血 5) 乏尿・無尿 6) 疼痛（腹痛、胸痛） 7) 不整脈 ※主要症状の定義と特徴、症状出現のしくみ、主な疾患と臨床症状、生活への影響を考える	笠井 真利子

テキスト：系統看護学講座 別巻 臨床検査, 医学書院.

新体系看護学全書 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 , 医学書院.

器官レベルからみるからだ, アノック.

看護のための人間論 ナースが視る人体, 講談社.

看護のための疾病論 ナースが視る病気, 講談社.

「社会保障論」科目設定の理由

人間は誕生から死を迎えるまでの生活の中で個人や家族の力では対処しきれない問題が生じる。そうした問題に対し生活の安定化をはかり最低の生活を保障する国としての公的な社会サービスの存在が欠かせない。看護師は人々の健康状態の好転を目指して生活調整能力を高められるように関わる職業であるため、生活を支える社会保障や社会福祉に関する知識を得ることは必要不可欠である。そこで社会保障論をⅠとⅡに分け、Ⅰでは社会保障制度と社会福祉の法制度に関する概論的内容（歴史と動向を含む）、Ⅱでは社会福祉の援助方法とその実践を学ぶ機会とした。

科目名：社会保障論Ⅰ

1単位：15時間

目的：社会保障と社会福祉の基本的な考え方、仕組み、制度の現状と課題について学ぶ。

一般目標：1. 社会保障の定義、理念、我が国の社会制度の体系とその内容を理解できる。
2. 社会福祉の法制度の歴史的流れやサービス内容の概略が理解できる。
3. 保健、医療、福祉の協働の意義を考える。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1.暮らしと社会保障制度	15	1. 社会保障制度 1) 社会保障の概念、目的、機能—日本国憲法 25 条にみる最低生活の保障と人権、ノーマライゼーション 2) 社会保障の体系と内容 ① 社会保険一定義と特徴、5つの分野と社会保障給付費（医療、年金、労災雇用、介護保険）と我が国の特徴 ② 公的扶助一定義と仕組み、生活保護制度 ③ 社会福祉一定義と事業の種類 ※看護職と関係の深い医療保障、介護保障を重点的に学習する。 2. 社会福祉の法制度 1) 社会福祉の法制度の歴史的流れ 2) 社会福祉サービスの内容とサービス提供の仕組み 3) 社会福祉法と福祉六法 4) 社会福祉の財政 5) 社会福祉の組織と実施体制 6) 社会福祉の従事者と担い手 3. 現代社会と社会保障・社会福祉の動向 1) 現代社会の変化—人口の変化、家族の変化、経済状況と地域社会の変化 2) 雇用情勢の変化 3) 保健医療の動向 4) 社会福祉サービスの動向	磯貝 隆之

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③, 医学書院.
国民衛生の動向 2026/2027, 厚生労働統計協会.

科目名：社会保障論Ⅱ

1単位：15時間

目的：社会福祉の基本を踏まえ、具体的な援助方法とその実践について学ぶ。

一般目標： 1. 現代の日本の福祉の現状を理解できる。
 2. 医療や地域社会の現場で展開される社会福祉の援助方法が理解できる。
 3. 医療・看護・社会福祉の関連を学び、連携の重要性を理解できる。

評価方法：試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 暮らしと社会福祉	15	1. 社会福祉援助とは 1) 援助とは一定義、成立条件 2) 社会福祉援助の法的規定—社会福祉法による規定、社会福祉及び介護福祉による規定 3) 生活の三側面 4) 社会福祉援助技術の分類 2. 個別援助技術（ケースワーク） 1) 生活支援の特徴—目的、長所、短所 2) 生活支援の展開過程—開始段階、アセスメント、援助計画の策定、援助計画の実施、経過評価、終結段階 3) ナラティブ・アプローチ—援助対象としての物語、物語の特徴 3. 集団援助技術（グループワーク） 1) 集団の特性—メンバー間の相互作用、目的に応じた形成 個別性の尊重 2) 集団援助の独自性 3) 集団援助の展開過程—準備期、開始期、作業期、終結期 4. 間接援助技術と関連援助技術 1) 間接援助技術 2) 関連援助技術社会福祉援助の検討課題 5. 社会福祉実践と医療・看護との連携 1) 医療ソーシャルワーカーとは一定義、種類、業務の範囲 2) 医療・看護・福祉の実際—援助する上での留意点、傷病に伴う患者・家族の生活問題 3) 医療機関における連携	磯貝 隆之

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③, 医学書院.

科目名：関係法規

1単位：15時間

設定理由

看護師は人々の健康を守る専門職の一つであり、医師の指示がなくても患者の療養上の世話を行うことができる職種である。それは、高い専門性に基づいた教育がなされ、国家資格をもつだけの力を有しているからである。しかし、看護師の教育制度については未だに様々なものがあり、医師と看護師との関係も対等の専門職の位置付にはない。また、医療の高度化に伴い医療機器の精密化、複雑さなども絡み、看護職が関係している医療事故はヒヤリハットを含めると日常的な問題であり、行政・刑事・民事の三側面から問われる立場にある。ここでは、看護師が関係する法の変遷、法規の側面から看護活動を捉え看護師の法的責任と役割を学習する機会とする。

目的：看護を行う上で必要となる法令とその根拠を学び、看護の役割と法的責任についての理解を深める。

一般目標： 1. 看護業務の遂行および医療提供の根拠を法規の側面から理解できる。
2. 社会の変化に応じて、法律や制度が改正されていることを理解できる。

評価方法： 試験（時間内）

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 看護活動と関連する法規	15	1. 法規の概念と厚生行政のしくみ 2. 医事法 1) 保健師助産師看護師法の構造と特徴 ①目的・定義・免許・養成制度 ②看護の専門性と業務 ③看護業務における責任 2) 看護職と医療・福祉関連職に関する法律 ①看護師等の人材確保の促進に関する法律 ②働く上で必要な法律 労働基準法、育児休業、介護休業、等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 ③看護職と関係の深い職種の法律 医師法、歯科医師法、薬剤師法、診療放射線技師法、臨床検査技師等に関する法律、理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法、社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法、栄養士法 3) 医療機関とサービスの供給体制に関する法律 ①医療法 医療提供施設（病院、診療所、介護老人保健施設、助産所等）の特徴、医療安全、診療記録と情報公開 ②医療計画と医療提供体制 救急医療、在宅医療（地域包括支援センター、訪問看護ステーション） ③薬務法 医薬品と医療機器の取り扱い、毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤等の取り扱い	門間 俊明

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④, 医学書院.
国民衛生の動向 2026/2027, 厚生労働統計協会.

科目名：公眾衛生

1 単位：1 5 時間

設定理由

人間は生存・生活のために様々な交流を図り社会を形成している。現代はグローバル化が進み、人々の行き来はハイスピードで行われ、その結果、風土病となっていた病気も、人の行き来に伴い至る所で発生し、個人や家族の力だけでは健康に生活することは難しい状況になっている。健康を維持するには、個々人がセルフケア能力を高めていくと共に公の力で環境衛生への対策をとることが必要不可欠である。看護師は人々の健康状態の好転を目指して生活調整能力を高められるように関わる職業であるため、人々の健康維持のために行う公的な集団への関わりを知ることは必須である。そこで、ここでは人々の疾病を予防し健康を保持・増進させていくための取り組みや保健活動の概要を学ぶ機会とした。

目的：人々の健康水準の維持向上に取り組み、その人らしい健やかな生活が送れるための社会的システムや保健活動について、歴史的変遷も踏まえて学ぶ。

一般目標： 1. 公衆衛生活動の理念や現代における課題を、歴史的変遷を踏まえて理解できる。
2. 人々の健康を守るための法制度や社会システム、保健活動の内容を理解できる。

評価方法： 試験（時間内）

[illegible]

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度②，医学書院。
国民衛生の動向 2026/2027，厚生労働統計協会。

科目名：リハビリテーション概論

1単位：15時間

設定理由

少子・高齢化、慢性疾患の増加、家族機能の変化、ライフスタイルや価値観の多様化などにより、人々の健康問題は複雑化・多様化してきている。更に医療の質が上がり命を取り留める代わりに様々な障害が残ってしまう人たちも多い。そのような人々の健康支援へのニーズに応じていくことが医療関係者の責務である。そういう中にあって、対象者の生活調整を担当する看護師には、リハビリテーションの基本や関連職種の役割を理解することが求められる。そこで、ここでは、リハビリテーションの基礎や各専門職の役割を学ぶ機会とする。

目的：障害を抱えた人々が健康な生活を送るために必要な専門家の支援を学びチーム医療を担う基礎的力をつける。

一般目標： 1. 障害を抱えた人々の健康支援としてのリハビリテーションの基本を理解できる。
2. リハビリテーションにおける関連職種の役割や活動の実際を理解できる。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容及び学習方法	担当講師
1. リハビリテーション総論	4	1. リハビリテーションの定義と概念 2. 障害者の定義、機能障害と分類 3. リハビリテーション分野と医療システム	野宮 崇生
2. 医療におけるリハビリテーションの実際	11	1. リハビリテーション医療に携わる主な関係職種 1) リハビリテーション関係職種の役割 (看護職との関係を意識して) ① 医師、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、視能訓練士、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士 2. 障害に対する受容と適応、社会参加への支援 (理学療法、作業療法、言語聴覚療法に焦点を当てて) 1) リハビリテーションのプロセス、各種計画書 2) 生活機能障害の観察と評価：(ADL、IADL/FIM、関節可動域測定、徒手筋力検査、心理・認知機能の評価、言語機能の評価) 3) 社会資源の活用（補助具・自助具の活用など） 4) 廃用症候群の予防 3. 機能障害別リハビリテーションの概要 ① 脳神経系の障害（言語障害、摂食・嚥下障害を含む） ② 運動器系の障害	

テキスト：ナースング・グラフィカ リハビリテーション看護 成人看護学⑥，メディカ出版。

科目名：総合医療論

1単位：15時間

設定理由

人間の一生は24時間の生活の連続であり、その過ごし方の中に健康を脅かす力を大きくしたり生物に備わっている自然力を小さくしたりする要因がある。つまり、人間はその生きる過程の中で病んだり傷ついたりして個人の対応能力を超える事態が生じた時に医療や看護と関わるといえる。看護は対象の持てる力を発揮できるように関わる仕事であるから、ともすれば医療者中心となりがちな医療の現状と課題を、受け手を主体とした視点で捉え、その中に存在する生命倫理や人権擁護の問題と看護師の役割やその働きかけを考えることが必要である。そこで患者の側に立った捉え方から現代医療の現状や課題を学び、対象の価値観や意思を尊重するとはどのような事かを考える機会とした。

目的：医療を総合的に捉え、現代医療の現状と課題を理解し、看護として何をなすべきか、広い視点で見渡せる力を養う。

一般目標： 1. 医療を取り巻く諸問題や患者の権利と擁護について理解できる。
2. 専門職業人として、患者を尊重するための倫理・規範について考えられる。

評価方法： 試験（時間内）

単 元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 現代医療と倫理	15	1. 医療倫理 1) 医療倫理とは 2) インフォームドコンセントとQOL 3) 医療事故と患者の権利 4) 個人情報保護と情報開示 5) 生殖医療、脳死と臓器移植 6) 遺伝学の発展と倫理的問題 7) 告知に関わる問題、終末医療 2. 現代医療における諸問題 1) 現代医療における倫理 2) バイオエシックス 3) 先端医療と諸問題 3. 医療における患者の権利 4. 医療現場が抱えるさまざまな問題 1) 映画を題材に、医療者、患者のそれぞれの立場から現代医療の現状や課題を捉える。 2) グループワークをとおして、人間心理を理解するとともに専門職業人としての倫理・規範を考える。	高橋 州平 (11時間) 笠井 真利子 (4時間)

テキスト：系統看護学講座 別巻 医療概論，医学書院。
国民衛生の動向 2024/2025，厚生労働統計協会。

<構築の考え方>

基礎看護学は、看護を学ぶ起点に位置づけられ、各看護学の基盤となる考え方や知識、技術を学ぶ。基礎看護学では、「看護とは何か」の本質的な学習にはじまり、看護の対象として、地域で暮らす生活者として理解し、看護の歴史、職業人としての看護師の役割、倫理面や看護理論、看護実践のための知識・技術・展開方法、看護者としての態度などの基礎的な能力を養う。

科目名	単位数 (時間数)	単元名
看護学概論Ⅰ	1単位 (30時間)	1. 看護の目的論 2. 看護の対象論 3. 看護の方法論
看護学概論Ⅱ	1単位 (20時間)	1. 看護理論 2. 看護倫理
共通技術Ⅰ	1単位 (15時間)	1. 感染予防 2. 安楽
共通技術Ⅱ	1単位 (30時間)	1. 認識に働きかけるコミュニケーション技術 2. 記録・報告 3. 指導技術
共通技術Ⅲ	1単位 (30時間)	1. フィジカルアセスメントの基本 2. 系統的なフィジカルアセスメント
生活援助技術Ⅰ	1単位 (30時間)	1. 食事 2. 排泄
生活援助技術Ⅱ	1単位 (30時間)	1. 清潔・衣生活
生活援助技術Ⅲ	1単位 (30時間)	1. 運動と休息 2. 労働・性・環境
診療の補助技術Ⅰ	1単位 (30時間)	1. 診察・検査に伴う看護 2. 治療・処置に伴う看護
診療の補助技術Ⅱ	1単位 (30時間)	1. 治療・処置に伴う看護
臨床看護総論Ⅰ	1単位 (15時間)	1. 健康の段階と看護
臨床看護総論Ⅱ	1単位 (30時間)	1. 看護技術の患者への適用
看護過程	1単位 (30時間)	1. 看護過程とは 2. 科学的看護論での看護過程展開演習

科目名：看護学概論Ⅰ

1単位：30時間

目的：看護の基本となる概念をナイチンゲールの考え方から学び看護実践の基盤となる考え方を養う。

一般目標： 1. 看護を構成する概念として対象となる人間、病気を含めた健康および環境の捉え方を理解し、看護の目的から看護を実践していく際に必要な考え方がわかる。
2. 保健医療福祉チームの協働における看護師に期待される役割がわかる。

評価方法： 試験（時間内） 実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 看護の目的論	6	1. 看護の定義 ・ ナイチンゲールの定義を中心に、ICN、日本看護協会等を確認する。 ・ 保健師助産師看護師法と看護師 2. 専門職としての看護師 ・ 専門職とは（定義、専門職の起源） ・ ナイチンゲールが看護職を一生の仕事に選んだ経緯他 3. 人間生活に対応する看護 ・ 人間の一生と看護 ・ 看護は生活に密着した専門職 ・ 看護の三原則と看護倫理 ※ ナイチンゲールの看護一般論を理解できるように、それを構成する「生命力」「生活過程」とは何か、「整えるとはどうすることか」など、「看護覚え書」ナイチンゲール看護論が基になっている「科学的看護論」他を用いながら、事例を使って学習する。	笠井 真利子
2. 看護の対象論	10	1. 看護に必要な人間、健康、環境のとらえ方 ・ 生物体・生活体の統一体である人間 ・ 人間生活の構造と健康の法則 健康とは、健康に影響を与えるもの、ライフサイクルと健康、生活と健康との関係、ナイチンゲールの健康・病気のとらえ方、毒され群・相互影響群・衰え群と看護の働きかけの方向性	
3. 看護の方法論	14	1. 看護師に必要とされる技術とは ・ 看護観と看護技術の関連（技術の定義、種類他） a. 実体に働きかける技術 b. 認識に働きかける技術 c. ナイチンゲールの三重の関心の注ぎ方 ・ 看護過程の定義、必要性、構成要素 2. 看護の機能と役割を支える仕組み ・ 看護活動の場の特徴と求められる役割 ・ 保健医療福祉の連携－看護の対象を取り巻く他職種の役割と看護師に求められる役割 3. 病院見学	

テキスト：看護覚え書 改訂第7版，現代社。

新装版 科学的看護論 第3版，日本看護協会出版会。

看護のための疾病論 ナースが視る病気，講談社。

新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論，メヂカルフレンド社。

科 目 名： **看護学概論Ⅱ**

1 単位：20 時間（実質 21 時間）

目 的： 看護学の基盤である看護理論について学ぶ。ナイチンゲールの看護の考え方を基に実践活用につながる看護理論の必要性や枠組みを学び、看護理論家たちの理論の概観を知る。また、看護師として必要な看護倫理について学ぶ。看護場面で対象の危機状況に接する際に求められる役割やその際に生じる葛藤などの倫理的課題解決に向けた行動の基準や原則を学び、専門職業人としての意識を高める。

- 一般目標：
1. 看護理論の概念と看護理論を構成する要素を理解する。
 2. 各理論家の特徴が理解できる。
 3. 看護における倫理と患者の権利擁護について理解できる。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 看護理論	13	1. 看護の歴史と発展 1) 職業としての看護の誕生と歴史的背景 2) 職業的看護の発展 3) 看護学の発展 2. 看護理論の基礎的知識 1) 看護理論とは 2) 看護理論を使う意義 3) 看護理論の分類と枠組み（主要概念） 3. 様々な看護理論の概要 1) 看護理論の歴史的背景とその特長 理論材料、影響を受けた人物や理論、看護理論の骨格に書かれている概念や命題 2) 看護理論家の考えを概観する バージニア・ヘンダーソン、ドロテア・E・オレム、ジョイス・トラベルバー、シスター・カスタ・ロイ、ヒルデガート・E・ペップロウ、ジーン・ワトソン、マサ・ロジャーズ、アイダ・ジーン・オランダ、アーネステイン・ウィーデンバック、マージョリ・ゴートン他 ※各理論家の理論概要と特徴について講義とグループ学習・発表を通して学ぶ。	笠井 真利子
2. 看護倫理	8	1. 看護職と倫理 1) 看護倫理とは 2) 職業倫理としての看護倫理 3) 看護倫理と患者の権利擁護 4) 看護における価値の対立（ジレンマ） ※ 看護職の倫理綱領（日本看護協会，2021）を使い、事例を基にグループワークを行い、臨床場面における看護学生としての姿勢・態度について考える。	

テキスト：新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論，メヂカルフレンド社。

科目名： 共通技術Ⅰ

1単位: 15時間

- 目的： 1. 感染予防の意義を理解し、感染予防のための基本的技術を身につける。
2. 安楽を確保するための援助技術の基本を学ぶ。

- 一般目標： 1. 感染予防の意義と医療場面における感染予防対策を理解する。
2. 清潔と不潔の概念を理解し、感染予防のための取り扱いができる。
3. ボディメカニクスの原理と安楽を確保するための援助方法を理解する。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 感染予防	11	1. 感染予防の意義と感染予防策の基礎知識 ・感染の成立と予防 2. 標準予防策<スタンダードプリコーション> 3. 感染経路別予防対策 ・接触感染、飛沫感染、空気感染 4. 感染拡大の防止の対応 5. 感染を予防するためのプロセス 1) 微生物を伝播させないための技術 ・手洗いの方法 ・無菌操作 ・隔離法・環境管理 ・医療廃棄物の処理、感染性廃棄物の取り扱い ・針刺し事故防止（切創の防止を含む） 2) 感染源を死滅・減弱させるための技術 ・滅菌方法と消毒方法 3) 宿主の抵抗力を増強させるための技術 ・感染症予防 演習 ・衛生的手洗い ・個人防護用具の着脱方法 ・無菌操作 ・滅菌手袋の着脱方法	後藤 道子
2. 安楽	4	1. 安楽を確保するための技術 1) 安楽の概念と阻害因子 2) 安楽な体位の保持 3) ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 4) 安楽を提供するための援助 ・身体的ケアを通じてもたらされる安楽 ※マッサージの演習は生活援助技術Ⅱで行う	佐藤久美子

テキスト： 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社。
看護がみえる Vol① 基礎看護技術，メディクメディア。

科 目 名： 共通技術Ⅱ

1 単位: 3 0 時間

- 目 的： 1. 看護実践のための基本となる人間関係形成のための基礎的な力を身につける。
 2. 情報を共有し、看護の継続性とチーム医療のための記録・報告の意義がわかり、その方法を身につける。
 3. 看護における教育的機能を理解し、対象の行動変容をもたらす指導技術の基本を身につける

- 一般目標： 1. 対象の認識に働きかける技術としてのコミュニケーションの意義がわかり、円滑な人間関係を形成し、認識を発展させるためのコミュニケーション技術を理解する。
 2. 看護における記録・報告の意義とその方法を理解する。
 3. 看護における教育的機能を理解する。
 4. 対象の認識に働きかける指導技術の基本がわかる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 認識に働きかけるコミュニケーション技術	1 4	1. 看護におけるコミュニケーション 1) コミュニケーションの目的と構成要素 ・言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション 2) コミュニケーションのプロセスに影響する要因 3) コミュニケーションを高める技術 ・コミュニケーションの基本的な技法 ・面接技法 2. コミュニケーションに障害がある人々への対応 3. 認識の基礎的理解 1) 認識とは何か ・認識の位置と構造 2) 認識の発展とは ・認識の「のぼりおり」を媒介するきっかけ言葉 3) 対象の認識そのものに働きかける技術とは ・観念的迫体験とは ・患者の認識に裏付けされる経験知の辿り方 4. 演習 1) 紙上事例の患者の行動(言動含む)はどんな認識から生じているかをアセスメントする。 2) 患者にどのような対応（コミュニケーション）を図るかグループワークで検討する。 3) 対象に働きかける具体的なコミュニケーション技術とは	若松 奈津子 (14 時間)
2. 記録・報告	1 0	1. 記録 1) 看護記録に関する法的規定 2) 看護記録の目的と意義 3) 看護記録の構成要素 ①基礎情報 ②問題リスト③看護計画 ④経過記録 ⑤看護サマリー ⑥クリニカルパス 4) 看護記録の記載基準 ①記載時の留意点 ②医療事故発生時の記録 5) 看護記録および診療情報の取り扱い 6) 看護学生の医療情報管理	木田 妙 (16 時間)

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		2. 報告 1) 報告の意義 2) 良い報告の条件	
3. 指導技術	6	1. 看護における教育的機能 1) 健康教育の重要性と目的 2) 患者と家族のセルフケア支援 2. 指導技術の基本 1) 成人の学習の特徴 2) コンプライアンス・アドヒアランス・コンコーダンス 3. 指導の対象者と領域 4. 指導の進め方 1) 個人指導 2) 集団指導	

テキスト：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社.
 看護がみえるV o l ①基礎看護技術，メディックメディア.
 新装版 科学的看護論 第3版，日本看護協会出版会.

科 目 名： 共通技術Ⅲ

1 単位：30 時間

目 的： 1. 対象の健康状態を把握するために必要な、根拠に基づいた的確かつ系統的なフィジカルアセスメントの知識と技術を身につける。

- 一般目標： 1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解する。
 2. 生命を維持する過程を整えるための観察の視点とアセスメントに必要な知識を理解する。
 3. 一般状態を観察するために必要なバイタルサイン測定および身体計測の技術を身につける。
 4. 系統的なフィジカルアセスメントに必要な基本技術を理解する。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. フィジカルアセスメントの基本	18	1. フィジカルアセスメントの概念 2. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 3. 生命体の特性 4. フィジカルアセスメントの基本技術 問診とフィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診） 5. 一般状態のアセスメント 1) バイタルサインの観察 (1) 循環 ・脈拍・血圧調整のメカニズムと影響因子 ・循環の観察の視点 ・脈拍・血圧の測定方法 (2) 呼吸 ・呼吸調整のメカニズムと影響因子 ・呼吸の観察の視点 ・呼吸測定の方法 (3) 体温 ・体温調整のメカニズムと影響因子 ・体温の観察の視点 ・体温測定の方法 (4) バイタルサイン測定値のアセスメント ・基準値の逸脱と循環・呼吸・体温の関連 ・体温調整機能を高める援助（冷罨法・温罨法） 2) 身体計測 ・目的と意義、計測の方法、計測結果の評価 演習 バイタルサイン測定 身体計測 ※罨法の演習は臨床看護総論Ⅱにおいて実施	山下 史
2. 系統的なフィジカルアセスメント	12	1. 循環器系 1) 中心静脈圧の推定 2) 心尖拍動の触知 3) 心音の聴診 2. 呼吸器系	

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		1) 胸郭の可動性 2) 呼吸音の聴診 3. 脳・神経系 1) 意識状態の観察と評価 2) 瞳孔および対光反射 3) 麻痺のスクリーニング 4. 消化器系、その他 1) 腸蠕動音・血管雑音の聴診 2) 腹部（肝臓、腎臓を含む）触診、打診 3) リンパ節と甲状腺の観察 演習 問診とフィジカルイグザミネーション	

テキスト： 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社.
新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社.
看護がみえるV o l ①基礎看護技術，メディクメディア.
看護がみえるV o l ③フィジカルアセスメント，メディクメディア.

科 目 名： 生活援助技術Ⅰ

1単位: 30時間

- 目 的： 1. 生活習慣を獲得し発展させる過程（食事・排泄）をととのえるための基礎的知識を理解する。
2. 食事・排泄をととのえるための援助方法を理解し、対象に安全・安楽な援助を実践するための援助技術を身につける。

- 一般目標： 1. 人間にとっての食事・排泄の意義を理解する。
2. 食事・排泄の援助を導き出すための観察の視点とアセスメントに必要な知識を理解する。
3. 対象の状態に合わせた安全・安楽な食事・排泄の援助技術を身につける。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 食事	12	1. 人間にとっての食事の意義 2. 看護における食事の考え方 栄養を摂り込む 食を味わう 3. 食事のしくみ 1) 咀嚼・嚥下にかかわる器官と機能 2) 食物を摂り込み、消化する過程としくみ 4. 食事のアセスメントに必要な知識 対象の状態に合わせた援助内容の検討 5. 食事援助の方法と留意点 1) 安全な姿勢と体位 2) 観察項目 6. 口腔ケアの方法と留意点 演習：食事介助 口腔ケア	田中亜由美
2. 排泄	18	1. 人間にとっての排泄の意義 2. 看護における排泄の考え方 排泄欲求 人間のもつ感情への関わり 3. 排泄のしくみ 1) 排尿と排便にかかわる器官と機能 2) 消化された食物を吸収・排泄する過程としくみ 4. 排泄のアセスメントに必要な知識 対象の状態に合わせた援助内容の検討 5. 自然排尿と自然排便の援助の方法と留意点 1) 安定した姿勢と体位 2) 観察項目 6. 排泄障害のある患者の援助 1) 浣腸 摘便 2) 導尿 膀胱留置カテーテル 演習：排便・排尿の援助（ポータブル・便器の挿入） おむつ交換 陰部洗浄 ※ 敵便の演習は臨床看護学総論Ⅱで行う ※ 浣腸の演習は臨床判断Ⅱで行う ※ 導尿、膀胱留置カテーテルの挿入・管理は診療の補助技術Ⅱで行う	

テキスト： 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社。
看護がみえるV o l ① 基礎看護技術，V o l ② 臨床看護技術，メディックメディア。

科 目 名： 生活援助技術 II

1 単位: 30 時間

- 目 的： 1. 生活習慣を獲得し発展させる過程（清潔・衣生活）をととのえるための基礎的知識を理解する。
2. 清潔・衣生活をととのえるための援助方法を理解し、安全・安楽な援助を実践するための援助技術を身につける。
- 一 般 目 標： 1. 人間にとっての清潔・衣生活の意義を理解する。
2. 清潔・衣生活における援助を導き出すための観察の視点とアセスメントに必要な知識を理解する。
3. 対象の状態に合わせた安全・安楽な清潔と寝衣交換の援助技術を身につける。

評 価 方 法： 試験（時間外）

実務経験の有無：有

単 元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
2. 清潔・衣生活	30	4. 人間にとっての清潔の意義 5. 看護における清潔の考え方 3. 清潔のアセスメントに必要な知識 1) 皮膚・粘膜の機能と役割 2) 清潔が身体に及ぼす影響 3) 対象の状態に合わせた援助 4. 人間にとっての衣生活の意義 5. 衣生活のアセスメントに必要な知識と実際 1) 衣服の条件と被服気候 2) 体位・肢位・関節の特徴に留意した寝衣交換 3) 寝衣交換 6. 援助の分類別における方法と留意点 1) 入浴・シャワー浴 2) 手浴・足浴 3) 清拭 4) 洗髪 5) 整容・爪切り 6) 寝衣交換 7. 精神的安寧を保つための援助 演 習：入浴・シャワー浴の介助 手浴・足浴 清拭 洗髪 整容・爪切り 寝衣交換 マッサージ ※口腔ケアの講義、演習は生活援助技術Ⅰ「食事」の単元で行う ※陰部洗浄の講義、演習は生活援助技術Ⅱ「排泄」の単元で行う	谷内桂子

テキスト： 新体系看護学全書 基礎看護技術② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社
 新体系看護学全書 基礎看護技術③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社
 看護がみえるV o l ① 基礎看護技術，メディックメディア

科 目 名： 生活援助技術Ⅲ

1 単位：30 時間

- 目 的：
1. 生活習慣を獲得し発展させる過程（運動・休息）と社会関係を維持発展させる過程（労働・性・環境）をととのえるための基礎的知識を理解する。
 2. 運動・休息をととのえるための援助方法を理解し、安楽な援助を実践するための援助技術を身につける。
 3. 安全・安楽な療養環境をととのえるために必要な援助技術を身につける。

- 一 般 目 標：
1. 人間にとっての運動・休息、労働・性・環境の意義を理解する。
 2. 運動・休息における援助を導き出すための観察の視点とアセスメントに必要な知識を理解する。
 3. 移動に介助を要する対象の移動・移送を安全・安楽に実施するための援助技術を身につける。
 4. 労働・性・環境における援助の必要性を導き出すための観察の視点とアセスメントに必要な知識を理解する。
 5. 療養環境をととのえるための援助技術を身につける。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 運動と休息	16	1. 人間にとっての運動と休息の意義 1) 運動の意義 2) 休息・睡眠の意義 2. 運動・休息のアセスメントに必要な知識 1) 生体リズムと運動と休息のバランス 2) 運動の援助に必要な専門的知識 3) 休息・睡眠の援助に必要な専門的知識 4) レクリエーション 5) 休息・睡眠に影響する要因のアセスメント （安楽な姿勢・体位の保持と身体への影響） 6) 体位変換（床上移動と体位変換） 3. 運動・休息の援助技術 1) 安楽を保持するための援助技術 2) 筋力低下により介助を要する患者の援助 演習 体位変換 安楽な体位の調整 歩行介助 車椅子の移乗・移送 ストレッチャーの移乗・移送	紺谷 泉
2. 労働・性・環境	14	1. 労働 1) 人間にとっての労働の意義 2) 労働の観察の視点 3) 労働のアセスメントに必要な知識 4) 看護者としての基本的な姿勢 ＊科学的看護論を使用して学習する 2. 性 1) 人間にとっての性の意義 2) 性の観察の視点	佐藤 久美子

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		3) 性のアセスメントに必要な知識 4) 看護者としての基本的な姿勢 *科学的看護論を使用して学習する 3. 環境 1) 人間にとっての環境の意義 2) 療養環境の観察の視点とアセスメントに必要な知識 ・共有スペース、居住スペース（病室・病床） 3) 療養環境をととのえるための援助 ・安全・安楽をととのえるための療養環境の調整と整備 ・ベッドメイキング ・リネン交換 演習 リネン交換（ベッドメイキング含む）、環境整備 ※ 臥床患者のリネン交換は、臨床看護総論Ⅱで行う	

テキスト：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社.
新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社.
新装版 科学的看護論 第3版，日本看護協会出版会.
看護がみえるV o l ① 基礎看護技術，メディックメディア.

科目名：「診療の補助技術Ⅰ」

1 単位：30 時間

目的： 診察・検査・治療・処置を受ける患者の不安や苦痛への援助の必要性を理解し、安全・安楽に診療補助技術を実践するための知識と技術を身につける。

一般目標： 1. 診察・検査・治療・処置における看護師の役割を理解する。
2. 診察の介助方法及び検査に伴う看護技術を理解する。
3. 治療・処置に伴う看護の基礎的な知識を理解し、安全・安楽な援助技術を身につける。

評価方法：試験（時間外）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 診察・検査に伴う看護	10	1. 診察・検査を受ける患者の心理 2. 診察・検査における看護師の役割 3. 診察の介助方法 4. 検査に伴う看護 1) 排泄物の検査 ①尿 ②便 ③喀痰 2) 体液・組織の検査 ①血液検査 ②穿刺液の検査 ③分泌物機能検査 ④組織検査・生検・細胞診 演習：静脈血採血、検体の取り扱い 3) 生体検査（放射線検査の実際^{※1}） ① X線検査 ② X線断層撮影 ③ MRI 検査 ④ 血管造影 ⑤ 内視鏡検査 ⑥ 超音波検査 ⑦ 心電図検査 ⑧ 脳波検査 ⑨ 核医学検査 他	若松 奈津子 ※1 志賀 智己 (2 時間)
2. 治療・処置に伴う看護	20	1. 経管・経腸栄養法 1) 経鼻胃チューブの挿入 2) 経管・経腸栄養法による流動食の注入 演習：経鼻胃チューブの挿入と流動食の注入 2. 酸素吸入療法 1) 酸素吸入療法の概要 2) 酸素吸入療法の方法 ①酸素吸入用具の種類 ・酸素ボンベの操作・管理 ・中央配管システム 演習：酸素吸入療法、酸素ボンベの操作・管理 3. 与薬 1) 与薬に関する基礎知識 ①薬物療法の理解（血液製剤は診療補補助Ⅱで実施） ・薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、抗悪性腫瘍薬を含む）、演習は診療補補助Ⅱで実施 ②薬物療法における看護師の役割 ③薬物療法を受ける患者の援助 2) 経口与薬法 3) 外用薬の皮膚・粘膜適用 ①口腔内与薬 ②直腸内与薬 ③皮膚用製剤の塗布、貼付 ④点眼・点入 ⑤吸入 4) 注射法	

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		①注射法の基礎知識 ②皮下注射・皮内注射・筋肉内注射・静脈内注射 ・点滴静脈内注射 演習：・経口薬・外用薬・坐薬の投与 ・皮下注射・筋肉内注射	

テキスト：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社.
 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社.
 看護のための人間論 ナースが視る人体，講談社.
 看護がみえる Vol ①，基礎看護術 メディックメディア.
 看護がみえる Vol ②，臨床看護技術 メディックメディア.

科目名：「診療の補助技術Ⅱ」

1単位：30時間

目的：治療・処置を受ける患者の不安や苦痛への援助の必要性を理解し、安全・安楽に診療補助技術を実践するための知識と技術を身につける。

一般目標：1. 治療・処置に伴う看護の知識・技術を理解する。

2. 治療・処置に伴う看護を安全・安楽に実践するための技術を身につける。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 治療・処置に伴う看護	30	1. 創傷管理 1) 創傷の観察 2) 創傷処置 ① 創洗浄、創保護、包帯法 ② ドレーン類の挿入部の処置 2. 輸液・輸血管理 1) 輸液・輸血の種類と取り扱い方法 2) 輸液の管理方法 ① 静脈路確保・点滴静脈内注射 ② 輸液ポンプ、シリンジポンプの操作・管理 ③ 副作用（有害事象）観察 ④ 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策 ⑤ 針刺し事故の防止・事故後の対応 3) 輸血の管理方法 ① 輸血療法の基礎知識 ② 輸血療法の方法 ③ 副作用（有害事象）観察 3. 排泄に関する処置 1) 一時的導尿、膀胱留置カテーテルの挿入目的、方法 2) 膀胱留置カテーテルの管理 演習：・包帯法、創傷処置、ドレーン類の挿入部の処置 ・静脈路確保 ・輸液ポンプ、シリンジポンプの操作・管理 輸血の管理 ・毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む薬剤の管理 ・人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策 ・膀胱留置カテーテルの挿入、管理 *創傷管理のうち褥瘡予防ケアの講義は老年看護学Ⅲで、演習は臨床判断Ⅱで行う *薬剤の管理の講義は診療の補助技術Ⅰで行う *一時的導尿の演習は看護実践で行う	上坂 真規子 渡辺 唯 (30時間)

テキスト：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社。
新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社。
看護がみえる Vol①基礎看護技術，メディックメディア。
看護がみえる Vol②臨床看護技術，メディックメディア。

科 目 名 : **臨床看護総論 I**

1 単位: 1 5 時間

目 的 : 健康障害時に求められる看護の共通性を理解し、健康の段階に応じた看護の基本を学ぶ。

- 一 般 目 標 :
1. 臨床看護における看護師の役割を理解する。
 2. 健康の段階の種類と各段階の特徴を理解する。
 3. 健康の段階に応じた対象のニーズを知り、必要な看護を理解する。

評 価 方 法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 健康の段階と看護	1 5	1. 臨床看護とは 1) 臨床看護における看護師の役割 2. 健康の段階とは 1) 健康の段階 (健康状態) の分類 2) 健康状態の理解と看護 3. 急性期にある患者の看護 1) 急性期の特徴 2) 急性期にある患者・家族のニーズ 3) 急性期にある患者と家族の看護 ・危機状態への支援 ・治療の緊急度と優先度、治療選択・意思決定への支援 ・代理意思決定支援 4. 回復期にある患者の看護 1) 回復期の特徴 2) 回復期にある患者・家族のニーズ 3) 回復期にある患者・家族の看護 ・リハビリテーションにおける看護師の役割 ・日常生活動作<ADL>・活動範囲の拡大に向けた援助 ・心理的葛藤への援助 (障害の受容過程への支援) ・多職種連携 5. 慢性期にある患者の看護 1) 慢性期の特徴 ・慢性疾患の特徴、慢性疾患の動向 2) 慢性期にある患者・家族のニーズ 3) 慢性期にある患者・家族の看護 ・治療選択・意思決定への支援 ・症状のマネジメント ・治療や療養の継続的な支援と連携 ・セルフケア・自己管理を促進する看護 6. 終末期にある患者の看護 1) 終末期の特徴 ・緩和ケア ・エンドオブライフケア ・治療中止や療養の場の移行に対する意思決定支援 ・アドバンスケアプランニング (ACP) 2) 終末期にある患者と家族のニーズ ・死にゆく患者のプロセス (死の受容) 3) 終末期にある患者の看護 ・症状アセスメントとマネジメント ・全人的苦痛のアセスメントとマネジメント	紺谷 泉

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		4) 家族への支援 ・ 家族の悲嘆へのケア、代理意思決定支援 ※事例を用いて学生が各健康の段階にある患者の状況を具体的にイメージでき、身体面・心理面・社会面においてどのようなサポートを必要としているかを考えられるように教授する。	

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論, 医学書院.

科 目 名： 臨床看護総論Ⅱ

1単位: 30時間

目 的： 基礎看護学で学んだ看護技術を統合し、患者が必要としている援助技術を適用する方法を学ぶ。

一 般 目 標： 看護技術の基礎的知識や技術が看護実践のなかでどのように統合されているか理解でき、健康障害をもつ事例患者に必要な看護を考え、実施できる。

評 価 方 法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 看護技術の患者へ適用	30	1 看護技術の患者への適用と個別性の看護 1) 看護技術の特徴 2) 看護技術を適切に実践するための要素 3) 看護技術の統合 2 患者に必要な援助の実施 1) 事例に基づき、援助内容を考える 2) 演習レポート作成 3) 実施 4) 振り返り *既習看護技術を統合させ、事例に応じた援助を実施する 演習：臥床患者のリネン交換 寝衣交換 摘便 褥瘡法 ※講義は共通技術Ⅲで行う *グループ学習を通して学ぶ	谷内 桂子

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学④，医学書院.
看護がみえるV o l ① 基礎看護技術，メディックメディア.
看護がみえるV o l ② 臨床看護技術，メディックメディア.
新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ， メジカルフレンド社.

目 的 : 科学的根拠に基づいた看護を展開するための思考過程を学ぶ。

- 一般目標 : 1. 看護過程の必要性と構成要素が理解できる。
2. 問題解決的アプローチによって看護を実践するための思考過程がわかる。

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 看護過程とは	2	1. 看護過程の定義 2. 看護過程の必要性 3. 看護過程の構成要素 ・アセスメント ・看護診断 ・計画立案 ・実施 ・評価 ＊ 代表的な看護過程のモデルを通して学ぶ。	後藤 道子
2. 科学的看護論での看護過程展開演習	28	<三重の関心>から看護実践へ 1. 科学的看護論の方法論との接点 紙上事例について科学的看護論を用いて展開する。 1) 第1の関心 ・全体像モデル ・立体像モデル ・対象特性 ・回復するための必要条件 ・日常生活の規制 2) 第2の関心 ・生活体の反応をとらえる (観念的迫体験: 立場の変換) 3) 第3の関心 ・看護上の問題をさぐる ・目標の立案 ・目標の具体化 ・評価 ・プロセスレコード ＊ ナイチンゲール看護論を実践に移すための方法としての科学的看護論を理解する。 ＊ 紙上事例を用いて教授する。	

テキスト : 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I, メヂカルフレンド社.
 何が なぜ 看護の情報なのか, 日本看護協会出版会.
 新装版 科学的看護論 第3版, 日本看護協会出版会.

<構築の考え方>

我が国は諸学国に類を見ないスピードで少子高齢社会に突入し、社会保障の観点からも地域包括ケアシステムの推進など対策が急務である。そのような中、地域・在宅看護に求められる役割はますます増加し続けている。

地域看護とは、地域で生活している人々の健康と生活の質を高めるための支援を看護の立場から行うことであり、地域で展開される看護活動である。地域における看護活動はその時代の社会における政治・経済・文化に大きく左右される流動的な面をもちながらも常に地域住民の健康を念頭に多様なニーズに対応した活動が求められる。地域看護の対象は、「地域で暮らすあらゆる人」であり、その中でも看護師が行う地域看護の対象は、個人およびその家族である。

地域・在宅看護論では、暮らしの意味を「地域社会の中に存在し、個人の価値観や生き方が反映し、環境に影響され、変化するもの」とし、その中に「生活」があると捉えた。

その中で在宅看護は、疾病や障害を持ちながら在宅療養を望む、または在宅療養が適切と判断された患者と家族が、自己決定に基づき、より自立（自律）した生活が送れるよう QOL の維持・向上をめざしている。在宅看護での対象者は、小児期から老年期まで年齢や疾病・傷害の種類、程度を問わず幅広い。そのため、急性期・回復期・慢性期から終末期まであらゆる健康の段階や障害の状態に応じた看護が求められる。また、地域包括ケアシステム構築に向け、病院完結型医療から地域完結型医療へ移行する中、在宅での療養生活を支えるためには、生活の場である環境の調整や社会資源の活用、退院時の調整など医療の場と在宅をつなぐ継続看護が重要である。

さらに、在宅生活を継続するためには療養者と家族への予防的な関わりとともに、異常の早期発見と対応、介護力の不足に対しては支援体制の再構築が求められ、在宅ケアチームでの協働、パートナーシップが必要となる。そこで、地域・在宅看護論では、個人とその家族の暮らしを支援するため、地域とその地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場でその人らしく生活できるための支援方法や必要な社会資源の活用と保健・医療・福祉チームにおいて看護が果たす役割について学ぶ機会とする。

科目名	単位 (時間数)	単 元 名
地域・在宅看護論Ⅰ	1 単位 (15 時間)	1. 暮らしの中の看護 2. 地域と生活
地域・在宅看護論Ⅱ	1 単位 (15 時間)	1. 地域包括ケアシステムと地域を支えるさまざまな場の理解
地域・在宅看護論Ⅲ	1 単位 (30 時間)	1. 地域・在宅看護の概念 2. 在宅療養者と家族の支援 3. 地域療養を支える制度 4. 在宅療養者の状態・状況に合わせた看護 5. 訪問看護師に求められるマナー
地域・在宅看護論Ⅳ	1 単位 (30 時間)	1. 在宅療養を支える訪問看護 2. 日常生活を支える看護技術
地域・在宅看護論Ⅴ	1 単位 (15 時間)	1. 療養者と家族を支える看護 (看護過程)

専門分野 地域・在宅看護論

科 目 名 : 地域・在宅看護論Ⅰ

1単位: 15時間

目 的 : 地域における健康や暮らしを支えるため、地域の特性や地域で生活する人々を理解する。

一般目標 : 1. 地域・在宅看護の背景を理解する
2. 地域特性が理解できる
3. 人々の様々な暮らしが理解できる
4. 地域の暮らしが健康に与える影響がわかる

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 暮らしの中の看護	2	1. 地域・在宅看護の背景	辰巳 賢子
2. 地域と生活	13	1. 地域と生活 1) 生活とは 2) 地域とは 2. 地域や生活が健康に与える影響 1) 地域特性とは 自然環境、風土、気候、文化や歴史、生活する人々の人口構成割合、交通、産業、経済、教育、医療・保健・福祉サービスなど 2) 地域を「みる」—実際の町を例に 生活環境が人々の健康や暮らしに与える影響を考える ・グループ学習・発表 3) 地域を「しる」—地域へ出向き体験学習 病気や障害の有無に関わらず、地域での生活を支えるための自助、互助を学ぶ ・校外学習、グループ学習・発表	辰巳 賢子

テキスト : ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア,メディカ出版.

専門分野 地域・在宅看護論

科 目 名 : **地域・在宅看護論Ⅱ**

1単位: 15時間

目 的 : 各ライフサイクル、あらゆる健康状態にある人々に対して、地域における健康支援とサービス提供システムを学び、地域包括ケアシステムの一員として活動する看護の役割を学ぶ。

一般目標 : 1. 地域包括ケアシステムの概念を理解できる
2. 各ライフサイクル、あらゆる健康状態にある人々の地域における健康支援とサービス提供システムについて理解する
3. 医療施設にとどまらず地域で生活する多様な人々を対象とした看護の役割と多様な専門職の役割が理解できる
4. 地域包括ケアシステムの実践がわかる

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 地域包括ケアシステムと地域を支えるさまざまな場の理解	15	1. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護職の役割の理解 1) 地域包括ケアシステム 2) 療養の場の移行に伴う看護 3) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関 2. 地域で暮らす人々を支える様々な場の理解 1) 生活の場に応じたサービス提供機関 ・介護施設 (通所) ・地域包括支援センター ・看護小規模多機能型居宅介護 ・子育て地域包括支援センター ・居宅介護支援事業所 ・サービス付き高齢者住宅 2) 地域包括ケアシステムの実践 ・サービス提供機関で見学や参加を通して学ぶ ・テーマに沿ってグループワークを行い、地域包括ケアシステムにおける施設の役割について考える	森 美穂

テキスト : ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版.

科 目 名： **地域・在宅看護論Ⅲ**

1単位: 30時間

- 目 的： 1. 在宅療養者とその家族の特徴を理解するとともに、地域療養を支えるシステムおよび療養者の自立を促す在宅看護の重要性を学ぶ。
2. 在宅療養者の状態・状況に応じた看護を学ぶとともに、訪問看護師に求められる基本姿勢を身に付ける。

- 一般目標： 1. 地域・在宅看護の概念が理解できる。
2. 在宅で療養する人の特徴を知り、療養者と家族の支援について理解できる
3. 地域療養を支える制度と社会資源を理解できる。
4. さまざまな在宅療養者の状態・状況に合わせた看護が理解できる。
5. 訪問看護師に必要な基礎的マナーが理解できる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無： 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 地域・在宅看護の概念	2	1. 地域・在宅看護の背景 1) 社会的背景と国民の価値観の変容 2) 日本の地域・在宅看護の変遷と今後の課題 2. 在宅療養者と家族の支援 1) 地域・在宅看護活動 2) 在宅ケア 3) 在宅看護と訪問看護 4) 在宅看護の役割・機能 5) 在宅看護活動の特徴 6) 在宅看護の対象 7) 生活の場に応じた看護とサービス提供機関 3. 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 1) 自立・自律支援 2) 病状・病態の予測と予防	福谷 由紀
2. 在宅療養者と家族の支援	4	1. 地域・在宅看護の対象者 1) 地域・在宅看護の対象と背景 2) 法制度からみた対象者 3) ライフサイクルからみた対象者 4) 健康レベルからみた対象者 5) 疾患からみた対象者 6) 障害レベルからみた対象者 7) 地域社会における生活者としての対象者 8) 状態別・状況別対象者 2. 在宅看護の対象者と在宅療養者の成立要件 1) 療養者・家族側の条件 2) サービス提供者側の条件 3. 在宅療養者の家族への看護 1) 家族の介護力のアセスメントと調整 2) 家族関係の調整 3) ケア方法の指導 4) 家族介護者の健康 5) レスパイトケア	福谷 由紀
		1. 医療保険制度 2. 後期高齢者医療制度	

		3. 介護保険制度 4. 生活保護制度 5. 障害者に関連する法律 6. 難病法	
4. 在宅療養者の状態・状況に合わせた看護	10	1. 日常生活動作の低下および疾病の再発の予防が必要な療養者 2. 回復期（リハビリテーション期）にある療養者（脳卒中後遺症） 3. 慢性期にある療養者（ALS、認知症） 4. 終末期にある療養者（がん） 5. 重度心身障害のある小児 6. 精神障害のある療養者（統合失調症）※1	高橋 扶美代 8時間 谷藤 伸恵 2時間 ※1
5. 訪問看護師に求められるマナー	10	1. 訪問看護とマナー 1) マナーの意味と訪問看護における意義 2) 初回訪問の重要性 3) 基本のマナー （挨拶、身だしなみ、言葉遣い） 4) 訪問に関わるマナーの実際 ①訪問前のマナー （アポイント・訪問鞆の準備） ②訪問先でのマナー 5) 職業倫理 2. 初回訪問時のマナー（演習） ・グループによるロールプレイ ・事例を通して、初回訪問時のマナー、コミュニケーションのとり方などを話し合い発表する	辰巳 賢子

テキスト： ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア,メディカ出版.
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術,メディカ出版.
国民衛生の動向 2025/2026 厚生労働統計協会.

専門分野 地域・在宅看護論

科 目 名： **地域・在宅看護論Ⅳ**

1単位: 30時間

目 的： 在宅療養の継続を可能にするための訪問看護の役割を理解し、基本となる看護技術を学ぶ。

一般目標： 1. 訪問看護のシステムと特徴が理解できる。
 2. 訪問看護ステーションの概要が理解できる。
 3. 訪問看護における看護過程の特徴、家庭訪問および初回訪問のプロセスを理解できる。
 4. 訪問看護における記録の意義や留意点について理解できる。
 5. 訪問看護における感染防止の重要性、日常生活状況のアセスメントと援助の技術および在宅で行われる医療処置に伴う看護技術を理解できる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 在宅療養を支える訪問看護	10	1. 訪問看護の特徴 1) 訪問看護とは 2) 訪問看護の制度と現状 3) 訪問看護における看護職 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 1) 訪問看護ステーションの設置と管理運営 2) 従事者 3) 対象者 4) サービス内容 5) サービスの流れ 6) 利用料 7) 今後の方向性 3. 訪問看護の実践 1) 訪問看護における看護過程の特徴 2) 訪問看護過程の実際 3) 家庭訪問・初回訪問 4. 訪問看護の記録 1) 訪問看護記録の意義 2) 訪問看護で使用する記録 3) 訪問看護記録を記入するときの留意点 5. 在宅看護における安全と健康危機管理 1) 在宅看護における危機管理 2) 日常生活における安全管理 3) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	水間 洋子
2. 日常生活を支える看護技術	20	1. 食生活 1) 食のアセスメント 2) 援助の技術と実際 ・摂食・嚥下訓練法 ・在宅経管栄養法（HEN） ・胃瘻栄養法 ・在宅中心静脈栄養法（HPN） 2. 清潔 1) 清潔のアセスメント 2) 援助の技術と実際 ・入浴・清拭・部分浴・洗髪・口腔ケア・更衣 3. 肢位の保持と移動 1) 移動のアセスメント	

		2) 援助の技術と実際 4. 排泄 1) 排泄のアセスメント 2) 援助の技術と実際 ・膀胱留置カテーテル ・摘便 ・ストーマ 5. 呼吸 1) 呼吸のアセスメント 2) 援助の実際 ・呼吸ケア ・気管内カニューレ ・在宅酸素療法 (HOT) ・在宅人工呼吸療法 (HMV) ・非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) 6. 睡眠 1) 睡眠のアセスメント 2) 援助の実際 7. 感染予防 1) 在宅における感染防止の基本 2) 援助の実際 8. 体位を安全に保つ技術 1) 褥瘡管理 2) 足病変ケア 9. その他の医療ケア 1) 薬物療法 ・がん外来・インスリン自己注射 2) 腹膜透析 (CAPD) の援助 3) 疼痛管理	
--	--	--	--

テキスト： ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア,メディカ出版.
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術,メディカ出版.

科 目 名： **地域・在宅看護論Ⅴ**

1 単位：15 時間

目 的： 在宅看護の特徴を踏まえて、地域で生活する（暮らす）療養者と家族を支えるための看護について看護過程を通して学ぶ。

一般目標： 1. 在宅療養者と家族の状況から看護の必要性を判断し、必要な看護が計画できる。
2. 在宅で生活する人の理解を深め、療養者の価値観、人生観を尊重し、自己決定を支える看護について考えることができる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 療養者と家族を支える看護	15	1. パーキンソン病の紙上事例を通して、進行性の疾患を持つ人の在宅療養を支えるための看護過程を展開する 1) 情報収集の視点（フェースシートの活用） ・症状、障害の程度、バイタルサイン、内服薬 ・ADL、IADL ・コミュニケーション ・リハビリテーション ・家族 ・生活状況、介護状況 ・生活環境 ・社会資源の活用状況 ・生活信条、価値観、生きがいなど ・在宅ケア・訪問看護への要望 2) アセスメントの視点 ・病状の進行に伴う症状の観察、廃用症候群・合併症の予防 ・日常生活への影響 ・コミュニケーション ・家族の状況 ・介護力 ・療養者の思い、家族の思い ・社会資源の調整と関係職種との連携・協働 ・緊急時の対応 3) グループワーク、発表 ① 個人学習で、対象特性を描き看護の方向性を導き出す ② グループワークで、3 過程 12 項目＋家族についてアセスメントし、看護計画を立案する	森 美穂

テキスト： ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア,メディカ出版.
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術,メディカ出版.

＜構築の考え方＞

成人期は、ライフサイクルの中で青年期から向老期までの幅広い年齢層の時期にある。この時期は、親への依存から社会的自立を果たし、社会生活と家庭生活という二重構造の中で調和をはかり、子供の独立と社会的役割の譲りわたしという発達課題をもっている。価値の多様化に伴う生活の変化があるにせよ、これらの発達課題の達成という社会的に重要な責任を担っているのが成人期の発達段階である。さらに現代の経済的・環境的变化はめまぐるしく、雇用問題・リストラなどにより社会的自立が阻まれ、生活の安定が得られないだけでなく、老後の生活設計に向けての不安、格差社会など、さまざまな問題が山積する中で、これらの重圧を最も受けて生活しているのが成人期の対象と言えるであろう。そのため、ライフサイクル各期における発達課題の達成や社会生活を営む上での経済的な問題から健康問題が生じやすい時期であり、その健康問題も複雑性や多様性を増している。

成人看護学では、疾病の予防も含めた、健康の保持・増進、さらに充実した生活を送ることができるよう支援するための基本となる知識・技術・態度を学ぶ。また、各系統別疾患の中でも成人期に罹患が多い健康障害を中心に、治療・処置や症状に伴う看護を学習する。

科目名	単位数（時間数）	単元名
成人看護学Ⅰ	1 単位（30 時間）	1. 循環を維持する働きの障害 2. 呼吸を維持する働きの障害 3. 外界を反映する働きの障害
成人看護学Ⅱ	1 単位（30 時間）	1. 食物を消化・吸収する働きの障害 2. 生体防御機構の働きの障害 3. 生命の連続性を維持する働きの障害（女性）
成人看護学Ⅲ	1 単位（30 時間）	1. 統一体を支える血液の破綻による障害 2. 内部環境を維持する働きの障害 3. 生命の連続性を維持する働きの障害（男性）
成人看護学Ⅳ	1 単位（30 時間）	1. 人間を統合する脳の働きの障害 2. 行動範囲を拡大する働きの障害 3. 周手術期にある対象への看護

科 目 名 : 成人看護学Ⅰ

1単位:30時間

目 的 : 循環・呼吸・感覚機能に障害をもつ成人期にある対象とその家族を理解し、健康の段階・状態に応じた看護を学ぶ。

- 一般目標 :
1. 循環を維持する働きに障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 2. 呼吸を維持する働きに障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 3. 感覚機能に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 4. 成人看護を支える看護技術が理解できる。

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 循環を維持する働きの障害	14	1. 循環器障害・代謝障害をもつ対象への看護 (心不全、虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、肺塞栓症、心筋炎、心膜炎、脂質異常症、高尿酸血症) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 5) 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 (慢性心不全患者) 6) 看護技術 ・標準12誘導心電図の方法と読み方、心音聴取(異常音) (下線の技術については実施する)	雀地 洋平
2. 呼吸を維持する働きの障害	10	1. 呼吸器障害をもつ対象への看護 (肺癌、悪性中皮腫*¹(*¹がん患者の抱える苦痛、がん患者の集学的治療と看護を含む)、肺炎、気管支炎、胸膜炎、肺結核、膿胸、慢性閉塞性肺疾患、肺気腫、気管支喘息、気胸) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 5) 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 (慢性呼吸不全患者) 6) 看護技術 ・吸入療法・酸素療法、呼吸法、排痰方法の適応と方法、呼吸理学療法、呼吸音聴取(異常音)、体位ドレナージなど (下線の技術については実施する)	城内 尚
3. 外界を反映する働きの障害	6	1. 感覚機能障害をもつ対象への看護 (中途視覚障害、突発性難聴、メニエール病、喉頭癌(がん患者の抱える苦痛、がん患者の集学的治療と看護を含む)) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 5) 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護(がん患者)	佐藤 茂 (2時間) 土屋 隼人 (2時間) 笠井 真利子 (2時間)

テ キ ス ト :	系統看護学講座	専門分野	循環器	成人看護学③, 医学書院.
	系統看護学講座	専門分野	内分泌・代謝	成人看護学⑥, 医学書院.
	系統看護学講座	専門分野	呼吸器	成人看護学②, 医学書院.
	系統看護学講座	専門分野	皮膚	成人看護学⑫, 医学書院.
	系統看護学講座	専門分野	眼	成人看護学⑬, 医学書院.
	系統看護学講座	専門分野	耳鼻咽喉	成人看護学⑭, 医学書院.
	系統看護学講座	専門分野	歯・口腔	成人看護学⑮, 医学書院.

科 目 名： 成人看護学Ⅱ

1単位: 30時間

目 的： 消化機能・生体防御機構・女性生殖器系に障害をもつ成人期にある対象とその家族を理解し、健康の段階・状態に応じた看護を学ぶ。

- 一般目標：
1. 食物を消化・吸収する働きに障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 2. 生体防御機構の働きに障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 3. 女性生殖器に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 4. 成人看護を支える看護技術が理解できる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 食物を消化・吸収する働きの障害	14	1. 消化・吸収機能障害のある患者への看護 (食道癌・胃癌・大腸癌・結腸癌、人工肛門増設後、潰瘍性大腸炎、クローン病、胃・十二指腸潰瘍、逆流性食道炎) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 5) 看護技術 ・<u>ストマック</u>、高カロリー輸液、経管・経腸栄養法(下線の技術については実施する)	市戸 理恵
2. 生体防御機構の働きの障害	8	1. 身体防御機能の障害、内分泌機能障害のある患者の看護 (アレルギー性疾患、膠原病を含む自己免疫疾患、HIV などの感染症) (甲状腺機能亢進・低下症、甲状腺癌・下垂体腫瘍) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 ※緩和ケアを必要とする難病患者と家族への看護を含む	野田佳央梨
3. 生命の連続性を維持する働きの障害	8	1. 性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護 (子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、子宮体癌・子宮頸癌・卵巣癌・乳癌) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 5) 看護技術—乳房の視診・触診（自己検診の指導） ※がん患者の抱える苦痛（転移・浸潤に伴う身体的苦痛・身体症状に伴う活動制限、がんの診断や再発・転移による心理的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛）、がん患者の集学的治療と看護（手術療法、薬物療法、放射線療法、免疫療法）を含む	尾形 留美 (2時間) 米澤 里奈 (6時間)

テキスト：

系統看護学講座 専門分野 消化器 成人看護学⑤, 医学書院.

系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 成人看護学⑥, 医学書院.

系統看護学講座 専門分野 アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑪, 医学書院.

系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 成人看護学⑨, 医学書院.

新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論, メヂカルフレンド社.

看護のための人間論 ナースが視る人体, 講談社.

看護のための疾病論 ナースが視る病気, 講談社.

科 目 名：成人看護学Ⅲ

1単位: 30時間

目 的：血液・造血器機能・内部環境を維持する機能と、男性生殖器系に障害をもつ成人期にある対象とその家族を理解し、健康の段階・状態に応じた看護を学ぶ。

- 一 般 目 標：
1. 血液・造血器に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 2. 内部環境を脅かす障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 3. 男性生殖器に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 4. 成人看護を支える看護技術が理解できる。

評 価 方 法：試験（時間外）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 統一体を支える血液の破綻による障害	12	1. 血液・造血器障害をもつ対象への看護 （造血器腫瘍(がん患者の抱える苦痛、がん患者の集学的治療と看護、がん患者の社会参加への支援、緩和ケアを必要とする患者と家族への看護を含む)、貧血、骨髄腫、血小板減少症) 7) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 8) 検査・処置を受ける患者への看護 9) 治療を受ける患者への看護 10) 病期や機能障害に応じた看護 11) 看護技術 ・出血の予防と止血法、感染予防(ガウンテクニック)、骨髄穿刺	佐藤 真由美 (10時間) ※1 渡辺 唯 (2時間)
2. 内部環境を維持する働きの障害	14	1. 消化・吸収機能障害、栄養代謝機能障害、内部環境(体液量、電解質、酸塩基平衡)調整障害、内分泌機能障害のある患者の看護 (胆管炎・胆石症、ウイルス性肝炎、肝硬変、肝癌、膵炎、膵癌、急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病、腎移植術後、腎腫瘍、腎癌、1型糖尿病、2型糖尿病) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 5) 看護技術 ・簡易血糖測定、インスリン自己注射、腹腔穿刺(下線の技術については実施する)	若林 マリア (4時間) 佐藤 真由美 (10時間)
3. 生命の連続性を維持する働きの障害	4	1. 排尿機能障害、男性生殖器系に障害をもつ患者の看護 (腎・尿路結石、腫瘍(膀胱癌、前立腺癌)、尿路感染症、尿失禁、前立腺肥大、前立腺炎、精巣腫瘍) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 5) 看護技術 ・自己導尿、留置カテーテルによる導尿	太田 直子 (2時間) 佐藤 真由美 (2時間)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 血液・造血器 成人看護学④, 医学書院。
 系統看護学講座 専門分野 消化器 成人看護学⑤, 医学書院。
 系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 成人看護学⑥, 医学書院。
 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 成人看護学⑧, 医学書院。

科 目 名 : 成人看護学Ⅳ

1単位: 30時間

目 的 : 脳・神経機能、運動機能に障害をもつ成人期にある対象とその家族を理解し、健康の段階・状態に応じた看護を学ぶ。

- 一般目標 :
1. 脳神経機能に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 2. 運動機能に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる。
 3. 周手術期にある成人の看護が理解できる。
 4. 成人看護を支える看護技術が理解できる。

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 人間を統合する脳の働きの障害	12	1. 脳・神経機能障害のある患者の看護 (脳血管障害(生活習慣病含む)、脳腫瘍(がん患者の抱える苦痛、がん患者の集学的治療と看護、がん患者の社会参加への支援、緩和ケアを必要とする患者と家族への看護を含む)、脳炎・髄膜炎(感染症含む)、頭部外傷、脊髄損傷、筋萎縮性側索硬化症) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 5) 看護技術 ・言語障害患者とのコミュニケーション、 <u>意識状態の観察法</u> 、 <u>嚥下障害患者の食事介助</u> 、ADL 評価、 <u>車椅子移乗</u> 、片麻痺患者の寝衣交換(下線の技術については実施する)	佐々木 佳苗
2. 行動範囲を拡大する働きの障害	12	1. 運動機能障害のある患者の看護 (関節リウマチ、椎間板ヘルニア、四肢切断後、変形性膝関節症、骨折) 1) 原因と障害の程度のアセスメントと看護 2) 検査・処置を受ける患者への看護 3) 治療を受ける患者への看護 4) 病期や機能障害に応じた看護 5) 看護技術 ・杖歩行、歩行器、 <u>自動・他動運動</u> 、関節可動域訓練、良肢位、砂囊、離被架、ADL 評価(下線の技術については実施する)	近岡 潤
3. 周手術期の看護	6	1. 周手術期にある患者と家族の看護 1) 術前の看護 2) 術中の看護 3) 術後の看護 4) 術後合併症と予防 5) 術後の機能障害や生活制限への看護 6) 看護技術 ・退院調整、ドレーンの管理・処置	久松 正樹

テキスト : 系統看護学講座 専門分野 脳・神経 成人看護学⑦, 医学書院.
 系統看護学講座 専門分野 運動器 成人看護学⑩, 医学書院.
 新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論, メヂカルフレンド社.

<構築の考え方>

我が国は、平均寿命の延伸と少子化の進行を要因として高齢化が進み、現在では、4 人に 1 人が高齢者となっており世界のどの国でも経験したことがない高齢社会を迎えている。

老年期（第三の人生）は、単なる「長生き」であるだけでなく、自分の生きたいように生き、価値ある「長寿」を実現し、いずれは穏やかに人生の終焉を迎えるべき時期である。

高齢者は、生きてきた過程の中で豊かな経験と知恵をもち、個別の生き方・価値観をもつ存在である。また、加齢による生理的变化に加え、さまざまな健康問題を発生しやすく、それが複雑化・慢性化しやすい特徴がある。高齢者の健康と生活はそれまでの生活の仕方を反映して、多様であるとともに、明暗が浮き彫りとなる。平均寿命の延伸が老年期の延長をもたらしたが、高齢者が老化や健康問題を抱えながらも、生命力を高め、残存している機能を活用し、いかに生活に適応していくか、生活機能の観点からアセスメントし看護を展開することが求められる。

高齢者にとって家族の存在は大きい。高齢化の進行や家族形態の変化によって核家族が進み、老夫婦世帯や独居者が増え、家族の支える力が小さくなっている。高齢者の健康と生活の質の確保には、家族の支えが得られるよう支援することとあわせて、社会資源の活用が必要である。高齢化・少子化の進展に伴う社会保障負担の増大にどう対応するのかが課題となり、医療保険・介護保険制度の見直し・改正など、社会保障制度は変化していることから、高齢者の保健・医療・福祉の動向を把握することが必要である。

家族や社会の変化によって、学生の多くは高齢者と接する機会が少なく、まだ体験のない老年期の対象について理解することには難しさがある。

これらの状況をふまえ老年看護学では、老化の特徴と健康障害をつくりだした生活上の要因を踏まえ、健康レベルや療養形態に応じた高齢者とその家族に対する看護を学習する。あわせて、高齢者を人生の先達として尊重する態度を養い、老年看護における倫理的配慮についても考える機会とする。

科目名	単位数 (時間数)	単元名
老年看護学Ⅰ	1 単位 (15 時間)	1. 高齢者の特性 2. 高齢者を支える保健・医療・福祉制度 3. 老年看護の役割と機能
老年看護学Ⅱ	1 単位 (15 時間)	1. 日常生活機能からのアセスメント 2. 高齢者とのコミュニケーション 3. 高齢者の生活を支える看護
老年看護学Ⅲ	1 単位 (30 時間)	1. 主要症状と看護 2. 健康障害と看護 3. 終末期看護 4. 生活療養の場における看護

科 目 名： **老年看護学Ⅰ**

1単位: 15時間

目 的： 老年期の身体的・精神的・社会的特徴と高齢者を取り巻く社会の動向を理解し、
老年看護の役割を学ぶ。

一般目標： 1. 老年期にある対象の加齢による変化と生活の特徴が理解できる。
2. 高齢者に関する保健・医療・福祉の現状と課題が理解できる。
3. 老年看護の機能と役割が理解できる。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 高齢者の特性	6	1. 老年期の特性 1) 加齢に伴う変化の特徴 ・身体的変化、精神的変化、社会的変化 2) 生理的老化と病的老化 3) 加齢に伴う生活の変化 4) 高齢者の健康のとらえ方 2. 高齢者の生活 1) 生きてきた時代背景 2) 生活リズムと生活習慣 3) 家計 4) 住まい 5) 働くこと 6) 社会との関わり 3. 高齢者と家族 1) 家族のライフスタイルと家族形態の変遷 2) 家族・世帯構造 3) 高齢者と家族の人間関係 4) 介護家族の課題	小竹 勝子
2. 高齢者を支える保健・医療・福祉制度	4	1. 高齢社会の現状 1) 統計的特徴 ・高齢者人口の推移 ・主要国との比較、地域格差 ・疾病構造と有訴者率・通院者率・主な事故 ・要介護高齢者の出現率と動向 2) 高齢化の要因 3) 高齢社会に伴う課題 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 高齢者ソーシャルサポート 2) 保健医療福祉システム ・老人医療対策（高齢者医療確保法） ・老人福祉法 ・介護保険法 ・健康増進・維持対策 3) 他職種連携と看護活動の多様化	
3. 老年看護の役割と機能	5	1. 高齢者の権利擁護 1) 高齢者の尊厳と権利擁護 （エイジズム・アドボカシー） 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度 （成年後見制度・ノーマライゼーション）	

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		2. 老年看護活動の特性 1) 高齢者の意思決定 (パワーレスネス・エンパワメント) 2) 日常生活能力の維持・改善 3) 家族との協働と家族看護 (レスパイトケア) 4) 他職種連携・地域包括ケアの促進 (リロケーションダメージ) 3. 老年看護における理論・概念の活用 (離脱・活動理論、ストレングス、ライフレビュー、コンフォート理論など)	

科 目 名： 老年看護学Ⅱ

1 単位: 1 5 時間

目 的： 加齢現象が健康と生活に及ぼす影響をとらえ、高齢者の日常生活機能に応じた看護を学ぶ。

- 一般目標：
1. 高齢者の日常生活機能のアセスメントの視点が理解できる。
 2. 高齢者のコミュニケーションの特徴とコミュニケーションの基本が理解できる。
 3. 日常生活力の維持・改善と安全な生活を支えるための援助の方法が理解できる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 日常生活機能からのアセスメント	2	1. 老年期の日常生活力のアセスメント 1) C G A 2) 認知機能、心理・情緒機能 3) 活動と社会参加 4) 生活環境	森 美穂
2. 高齢者とのコミュニケーション	2	1. 高齢者とのコミュニケーション 1) コミュニケーション障害の原因 2) コミュニケーションの基本と援助 3) コミュニケーションの方法	
3. 高齢者の生活を支える看護	1 1	1. 加齢に伴う日常生活機能の低下と援助 1) 生命を維持させる過程 ①循環器（心臓・血管） ②呼吸器（慢性閉塞性肺疾患） ③消化器 ④泌尿器・生殖器（前立腺肥大症） ※加齢現象に伴うバイタルサインの、生活への影響、観察のポイントについて学ぶ。 2) 日常生活習慣を獲得し発展させる過程 ①食事 ・老年期の栄養 ・摂食・嚥下機能の変化 ・食生活への援助 ②排泄 ・排泄機能の変化 ・排泄の援助 ③清潔と衣生活 ・清潔の意義 ・皮膚の特徴 ・清潔の援助 ・身だしなみと衣生活 ④運動・活動 ・活動の意義 ・運動機能の変化と生活への影響 ・活動への支援 ・転倒の要因と予防 ⑤休息・睡眠 ・睡眠の特徴	

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		・生活への影響 ・睡眠の援助 3) 社会関係を維持発展させる過程（労働、性、環境） ①社会活動 ②性（セクシャリティ） ③住環境と安全 ※上記3過程がどのように低下していくのか、その低下に見合った観察・援助のポイントをおさえる。家族に対する指導も含める。	

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院.

科 目 名： 老年看護学Ⅲ

1単位: 30時間

- 目 的： 1. 高齢者における特徴的な症状、その病態とアセスメント、看護を学ぶ。
2. さまざまな障害をもつ高齢者とその家族の健康と生活を支える看護を学ぶ。

- 一般目標： 1. 入院治療をうける高齢者の特徴と看護が理解できる。
2. 高齢者に多くみられる症状に応じた看護が理解できる。
3. 治療・処置を受ける高齢者とその家族への看護が理解できる。
4. 人生の最終段階を迎える高齢者とその家族への看護について理解できる。
5. 生活・療養の場における高齢者とその家族への看護が理解できる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 主要症状と看護	8	1. 入院治療をうける高齢者の特徴と看護 1) 入院に伴う高齢者への影響 ・身体的・精神的・社会的側面 2) 入院初期から退院支援の看護 ・家族への看護、チーム医療含む 2. 主要症状と看護 1) 脱水 ・発熱、嘔吐、倦怠感を含む 2) 浮腫 3) 掻痒感 ・老人性皮膚掻痒症、疥癬、白癬など 4) 感覚障害 ・老人性難聴、痺れなど 5) 感染症 ・インフルエンザ、肺炎、新型コロナウイルス感染症、 感染性胃腸炎など ・罹患予防と感染拡大の防止策 6) 廃用症候群 ・筋萎縮、関節の拘縮 ・呼吸機能 ・褥瘡 ※機能低下によるものか、健康障害と関連するものか、観察の視点を考えられるように代表的な症状をおさえる。 ※メカニズムを中心に観察の視点と予防の援助をおさえる。	熊田 孝子
2. 健康障害と看護	14	1. 老年期に多くみられる健康障害と看護 1) 白内障 2) うつ病 3) 認知症 4) パーキンソン症候群 5) 骨粗鬆症 6) 大腿骨頸部骨折 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 薬物動態の変化と影響 2) 薬物療法時の看護 3) 薬物管理とリスクマネジメント 3. 手術療法を受ける高齢者の看護 1) 生体機能の変化と手術療法のリスク 2) 術前看護 3) 高齢者に起こりやすい術後合併症と看護 ・ 術後せん妄、早期離床への援助、合併症の予防	石原 綾乃

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		4. 外来を受診する高齢者の看護 1) 外来受診時の高齢者の特徴 2) 診察時の援助 3) 疾患・治療の理解と治療継続への援助 ※老年期の心理的・身体的・社会的反応の特徴をふまえ、各療法に適応していけるように、指導上の留意点をおさえる。 ※成人との違いをおさえる。	
3. 終末期看護	4	1. 人生の最終段階を迎える高齢者とその家族への看護 1) 老いと死 ・高齢者の死亡の動向 ・高齢者の死のとりえ方 2) 高齢者の死にかかわる権利 ・事前提示と自己決定権 ・リビングウィル 3) 終末看護の実際、 ・臨終時の看護、家族への援助 ・死後処置	石原 綾乃
4. 生活・療養の場における看護	4	1. 生活・療養の場における高齢者の看護 1) 保健医療福祉施設の特徴と看護 2) 治療・介護を必要とする高齢者とその家族への看護	熊田 孝子

テキスト：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院.

<構築の考え方>

現代は、価値の多様化に伴い晩婚化や結婚形態の変化、少子化、核家族化、さらに一人親の増加などにより、家庭内における擁護・教育機能の衰退が問題視されている。親の多くは育児に関する不安や悩みをかかえ、適切な支援が得られない場合に育児放棄や虐待に陥るなど、子どもを取り巻く問題が山積している。このような現代社会において、小児看護の役割は拡大している。

小児看護の対象は、乳児期から思春期までの子どもたちである。この成長期は大人の主導によって生活習慣や社会性を養っていく第一の人生と言われている。この時期の大人の関わりが、小児期の健康にとどまらず、成人期の健康をも左右する。したがって、子どもの主たる擁護・育児・教育を担う親を中心とした家族もまた小児看護の対象である。

小児看護の目的は、子どもとその家族の健康と幸福の実現である。小児看護学では、小児看護の変遷と子どもを取り巻く環境を広い視野で捉え、子どもの健やかな成長・発達への支援および健康障害をもつ子どもと家族の状況に応じた看護を学ぶ。

科目名	単位数 (時間数)	単元名
小児看護学Ⅰ	1単位 (30時間)	1. 子どもの特性と看護 2. 子どもと家族を取り巻く社会 3. 子どもの成長・発達 4. 小児各期における成長・発達と看護
小児看護学Ⅱ	1単位 (30時間)	1. 医療を受ける子どもと家族 2. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護に必要な看護技術 3. 健康課題をもつ子どもと家族の看護
小児看護学Ⅲ	1単位 (15時間)	1. 特殊な状況下における看護 2. 看護過程

科 目 名 : 小児看護学Ⅰ

1単位: 30時間

目 的 : 小児看護の変遷や機能と役割を理解し、子どもの健全な成長・発達を促進するための援助と健康増進のための看護を学ぶ。

- 一般目標 :
1. 小児看護の変遷を理解する。
 2. 小児看護の機能と役割について理解する。
 3. 小児保健の動向と主な小児保健施策が理解する。
 4. 子どもの成長・発達過程を理解する。
 5. 小児各期の日常生活援助と生活指導について理解する。

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 子どもの特性と看護	2	1. 子どもと家族 2. 小児看護の機能と役割 3. 小児看護の概念とその変遷・理念 4. 小児看護の課題	上坂 真規子
2. 子どもと家族を取り巻く社会	6	1. 子どもと家族の諸統計 1) 人口動態と出生率 2) 乳児死亡と不慮の事故 3. 現代社会における小児の諸問題 1) 子どもの権利と看護 (生命倫理・アドボカシー) 2) 小児看護と倫理的配慮 (改正臓器移植法含む) 3) 家族の特徴とアセスメント 4) 子どもと家族を取り巻く社会の変化	
3. 子どもの成長・発達	4	1. 子どもの成長・発達 1) 子どもの理解 2) 成長・発達とは 3) 成長・発達の一般的原理 2. 成長・発達に影響する因子 3. 成長・発達の評価 1) 形態的成長の観察と評価 2) 心理的社会的発達の評価	岡田 千佐子
4. 小児各期における成長・発達と看護	18	1. 新生児・乳児期の子どもの成長・発達と看護 1) 形態、身体生理、感覚、運動、知的、情緒・社会的発達と特徴 2) 乳児期の健康問題と看護および家族への援助 3) 母親への育児指導 (母子関係の確立・母子分離不安・地域保健サービスの活用) ※新生児の成長・発達と看護では早期新生児期を除く。 2. 幼児期の子どもの成長・発達と看護 1) 形態、身体生理、感覚、運動、知的、情緒・社会的発達と遊び 3. 幼児期の子どもの成長・発達と看護 1) 基本的生活習慣の獲得と援助 2) 子どもと事故 3) 子どもの日常生活指導 4) 母親への育児指導 (家族指導) 4. 学童期の子どもの成長・発達と看護	

		1) 形態、身体生理、感覚・運動、知的・情緒、社会的機能 2) 学童期の健康問題と看護および家族への援助 5. 思春期（青年期）の子どもの成長・発達と看護 1) 形態、身体生理、知的・情緒・社会的機能 2) 思春期の健康問題と看護および家族への援助 3) 性教育 ※1～5の小児各期には発達段階別の栄養の特徴と看護を含む ※1～3にはおむつ交換・衣服の着脱・子どもの抱き方・身体計測（身長・体重・頭囲・胸囲）を含む	
--	--	--	--

テキスト：系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①，医学書院.
系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学②，医学書院.
国民衛生の動向 2025/2026，厚生労働統計協会.

科 目 名： 小児看護学Ⅱ

1単位：30時間

目 的： 子どもに特徴的な症状を理解し、医療処置を受ける子どもと家族への援助と健康回復のための看護を学ぶ。

- 一 般 目 標：
1. 医療を提供する場の特徴と看護の役割・機能が理解できる。
 2. 主要症状に応じた看護が理解できる。
 3. 小児看護を支える看護技術が理解できる。
 4. 健康課題をもつ子どもと家族の看護が理解できる。

評 価 方 法： 試験（時間外）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 医療を受ける子どもと家族	2	1. 疾病・障害を持つ子どもと家族 1) 疾病・障害が子どもと家族に及ぼす影響 2) 病気に対する子どもの理解と説明 2. 外来における子どもと家族の看護 1) 外来看護の特徴 2) 外来の環境 3) 外来看護の機能と役割 3. 入院における子どもと家族の看護 1) 入院が子どもと家族に及ぼす影響 2) 子どもの入院環境	岡田 千佐子
2. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護に必要な看護技術	4	1. 子どもの主要症状と看護（不きげん・啼泣含む） 発熱、脱水、下痢、嘔吐、呼吸困難、けいれんなど 2. 子どもの検査・処置と看護 1) 発達段階に応じたプレパレーション技術 2) 検査・処置の前・中・後の観察と看護 バイタルサイン測定、検尿・採尿パック装着等	
3. 健康課題をもつ子どもと家族の看護	24	1. 急性症状のある子どもと家族の看護 ・感染症・呼吸器疾患 ※感染対策上隔離が必要な子どもと家族の看護 2. 周手術期の子どもと家族の看護 ・循環器・消化器疾患 ※プレパレーションを含む 3. 慢性期にある子どもと家族の看護 ・代謝性疾患(DM 等) ※小児特定慢性疾患治療研究事業について 4. 終末期の子どもと家族の看護 ・子どもの死の理解 ・終末期にある子どもと家族への緩和ケア ※痛みをとまなう処置を含む 5. 障がいがある子どもと家族の看護 ・染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 ・医療的ケアの必要な子どもと家族 6. 救急救命処置が必要な子どもと家族の看護 ・子どもによくみられる事故・外傷(誤飲・溺水・熱傷・熱中症 心肺蘇生法 ※演習：気道異物の除去、人工呼吸、心マッサージ、AED	

テキスト:系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①, 医学書院.
 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学②, 医学書院.

専門分野 小児看護学

科 目 名 : 小児看護学Ⅲ

単位: 15時間 (実質16時間)

目 的 : 子どもの抱える健康問題を身体機能と心理社会的反応の両面から理解し、小児看護の実践に必要な知識・技術を学ぶ。

一般目標 : 1. 様々な健康の段階にある子どもとその家族の看護を理解できる。
2. 災害や虐待が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる。
3. 医療・養育機能をもつ専門施設での小児看護の実践を理解できる。
4. 紙上事例による看護過程の展開を通して、健康障害を持つ子どもと家族の看護が理解できる。

評価方法 : 試験 (時間外)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 特別な状況下における看護	7	1. 被虐待児と家族の看護 1) 子どもへの虐待の特徴 2) 虐待のリスク要因と虐待の早期発見 3) 虐待の未然防止に向けての支援 4) 多機関・多職種の連携・協働 2. 災害を受けた子どもと家族の看護 1) 災害による子どもへの影響とストレス 2) 災害を受けた子どもと家族への援助 3) 災害時における緊急度の把握・トリアージ 3. 施設見学	上坂 真規子
2. 看護過程	9	<u>事例：ネフローゼ症候群の看護過程</u> ・発達段階：幼児期 ・健康の段階：回復期 ※ 活動制限が必要な子どもと家族の看護 ※ 上記の事例について、科学的看護論のモデル(全体像・立体像モデル)を活用して対象特性を描き、看護の方向性を導き出す。	

テキスト : 系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①, 医学書院.
系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学②, 医学書院.

<構築の考え方>

母性看護学は次世代への生命の連続に焦点を当て、生理的变化の過程にある対象への看護を中心とし、ウェルネスの視点で支援するという特性をもっている。

母性看護は次世代の健全な育成を目ざし、母性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病予防を目的とする。対象は妊娠・分娩・産褥期にある人とその家族・胎児、新生児（早期）を中心に、これから産み育てるべき女性・および過去においてその役目を果たした女性である。そして生涯を通じての性と生殖に関する健康を守る視点から、パートナーとなる男性、子育て中の家族やその家族が生活する地域社会での支援へと母性看護の活動範囲は広がっている。

女性の生涯や役割の多様化、家族構造や家族のあり方の変化など様々な要因から少子化が進んでいる。あわせて、医学の発展・進歩により、「子を産み、育てる」ことへの価値観は変化している。母性看護学では、生命の連続に焦点を当てるが、世代を超えて生命をつなぐことのみ視点をおくのではなく、母性を取り巻く社会背景をふまえ、その世代の個人がもつ生命・人格の尊厳、安全性の確保を重視することが必要である。

母性看護学では、妊娠・分娩・産褥期は病気ではなく生理的变化の過程にあることを学ぶ。また、ウェルネスの視点で対象を捉え、健康であることを前提に予防的看護、セルフケア能力を高めるための支援とともに、正常から異常への逸脱に早期に対応するために必要な知識・技術を学ぶ。併せて、女性の生涯を通じた母性の健康の維持・増進の観点から、リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護を学ぶ。なお、母性看護に関連する健康課題や施策については一年次の保健指導でも履修しているため、想起させながら深めていく。

科目名	単位数（時間数）	単元名
母性看護学Ⅰ	1単位（15時間）	1. 母性看護の対象と看護の特性
母性看護学Ⅱ	1単位（30時間）	1. 妊娠期の看護 2. 分娩期の看護 3. 新生児期の看護 4. 産褥期の看護
母性看護学Ⅲ	1単位（30時間）	1. 妊娠期の異常と看護 2. 分娩期の異常と看護 3. 産褥期の異常と看護 4. 新生児期の異常と看護 5. 看護過程

科 目 名 : 母性看護学 I

1 単位: 15 時間

- 目 的 :
1. 母性看護の概念および次世代を産み育てることの意義を理解し、母性看護の対象と看護の特性を学ぶ。
 2. 女性の生涯を通じた母性の健康の保持・増進の観点から、リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護を学ぶ。

- 一 般 目 標 :
1. 母性看護の基盤となる概念と母性看護の対象の特性が理解できる。
 2. 母性を取りまく保健動向と社会の現状について理解できる。
 3. リプロダクティブヘルスの意義と母性看護の役割・機能が理解できる。

評 価 方 法 : 試験(時間内)

実務経験の有無 : 有

単 元	時 間	学 習 内 容 ・ 学 習 方 法	担 当 講 師
1. 母性看護の対象と看護の特性	15	1. 母性看護の概念 1) 母性・父性・親性とは ①母性・父性・親性 ②母親役割、父親役割 ③母子相互作用、愛着形成 ④家族の発達・機能 2) セクシュアリティ ①セックス、ジェンダー ②性の多様性 3) リプロダクティブヘルス/ライツ 4) ヘルスプロモーション ①ヘルスプロモーション②ウェルネス③女性を中心としたケア④家族を中心としたケア⑤プレコンセプションケア 5) 母性看護における倫理 2. 母性看護の対象を取りまく社会の変遷と現状 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 (1) 母性看護の変遷：母子保健統計から見た動向 ①出生・死亡②人工妊娠中絶③女性の就職率④少子化・晩婚化・晩産化⑤婚姻・離婚⑥周産期医療のシステム⑦在留外国人の母子支援 (2) 母性に関する組織と法律 ①母子保健法②児童福祉法③児童虐待の防止等に関する法律④成育基本法⑤子育て世代包括支援センター⑥男女雇用機会均等法⑦育児・介護休業法⑧労働基準法⑨母体保護法 (3) 母子保健施策から見た現状 ①健やか親子 21（第2次）②母子健康手帳③保健指導、訪問指導 2) 母性看護の対象を取りまく環境 3. 母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルと形態・機能の変化 (1) 生殖器の形態・機能 (2) 妊娠と胎児の性分化 2) 現代女性のライフサイクル (1) 家族の発達段階と家族看護 (2) 女性のライフサイクルと生涯発達 3) 母性の発達・成熟・継承 4. 女性のライフステージ各期における看護 1) 思春期・成熟期女性の看護 ①第二性徴②性意識・性行動の発達③性行動・性反応④性周期（初経・月経）⑤月経異常、月経随伴症状	丸岡 里香

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		2) 更年期・老年期女性の看護 ①ホルモンの変化②更年期症状・更年期障害 5. リプロダクティブヘルスケア 1) 性感染症とその予防（H I V含む） 2) 人工妊娠中絶と看護 3) 生活習慣および環境：喫煙・飲酒・薬物・公害 4) 性暴力を受けた女性への看護 5) 国際化社会と看護	

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学①, 医学書院.
国民衛生の動向 2025/2026 年 厚生労働統計協会

科 目 名： 母性看護学Ⅱ

1 単位: 30 時間

目 的： 1. 周産期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）の経過を生理的変化の過程として理解し、ウェルネスの視点で必要な看護を学ぶ。

- 一般目標： 1. 正常な妊娠の経過および妊婦と胎児の生理的変化が理解できる。
 2. 妊婦の身体的・心理的・社会的特徴をふまえ、妊婦と家族がセルフケア能力を高め適応促進に向けた援助について理解できる。
 3. 正常な分娩の経過および産婦と胎児の生理的変化が理解できる。
 4. 分娩期にある母子と家族への援助について理解できる。
 5. 産褥期の身体的・心理的・社会的変化の特徴と産褥経過のアセスメントの視点が理解できる。
 6. 身体機能回復および進行性変化を促進し、母親役割の獲得や家族関係の再構成に必要な援助が理解できる。
 7. 新生児の特徴と生理的変化をふまえて、健康に成長・発達するために必要な援助が理解できる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 妊娠期の看護	8	1. 妊娠期の身体的特性 1) 妊娠の生理 (1)妊娠とは (2)妊娠の成立（授精・着床） (3)胎盤の形成 2) 胎児の発育とその生理 (1)胎児の発育 (2)胎盤と羊水の生理 (3)胎児の生理 3) 母体の生理的変化 (1)生殖器における変化 (2)妊娠による全身的变化 2. 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊娠経過の診断 2) 胎児の発育と健康状態の診断 3) 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 4) 妊婦健康診査 ※ 内診時の看護を含む※ノンストレステスト（NST） 3. 妊娠期の心理・社会的変化 1) 妊婦の心理的特徴 2) 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント 4. 妊婦と家族の看護 1) 妊婦の保健指導と実際 (1)健康維持・増進、セルフケアに関する教育 (2)妊娠中の食生活 (3)清潔・排泄・衣生活 (4)活動と休息（勤労・性生活）(5)嗜好品（喫煙、アルコール、カフェイン）(6)妊娠中のマイナートラブル (7)母子保健事業 2) 親になるための準備教育 (1)出産準備教育 (2)育児準備のための保健指導（母親学級・両親学級）(3)家族の再調整 5. 看護技術 1) 妊婦の計測：腹囲・子宮底測定 2) レオポルド触診法 3) 児心音の聴取	吉藤 美幸

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		4) 胎児の超音波断層法の介助 5) 内診の介助	
2. 分娩期の看護	6	1. 分娩の要素 1) 分娩とは (1) 分娩の区分 (2) 分娩の経過 2) 分娩の3要素 3) 分娩の機序 2. 分娩の経過 1) 分娩の進行と産婦の身体的変化 (1) 分娩の前兆 (2) 分娩第1期 (3) 分娩第2期 (4) 分娩第3期 (5) 分娩第4期 2) 産痛 3) 胎児に及ぼす影響 4) 産婦の心理・社会的変化 5) 産婦・胎児、家族のアセスメント (1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント ①産婦の基本的ニーズ ②産婦の健康状態 ③産婦の心理・社会的状態 ※胎児心拍数・胎児心拍陣痛図 (2) 産婦と家族の心理・社会面へのアセスメント 3. 産婦と家族の看護 1) 安全・安楽な分娩への看護 ※産痛緩和と補助動作、リラックス法を含む 2) 基本的ニーズに関する看護 産婦と家族の心理への看護	吉藤 美幸
3. 新生児期の看護	8	1. 新生児の生理 1) 新生児とは (1) 新生児の定義 (2) 出生体重・在胎週数による基準 2) 新生児の形態・機能 (1)呼吸 (2)循環 (3)体温 (4)消化器と吸収 (5)ビリルビン代謝 (6)水電解質代謝・腎機能 (7)免疫 (8)反射・姿勢 (9)感覚機能他 2. 新生児のアセスメント 1) 新生児の診断 (1) ハイリスク児の評価・要因(2) 出生直後の評価 (アプガースコア) (3) 発育・奇形の評価 (4) 黄疸・新生児マススクリーニング 2) 健康状態のアセスメント (1) 基礎的情報 (2) 子宮外生活適応 ①子宮外生活適応過程 ②全身観察(フィジカルアセスメント) ③排泄状態 ④生理的体重減少 ⑤黄疸 ⑥皮膚、皮膚色⑦頭部、顔面 ⑧体幹、四肢 ⑨外性器 ⑩神経学的状態 ⑪哺乳状態 3. 新生児の看護 1) 出生直後の看護 (1)気道の開通 (2)保温 2) 出生から退院までの看護 (1)保温 (2)清潔 (3)哺乳 (4)感染予防 (5)事故防止 (6)保育環境	小林 由希子

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		4. 看護技術 1) 新生児の全身の観察とバイタルサイン測定 2) 新生児の全身計測（身長・体重・胸囲・頭囲） 3) 経皮黄疸測定 4) 日常生活の援助技術 (1) 清拭・沐浴と臍処置 (2) 衣類の着脱 (3) 抱き方 (4) 寝かせ方 (5) おむつ交換と股関節脱臼予防 (6) 調乳・哺乳 (7) 排気のさせ方	
4. 産褥期の看護	8	1. 褥婦経過 1) 産褥期の身体的変化 (1) 産褥の定義 (2) 産褥期の身体的特徴 (3) 乳房の変化 (4) 生殖器の変化 (5) 全身の変化 2) 産褥期と心理・社会的変化 (1) 褥婦の心理的变化 ① 母親への適応過程 ② マタニティブルー ③ 母子相互作用 (2) 家族の心理的变化 (3) ソーシャルサポート 2. 褥婦のアセスメント 1) 産褥経過の診断 (1) 退行性変化 (2) 進行性変化 2) 褥婦の健康状態のアセスメント (1) 全身状態 (2) 子宮復古 (3) 分娩による損傷の状態 (4) 清潔 (5) 食事と栄養 (6) 排泄 (7) 活動と休息 3. 褥婦と家族の看護 1) 身体機能回復および進行性変化への看護 (1) 褥婦の日常生活とセルフケア ① 休息と活動 ② 栄養 ③ 排泄 ④ 清潔 ⑤ 乳房のケア ⑥ 産後経験する疼痛への対処 (2) 褥婦の心理・社会的状態 (3) 親子の愛着形成の支援 (1) 児への愛着と育児行動 (4) 育児にかかわる看護 (1) 母乳育児への支援（栄養法） (2) 育児技術獲得への支援 (5) 家族関係再構築への支援 (1) 家族計画（避妊法を含む） (6) 退院後の生活調整、産後のサポート	小林 由希子

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学①, 医学書院.
 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学②, 医学書院.
 根拠がわかる母性看護技術, 南江堂.

科 目 名： 母性看護学Ⅲ

1単位: 30時間

- 目 的： 1. 褥婦および新生児とその家族の特性を理解し、産褥期の健康を促進し、新生児が環境変化に適応するために必要な看護を学ぶ。
2. 妊婦・分娩・産褥経過中にみられる異常、産婦・褥婦および胎児・新生児に起こりやすい問題について理解し、必要な看護を学ぶ。

- 一般目標： 1. 正常な経過をたどる褥婦と新生児の看護過程を通して、母子と家族への援助が理解できる。
2. ハイリスク妊娠および妊娠経過に起こりやすい異常の予防と早期発見、健康回復のための援助が理解できる。
3. 分娩・産褥期の異常の特徴と治療について理解できる。
4. 分娩・産褥期に異常や問題をもつ対象とその家族に必要な看護が理解できる。
5. 新生児の異常の特徴と治療・看護について理解できる。

評価方法： 試験(時間内)

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 看護過程	10	1. 産褥期・新生児期にある対象と家族への看護 1) 正常な経過をたどる褥婦。新生児の事例を用いて看護過程を展開する 2) アセスメントの視点 ・産褥期の生理的变化（退行性変化・進行性変化）が順調に経過するための支援 ・新生児の生理的变化からの逸脱を予防し、胎外生活への適応と健康な発達を促進するための支援 ・母子相互作用を意識し、愛着形成過程が順調に進み、母親役割の獲得および家族関係再構成への支援	木田 妙
2. 妊娠期の異常と看護	6	1. 妊娠期の健康問題と看護 1) 不育症・不妊症 2) 流産・早産 3) 高年妊娠、若年妊娠 4) 妊娠糖尿病 5) 感染症 6) 妊娠悪阻 7) 妊娠貧血 8) 妊娠高血圧症候群 9) 常位胎盤早期剥離、10) 前置胎盤 11) 切迫流産・切迫早産 12) 出生前診断 13) 胎児機能不全 ※治療・検査・経過も含めて学ぶ	吉藤 美幸
3. 分娩期の異常と看護	4	1. 分娩の異常 1) 産道・娩出力の異常（微弱陣痛・過強陣痛） 2) 胎児及び付属物の異常 3) 分娩時の損傷 4) 分娩時の異常出血 2. 分娩の異常に伴う産科処置と手術および看護 1) 前期破水 2) 帝王切開 3) 胎児機能不全と胎児心拍モニタリング 分娩時の出血	
4. 産褥期の異常と看護	6	1. 産褥期の健康問題と看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱：産褥熱・乳腺炎・泌尿器感染症 3) 肺塞栓・産褥血栓症 4) 精神障害を有する褥婦（産後うつ病）	

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		2. 予期しない危機状況にある褥婦への看護 1) 死産とグリーフケア 2) 先天異常・障害を持つ児を出産した親への看護	
5. 新生児期の異常と看護	4	1. 新生児の異常と看護 1) 新生児仮死 (1) 新生児蘇生 (2) 新生児一過性多呼吸 (TTN) (3) 呼吸窮迫症候群 (RDS) (4) 胎便吸引症候群 (MAS) 2) 早産児・低出生体重児 ※保育器での管理 3) 分娩外傷 4) 低出生体重児 5) 高ビリルビン血症 ※光線療法に伴う看護 6) 新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症 ◎早期新生児 (生後 7 日未満) に焦点をあて、原因・症状・治療・看護について学習する。	

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論，医学書院.
系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論，医学書院.

＜構築の考え方＞

個人の認識は、生育・生活など社会関係の中で発達していく。現代社会は多様な価値観や核家族化、経済的不況など社会構造が変化しており、情報化、管理化等に特徴づけられるストレスに満ちた社会である。また、そのような中で、児童虐待、家庭内暴力、不登校、若者の引きこもりや、摂食障害、うつ病、自殺、アルコール依存症など心の問題や病気で心のケアを必要としている人々が増えており、精神障害の分類、疾患の種類も徐々に変化している。

代表的な精神疾患である統合失調症の罹患率は約1％であり、未だ入院患者の50%以上を占めている。高齢化の進行にともなって認知症も増えている。このような状況から心の問題や精神疾患は現在を生きる人々にとって人生のあらゆる時期や場で起こりうることである。

精神看護学では、小児から老年まで、すべてのライフサイクルにある対象の精神の健康の保持増進と精神を病む対象とその家族への看護を学ぶ。精神を病む人が今日まで社会の中でどのように見られ対応されてきたのかを知り、目に見えない精神症状・状態が日常生活に与える影響、治療の意味や方法、患者と看護者の治療的な関係について理解することが重要である。

精神を病む人をめぐる社会は、入院医療中心から地域生活中心へという基本理念に基づき、精神科医療および精神保健福祉サービスのあり方の急激な変化がある。地域の状況に応じた精神保健福祉サービスのシステム構築が求められ、多様なサービスが提供されるようになった。これらのことから、地域社会での生活を支援するための援助を学習し、精神保健医療福祉の実際と連携の必要性を理解する。

科目名	単位（時間数）	単元名
精神看護学Ⅰ	1単位（20時間）	1. 精神看護とは 2. 心の働きと精神保健 3. 精神保健医療をめぐる法制度 4. 地域生活支援
精神看護学Ⅱ	1単位（30時間）	1. 精神の健康障害の特徴と治療 2. 精神看護の基本
精神看護学Ⅲ	1単位（30時間）	1. 精神の健康障害と看護 2. 患者－看護師関係の成立・発展

科 目 名 : 精神看護学 I

1 単位: 20 時間 (実質 21 時間)

目 的 : 精神の健康を保持・増進するために必要な基礎的知識、合わせて精神に障害をもつ人が地域で生活するために必要な支援について学ぶ。

- 一般目標 : 1. 精神看護の基本がわかる。
 2. 精神の健康の概念を理解する。
 3. 精神保健医療をめぐる法制度がわかる。
 4. 精神に障害をもち地域で生活する人の支援について理解する。

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 精神看護とは	4	1. 精神保健福祉医療における看護師の役割 1) 精神看護の基本的な考え方 2) 精神障害の課題 2. 精神保健医療の歴史 1) 諸外国や日本における精神医療の歴史 3. 精神の健康に関する普及啓発 1) 偏見・差別・スティグマ 2) 精神保健医療福祉の改革ビジョン	石川 千恵
2. 心の働きと精神保健	6	1. 精神の健康の概念 1) 精神の健康の考え方 2) 精神障害の捉え方 ・精神障害の第一次予防、第二次予防、第三次予防 2. 心の危機とストレス 1) 危機の概念 ・状況的危機 ・発達の危機 2) ストレスとその反応、対処行動 ・適応理論 3) 危機介入、危機予防 3. 心の機能と発達 1) 心の機能 ・意識・認知・感情・学習・知能 2) 自我の機能 3) 自我の構造と精神力動 4) 防衛機制 5) 転移感情 4. 自然災害・人的災害時の精神保健 1) 災害時の精神保健医療活動 2) 災害時の精神保健に関する初期対応 3) 災害時の精神障害者への治療継続 4) 災害派遣精神医療チーム<DPAT>	
3. 精神保健医療をめぐる法制度	3	1. 自殺対策 2. 依存症対策 3. 精神保健および精神障害者福祉に関する法律 1) 精神保健福祉法の基本的な考え方	

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
4.地域生活支援	8	1. 社会復帰・社会参加への支援 1) リハビリテーションの概念 2) 国際生活機能分類<ICF> 3) 入院患者の退院支援、地域移行・地域定着支援 2. 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整 1) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム 連携する他職種（医師、歯科医師、保健師、助産師、精神保健福祉士、作業療法士、介護支援専門員、精神保健福祉相談員、ピアサポーター、薬剤師、公認心理師）の役割 2) 精神科デイケア、精神科ナイトケア 3) アウトリーチ 4) 行政との連携 （保健所、市町村、精神保健福祉センター） 3. 社会資源の活用とケアマネジメント 1) 精神障害者ケアマネジメントの基本的な考え方 2) 社会資源の活用とソーシャルサポート 3) セルフヘルプグループ、家族会 4) 自立支援医療 5) 居宅介護<ホームヘルプ>、同行援護及び行動援護 6) 重度訪問介護 7) 生活介護 8) 短期入所<ショートステイ> 9) 生活訓練 10) 就労移行支援 11) 就労継続支援 A 型・B 型 12) 共同生活援助<グループホーム> 13) 地域生活支援事業 14) 精神障害者保健福祉手帳 *当事者からの話を聞く	松本ほたる

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①， 医学書院.
系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②， 医学書院.

科 目 名： **精神看護学Ⅱ**

1 単位: 30 時間

目 的： 精神の健康障害の特徴と治療、あわせて精神医療・看護の基本的な考え方を学ぶ。

- 一般目標： 1. 精神障害の診断・治療について理解できる。
 2. 精神症状や状態によってもたらされる生活への影響を理解する。
 3. 精神看護の基本概念がわかる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1.精神の健康障害の特徴と治療	22	1. 脳の仕組みと精神機能 1) 脳の部位と精神機能 2) ストレス脆弱性仮説 3) 脳と免疫機能 4) 睡眠障害とサーカディアンリズム 2. 精神症状と状態像 1) 思考の障害：思路と思考内容の障害、強迫観念 2) 感情の障害：抑うつ気分、病的爽快気分、不安状態 3) 意欲の障害 4) 知覚の障害：知覚の変容、幻覚 5) 意識の障害 6) 記憶の障害 3. 精神障害の診断と分類 1) ICD（国際疾病分類）とDSM（アメリカ精神医学会の精神障害の診断・統計マニュアル） 2) 外因・心因・内因という分類から生物・心理・社会モデルへ 3) 心理検査・精神機能検査 4. 主な精神疾患の特徴 1) 統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害 2) 気分（感情）障害 3) 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 4) 生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群 5) 精神作用物質使用による精神・行動障害 6) パーソナリティ障害 7) 習慣及び衝動の障害 8) 器質性精神障害 9) 性の健康に関連する状態 10) 心理的発達の障害 11) 小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害 5. 治療 1) 神経伝達物質と薬理作用 2) 薬物療法 ・抗精神病薬 ・抗うつ薬 ・気分安定薬 ・抗不安薬 ・睡眠薬 ・抗てんかん薬 ・抗酒薬 ・コンプライアンスとアドヒアランス 3) 心理・社会的療法 ・個人精神療法	藤崎こずえ

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		・集団精神療法（作業療法・集団力動含む） ・心理教育アプローチ ・認知行動療法・生活技能訓練（SST） 4) 電気けいれん療法	
2.精神看護の基本	8	1. 精神の健康とマネジメント 1) 心身相関と健康 2) リエゾン精神看護 ・コンサルテーション事例の特徴 ・コンサルテーションを担う職種の役割 3) 身体疾患をもつ人の精神の健康 4) 保健医療福祉に従事する者の精神の健康 5) トラウマインフォームドケア<TIC>、逆境体験 2. 安全管理<セーフティマネジメント> 1) 病棟環境の整備と行動制限 2) 自殺予防・自殺企図・自傷行為 3) 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム 4) 災害時の精神科病棟の安全の確保 3. 患者の権利擁護<アドボカシー> 1) 精神保健福祉法による入院形態 2) 精神保健指定医 3) 当事者の自己決定の尊重、施設症 4) 入院患者の基本的な処遇 5) 精神医療審査会 6) 隔離、身体拘束と看護 演習項目～身体拘束	鈴木 真人

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院

科 目 名 : **精神看護学Ⅲ**

1 単位: 30 時間

目 的 : 精神を障害された対象および家族への看護に必要な知識と技術を学ぶ。

- 一般目標 :
1. 精神疾患の特徴および精神症状・状態に応じた看護が理解できる。
 2. 精神を障害された対象および家族への看護過程を展開する視点が理解できる。
 3. 精神看護における治療的な人間関係の意義と患者－看護師関係の成立・発展に必要なコミュニケーション技術について理解できる。
 4. 看護場面の再構成の技術を用いた自己洞察の意義とその方法が理解できる。

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 精神の健康 障害と看護	20	1. セルフケアの視点からのアセスメント 1) セルフケアに影響を与えること ①疾患の特徴 ②精神状態 ③自我機能、自我の成熟度 ④生育歴 ⑤発達段階 ⑥ストレングス<強み・力> ・レジリエンス・リカバリ<回復> ・エンパワメント 2) セルフケアの要件 ①空気・水・食物の十分な摂取 ②排泄物と排泄のプロセスに関するケア ③体温と個人衛生 (清潔と身だしなみ) の維持 ④活動と休息のバランスの維持 ⑤一人でいることと社会的相互作用のバランスの維持 ⑥安全を保つ能力 3) セルフケア能力 ①自己決定能力 ②セルフケア行動 4) 病期を理解した適切な関わり 2. 症状アセスメントと援助 1) 思考の障害 : 思路と思考内容の障害、強迫観念 2) 感情の障害 : 抑うつ気分、病的爽快気分、不安状態 3) 意欲の障害 4) 知覚の障害 : 知覚の変容、幻覚 5) 意識の障害 6) 記憶の障害 7) 離脱症状 (アルコール依存症の看護を含む) 8) 睡眠障害 9) 知的能力障害 3. 向精神薬服用中の患者の看護 1) 薬の作用・副作用の特徴と看護 2) 服薬の援助 (服薬自己管理を含む) 4. 精神科における観察の特徴、観察の方法、 1) 患者の訴えの意味を知る	阿部 真己

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		2) フィジカルアセスメントの重要性 ・身体合併症のある患者の看護 ・フィジカルアセスメントとケア 5. 精神看護における家族支援と退院支援 1) 精神を病む人の家族の理解 ①家族のストレスと健康状態のアセスメント ②家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント ③家族システムのアセスメント ④家族への教育的介入と支援 ⑤患者―家族関係の調整 2) 入院患者の退院支援 ①退院支援の実際（家族支援を含む） ②精神科外来看護、精神科訪問看護 ③患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進 ④精神保健医療福祉における多職種連携と看護の役割 6. 看護過程 1) 事例を用いての解説 ・事例～統合失調症、慢性期、幻覚妄想がある患者 セルフケアの視点からのアセスメント 2) グループワーク ・事例～統合失調症、回復期、幻覚妄想状態が落ちついてきた患者 科学的看護論を用いて全体像モデル、立体像モデル、対象特性を描き看護の方向性を導き出し発表する	
2. 患者 - 看護師関係の成立・発展	10	1. 患者 - 看護師の治療的な関係 1) 患者―看護師関係の発展と終結 2) 患者 - 看護師関係における看護師の役割 3) 治療的環境 2. 患者 - 看護師関係構築の技術 1) 信頼関係の基礎作り ①ケアの前提 ②ケアの原則 ・共同意思決定、共同創造＜コプロダクション＞ ③ケアの方法（接近の技法、効果的なコミュニケーションを含む） 2) ロールプレイ ①役割を演じることで自己理解、対象理解を深める ②ロールプレイングの具体的展開方法 演習項目～ロールプレイング 3. プロセスレコードの活用 1) 精神看護における自己洞察の意義 2) 再構成の目的と方法 3) 再構成の実際～実習の事例で行う グループワークを行い分析・考察を深める	奥山 宗頼

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院.
 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学②, 医学書院.

＜構築の考え方＞

現在、少子高齢多死社会を迎え、人類が経験したことのない新しい社会が到来しようとしている。保健・医療・福祉は大きな変化が求められ、これまで国民の医療・福祉を支えてきた制度も見直す必要性が生じている。特に、医療においては病院完結型から地域完結型に変貌を遂げようとしている。それに伴って看護師が活動する場も病院にとどまらず、その広がりが期待され、チーム医療の中で、自律的に、専門的に判断し行動していくことが求められるようになっていく。そのため、すばやく対象を理解する力、その時、その状況をみて必要な看護をすばやく判断する力、看護過程を展開する力、チームの一員として連携・協働できる力といった能力を強化することが必要と考え、領域横断科目群を設定した。

保健指導

看護は、対象がもてる力を発揮し、その人らしい生活が送れるように援助することにある。そのため、健康の保持・増進、疾病の予防健康の回復に向けて1次予防、2次予防、3次予防が重要となってくる。ここでは特に1次予防に焦点をあて、社会の変化を踏まえ各発達段階にある人々に対して対象の健康課題や施策を理解した上で発達段階に応じた保健指導ができる基礎を学ぶ。

看護過程演習Ⅰ・Ⅱ

看護は対象に三重の関心を注ぐことで必要な看護を導き出すことができる。この看護過程を展開する力は身に付けなければいけない技術であり繰り返しの訓練が必要である。そのため、ここでは基礎看護学で学んだ看護過程を踏まえ、各領域別看護の知識を活用し科学的根拠に基づき、より対象特性に応じた看護過程を展開することで必要な看護が導き出せるような思考過程を養う。看護過程展開技術の修得には、繰り返す行っていくことが必要な学習であることから看護過程演習Ⅰでの学びを看護過程演習Ⅱの学習につなげることで身につけることができるように目標を設定した。

臨床判断Ⅰ・Ⅱ

看護は一回性の場面の連続であり、その時、それをどう捉え、どう対応するか、その判断の適切さが求められる。そのため看護するためにという目的のもと、何をみて、どう判断し、対応するのか自分のあたまでを専門家として働かせられるようにしていく必要がある。ここでは、臨床でよくある場面での対応を取り出し、看護師が何をみてどう判断するのか看護師のような頭づくりの一連の臨床判断過程を学習する。

はじめに臨床判断とは何かを学び、対象に焦点をあて臨床判断を実践していく。その後授業や実習での学びを活用し、対象のみならず、その周囲に対しても認識し、働きかけ、その時その状況に応じた臨床判断を実践していく。臨床判断Ⅰでの学びをⅡでも積み重ねられるように目標を設定した。

専門職連携Ⅰ・Ⅱ

地域包括ケアシステムの下、患者中心の医療を実現するためには、多職種との連携・協働の必要性が不可欠である。ここでは、多職種の役割を深く認識し、多職種間でのコミュニケーション能力を深め、多職種との連携・協働を通し、看護の果たすべき役割、専門性について考える。

単位数の換算

	地域・在宅	成人	老年	小児	母性	精神	単位数(時間数)
保健指導	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	1 (30)
看護過程演習Ⅰ	0.1	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	1 (30)
看護過程演習Ⅱ	0.1	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	1 (30)
臨床判断Ⅰ	0.1	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	1 (30)
臨床判断Ⅱ	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	1 (30)
専門職連携Ⅰ	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	0.2	1 (15)
専門職連携Ⅱ	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	1 (15)
単位数	1	2	1	1	1	1	7 (180)

専門分野 **領域横断**

科 目 名 : **保健指導**

1単位:30時間

目 的 : ライフサイクル各期にある人々の特徴を理解し、健康を支援するための保健指導の基礎を学ぶ

- 一般目標 :
1. 人々を取り巻く、現代社会の推移、現状が理解できる
 2. ライフサイクル各期の特徴と健康課題が理解できる
 3. ライフサイクル各期にある人々を支えるための保健・医療・福祉施策と保健活動が理解できる
 4. 健康支援のための基礎理論が理解できる。

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 対象別保健指導と保健指導の基礎理論	30	1. 人々を取り巻く現代社会と変遷 1) 統計的側面から見る現代社会の特徴 ① 健康に関する指標 ② 受療状況 2. ライフサイクル各期の特徴と課題 1) 女性のライフサイクル各期の特徴 2) 小児期の発達課題と健康課題 3) 成人期の発達課題と健康課題 4) 老年期の発達課題と健康課題 3. ライフサイクル各期を支える施策と保健活動 1) 女性を支える施策と保健活動 2) 小児期を支える施策と保健活動 3) 成人期を支える施策と保健活動 4) 労働者に対する施策と管理 5) 高齢者の健康と生活を守る施策と保健活動 6) 感染症予防と施策 7) 障害者、難病保健と施策 4. 健康の保持・増進のための支援 1) ヘルスプロモーションとヘルスリテラシー 2) 健康行動理論 ・自己効力理論、健康信念モデル、トランスセオレティカルモデル (理論横断モデル) など	渡辺 唯

テキスト : 系統看護学講座 小児看護学概論 小児看護学① 医学書院.
系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院.
新体系看護学全書 成人看護学 成人看護学概論 成人保健 メヂカルフレンド社.
系統看護学講座 老年看護学 医学書院.
図説 国民衛生の動向 2024/2025 厚生労働統計協会.
系統看護学講座 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症 医学書院.
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版.

専門分野 領域横断

科 目 名 : 看護過程演習Ⅰ

1単位:30時間

目 的 : 対象特性に応じた看護過程を展開するための思考過程を養う。

- 一般目標 :
1. 事例患者の情報を整理し、対象特性を理解することができる。
 2. 事例患者に必要なケアを分析・判断することができる。
 3. 主体的な学習姿勢を身につけ、成果をまとめることができる。

評価方法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 対象特性に応じた看護過程の展開	14	1. 脳梗塞の患者の看護過程(回復期)	渡辺 唯
	16	2. 心不全の患者の看護過程(慢性期) ※ 対象に三重の関心を注ぐ ※ 学習レポート、様式1～様式4の問題抽出まで実施 ※ グループ学習を通して知識を共有し理解を深める	木村 真由美

テキスト : 新装版 科学的看護論 第3版, 日本看護協会出版会.
看護のための人間論 ナースが視る人体, 講談社.
看護のための疾病論 ナースが視る病気, 講談社.
系統看護学講座 専門分野 脳・神経 成人看護学⑦, 医学書院.
系統看護学講座 専門分野 循環器 成人看護学③, 医学書院.
新体系看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論 成人保健, メヂカルフレンド社.
系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院.

科目名： **看護過程演習Ⅱ**

1単位: 30時間

目的： 科学的根拠に基づいた看護を展開するための思考過程を養う。

- 一般目標：
1. 事例患者の情報を整理し、対象特性を理解することができる。
 2. 事例患者に必要なケアを分析・判断することができる。
 3. 事例患者に必要な看護計画を立案することができる。主体的な学習姿勢を
みにつけ、成果をまとめることができる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 対象特性 に応じた看護 過程の展開	1 6	1. 胃潰瘍術後の患者の看護過程(急性期)	上坂 真規子
	1 4	2. 肝臓がんの患者の看護過程(終末期) ※ 対象に三重の関心を注ぐ ※ 学習レポート、様式1～4を実施し評価も行う	田中 亜由美

テキスト： 新装版 科学的看護論 第3版, 日本看護協会出版会.

看護のための人間論 ナースが視る人体, 講談社.

看護のための疾病論 ナースが視る病気, 講談社.

系統看護学講座 専門分野 消化器 成人看護学⑤, 医学書院

新体系看護学全書 成人看護学①成人看護学概論/成人保健 メヂカルフレンド社

科目名： **臨床判断Ⅰ**

1単位: 30時間

目的： 看護が必要な対象に対してその時、その状況で必要な看護に気づき、判断し、対象に合わせた援助を実践する臨床判断過程の基礎を養う。

- 一般目標：
1. 臨床判断のプロセスが理解できる。
 2. 成人期、老年期にある対象の状況を把握し、専門的知識をもとに現在の状態が理解できる。
 3. 得た情報から今後の状態を予測し、必要な看護が推察できる。
 4. 対象の状況に合わせた看護技術を選択、実践し、対象の反応を認識できる。
 5. 対象の反応から実践した看護の評価ができる。
 6. 主体的・対話的学びを通して学習成果を深めることができる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 臨床判断とは	10	1. 臨床判断のプロセス 1) 構成要素 気づき、解釈、反応、省察 2) 臨床判断をどのように導くのか 3) 臨床判断の実際 事例：糖尿病患者の事例（看護過程の事例）	木田 妙
2. 臨床判断の適応	20	1. 老年期にある患者への適応 持続点滴中にある心不全患者の事例 実施する援助 <u>持続点滴中の寝衣交換</u> 2. 成人期にある患者への適応 吸引の必要のある脳梗塞患者の事例 実施する援助 <u>気管内、口腔、鼻腔吸引、SPO₂測定、</u> ※ 気づき、解釈、反応、省察のステップを踏む ※ 各演習前にタスクトレーニングを演習課題に合わせて実施 ※ 終了後リフレクションを行う。	山下 史

テキスト： 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社。
 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社。
 看護がみえるVol① 基礎看護技術，メディックメディア。
 看護がみえるVol② 臨床看護技術，メディックメディア。

科目名： **臨床判断Ⅱ**

1単位: 30時間

目的： 看護が必要な対象に対してその時、その状況で必要な看護に気づき、判断し、対象に合わせた援助を実践する臨床判断過程の基礎を養う。

- 一般目標：
1. 小児、母性、精神および在宅で療養生活を送る対象の状況を把握し、専門的知識をもとに現在の状態が理解できる。
 2. 得た状態から今後の状態を予測し、必要な看護が推察できる。
 3. 対象の状況に合わせた看護技術を選択、実践し、対象の反応を認識できる。
 4. 対象の反応から実践した看護の評価ができる。
 5. 主体的・対話的学びを通して学習成果を深めることができる。

評価方法： 試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 臨床判断の適応	14	1. 精神に障害をもつ対象への適応 実施する援助技術 <u>浣腸、フィジカルアセスメント</u>	森 美穂
	16	2. 小児期にある患児への適応 実施する援助技術 <u>ネブライザーを用いた気道内加湿</u> <u>バイタルサイン測定</u> 3. 母性看護の対象への適応 実施する援助技術 <u>保健指導（食事指導を含む）</u> 4. 在宅療養者への関わり 実施する援助技術 <u>褥瘡処置、創処置</u> ※気づき、解釈、反応、省察のステップを踏む ※各演習前にタスクトレーニングを演習課題に合わせて実施 ※終了後リフレクションを行う。	木田 妙

テキスト： 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社。
新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社。
系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院

科 目 名 : **専門職連携 I**

1 単位: 1 5 時間

目 的 : 保健・医療・福祉における多職種の役割、連携・協働の必要性を理解し、チーム医療における看護師の役割、専門性を理解する。

- 一 般 目 標 :
1. 保健・医療・福祉における多職種の役割や責務について理解する。
 2. 保健・医療・福祉チーム作りに必要な基礎的知識を理解する
 3. チーム医療における看護師の果たすべき役割と責任を理解する。

評 価 方 法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 多職種連携、協働における看護師の役割	1 5	1. 保健・医療・福祉活動における基本理念と目標 2. チーム医療とは 1) チームアプローチを支える諸理論 ・チームの種類と特徴 ・対話スキルとコミュニケーション ・リーダーシップ、メンバーシップ 2) チームマネジメントを高める技術 ・ファシリテーション ・コンフリクトマネジメント 3. 多職種の役割と連携・協働の実際 1) 病院内におけるチーム ・医師、助産師、准看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、放射線技師、臨床工学士、臨床検査技師、NSW など 2) 保健・福祉におけるチーム ・保健師、介護福祉士、ボランティア、精神保健福祉士、社会福祉士など 4. チーム医療における看護の役割 1) チーム医療の種類 2) 看護職の専門性とは 3) チーム医療における看護の役割	米澤 里奈

テキスト : ナーシング・グラフィカ リハビリテーション看護 成人看護学⑥, メディカ出版.
 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版.
 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論, 医学書院.
 国民衛生の動向 2025/2026, 厚生労働統計協会

科 目 名 : **専門職連携Ⅱ**

1単位: 15時間

目 的 : 多職種間の特性を活かしながら共有した知識と情報を基に、目標を共有し多職種連携・協働に必要な態度、コミュニケーション能力を養う

- 一 般 目 標 :
1. 多職種間でのコミュニケーションを図り、問題解決にむけてチームアプローチの必要性が理解できる。
 2. 多職種の特性を理解し、対象を多角的かつ全体的に把握しながら課題解決に取り組むことができる。
 3. 多職種から学び合う機会を得ることで継続して学習する必要性が理解できる。

評 価 方 法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無: 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 専門職連携演習	11	1. 専門職連携教育 1) 多職種カンファレンスとは 2) ガイダンス ① 事例の提示 ② 事例教材の学習 3) 多職種カンファレンスの実際 ・事例をもとにグループワークを行い、チームとして必要なアプローチを考える。	笠井 真利子
	4	2. 地域ケアシステムにおける多職種連携・協働の実際	高橋 佳恵

テキスト : なし

<構築の考え方>

近年、医療環境の変化、看護業務の複雑・多様化、国民の医療安全に対する意識の向上など看護をめぐる状況は変化してきている。また、日本をはじめ世界中で起こる災害に対し、これまでの救急看護とあわせて災害看護の知識が必要である。さらに看護実践の場は拡大し、看護師は施設内看護にとどまらず、保健・医療・福祉の一員としてその機能と役割を果たしていくことが求められている。

医療の現場ではこうしたニーズに対応するため、看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを理解すること、看護をマネジメントする能力、安全な医療を提供するための看護実践能力、グローバル化が進展する中で看護を国際的視野で考える能力などの育成が不可欠である。さらに、現代社会の問題は、社会の最小単位である家族の機能に影響を与えており、個人の健康を守るために家族全体を看護の対象としてとらえることが必要である。

看護師は自らの看護実践を科学的根拠に基づいて看護研究に取り組み、看護を探究する姿勢が必要である。そのため、看護研究の基本的知識を学習し、ケーススタディで研究過程を体験することで、看護とは何か、看護現象や援助のあり方、看護専門職としての役割について理解を深めることが必要である。

「看護の統合と実践」では、看護に求められている社会的ニーズを理解し、適切な看護を提供できるような既習学習の知識と技術を統合して実践できる能力を養う。

科目名	単位数 (時間数)	単元名
看護管理	1単位 (15時間)	1. 看護管理 2. 医療安全 3. 看護専門職と生涯学習
救急・災害看護	1単位 (30時間)	1. 救急看護 2. 災害看護 3. 国際看護
家族看護論	1単位 (30時間)	1. 家族看護の基礎 2. 家族看護の実践
看護実践	1単位 (30時間)	1. 臨床看護の実践
看護研究	1単位 (30時間)	1. 看護研究の基本 2. ケーススタディの実際

科 目 名 : **看護管理**

1 単位: 15 時間

- 目 的 : 1. 看護管理のあり方を学び、組織での看護マネジメントおよび医療安全の基礎的知識を学ぶ。
2. 専門職として、主体的に学び続けることの必要性を学ぶ。

- 一 般 目 標 : 1. 看護管理の目的と機能が理解できる。
2. 看護を経営的・経済的側面から考えられる。
3. 看護チームの一員として看護師が担う役割や行動が理解できる。
4. 医療システムの中での危険要因を知り、看護実践における事故防止のための知識が理解できる。
5. 専門職業人として、主体的に学び続けることの意義と重要性を理解する。

評 価 方 法 : 試験 (時間内)

実務経験の有無 : 有

単 元	時 間	学 習 内 容 ・ 学 習 方 法	担 当 講 師
1. 看護管理	8	1. 看護管理 1) 看護管理とは何か 2) 看護管理の考え方 ① 医療機関の組織構造 ② 看護部門の組織と職務 3) 看護ケアのマネジメント ① チーム医療 ② 看護業務の実践 4) 看護サービスのマネジメント ① 人材、施設・設備、物品、情報 ② 看護提供システムと評価 5) 看護管理に必要な知識・技術 ① リーダーシップとマネジメント ② 組織の調整 ※ ナイチンゲールの小管理を基に、看護の本質と関連づけて考える。	河合 真純
2. 医療安全	4	1. 医療安全 1) 医療安全の概念 2) 医療事故と法律、法的責任 3) 事故発生メカニズム 4) 国・組織としての医療安全対策 5) リスクマネジメントのプロセスと実際 6) 主な医療事故とその予防策	佐藤真由美
3. 看護専門 職と生涯 学習	3	1. 看護に関する諸制度と生涯学習 1) 看護制度の変遷 2) 看護活動と法令、行政組織 3) 看護と専門機関、職能団体 4) 継続教育制度と生涯学習	河合 真純

テ キ ス ト : 系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践①, 医学書院.
看護覚え書 改訂第7版, 現代社.
新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I, メヂカルフレンド社.

科 目 名： 救急・災害看護

1単位: 30時間

- 目 的： 1. 救急看護・災害看護の特徴と役割を理解し、対象の状況に応じた適切な看護を提供するための基礎的知識を学ぶ。併せて医療チームにおける他職種との連携について考えることができる。
2. 国際社会における保健医療の実際を知り、国際協力について学ぶ。

- 一般目標： 1. 救急医療・救急看護の特徴と看護の役割を理解する。
2. 救急患者の観察とアセスメントに必要な知識を理解する。
3. 救急患者に見られやすい主要病態に対する治療および看護を理解する。
4. 災害の定義および災害医療の概要を理解する。
5. 災害サイクルにおける保健医療ニーズと活動の場に応じた看護を理解する。
6. 救急患者・災害時に必要な看護技術を習得する。
7. 看護の国際協力の必要性としくみを理解する。

評価方法： 試験（時間外）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 救急看護	14	1. 救急医療体制と救急看護の場 2. 救急看護の対象 3. 救急患者の観察とアセスメント 4. 救急患者に見られやすい主要病態に対する治療と看護 1) 心肺停止状態、ショック 2) 体温異常、熱傷、中毒 ※ 演習：心肺蘇生法（モデル人形使用） 緊急時の応援要請 AED の取り扱い 5. 生命危機状態にある患者・家族の心理状態とこころのケア 脳死と臓器提供、脳死状態への対応、救急医療・看護の課題	茂内由華子
2. 災害看護	12	1. 災害医療の基礎 1) 災害の定義、種類 2) 災害の歴史と法・制度 3) 災害の情報伝達体制、災害に対する社会の対応 4) 災害サイクルと医療体制 2. 災害看護の特徴と看護活動 1) 災害看護の役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の活動の場 3. 災害サイクルと活動の場に応じた看護 1) 災害直後の看護 ①地域アセスメント ②災害が人々の生活に及ぼす影響と健康問題 ③災害看護に必要な技術 演習※ ・ トリアージ ・ 応急処置（止血法※、骨折、クラッシュ症候群） ・ 搬送※（脊髄損傷は知識のみ） 2) 被災者の特性に応じた看護 3) 避難所における人々の看護 4) 中長期的な健康問題と看護	桑村 直樹

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
		4. 被災者、救護者のストレスとこころのケア 5. 災害への備え	
3. 国際看護	4	1. 看護の国際化と国際看護 1) 看護における国際化の状況 2) 世界の健康問題の現状 3) 国際協力のしくみ 4) 国際看護活動の実際 5) 国際社会における看護の対象	河合 真純

テキスト： 系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院.
系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③，医学書院.

科目名：家族看護論

1単位：30時間

目的：個人の健康を守るために家族全体を看護の対象としてとらえることの重要性を理解し、家族の健康の保持増進、健康問題を解決するための支援方法を学ぶ。

- 一般目標：
1. 家族をひとつの単位として看護する必要性が理解できる。
 2. 家族構成員の健康が家族全体に及ぼす影響が理解できる。
 3. 家族が健康に生活するために必要な支援が理解できる。
 4. 家族の健康問題から看護の必要性を判断し、支援方法について理解できる。
 5. 家族看護における看護師の役割を理解できる。

評価方法：試験（時間内）

実務経験の有無：有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 家族看護の基礎	18	1. 家族看護とは 1) 家族看護の目的と看護の役割 2) 他の専門領域との関連 2. 家族看護の対象理解 1) 家族看護学からみた家族の概念 2) 家族の機能・ライフステージと健康問題の特性 3) 家族の疾病による役割と生活の変化 4) 現代の家族と課題 3. 家族を理解するための理論 1) 家族発達理論 2) 家族システム理論 4. 家族の変化を把握するための理論 1) 家族ストレス対処理論 5. 家族アセスメントモデル 1) 渡辺式アセスメント支援モデル 2) 家族看護エンパワメントモデル ※ 家族社会学で学習した家族の動向、家族関係、家族理解の諸理論の知識を前提として、家族の形態と機能の変化が家族の健康や看護援助にどのように関連するのか学習する。	小竹 勝子
2. 家族看護の実践	12	1. 家族看護過程 1) 情報収集と家族アセスメント ・ジェノグラム、エコマップの活用 ・家族アセスメントモデルの活用 2. 家族看護の実践（紙上事例） 1) 家族アセスメント ・生じている問題の全体像の把握 ・援助の方針と方策の検討 2) 家族援助の方法と看護者としての基本姿勢 ※ 健康問題をもつ家族事例について理論やアセスメントモデルを用いてグループワークを行い、家族の価値観や主体性を尊重した家族アセスメントおよび家族システム全体が健康に生活するために必要な支援方法について学習する。 3. これからの家族と家族援助	

テキスト：系統看護学講座 別巻 家族看護学, 医学書院。

専門分野 看護の統合と実践

科 目 名 : **看護実践**

1 単位 : 30 時間

目 的 : 実際の臨床場面を想定した演習を通して、看護実践をプログラム（業務遂行計画を立案）し、看護技術の総合的評価を行う。

- 一 般 目 標 :
1. ハイリスクな状況下で、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる。
 2. 看護技術を組み合わせて、複数患者の状態や状況にあった援助が実践できる。
 3. 実践に即した技術演習をとおして、看護師としての責任感と倫理観を身につける。
 4. 自己の看護技術の到達度を評価し、今後の課題を明確にすることができる。

評価方法 : 試験（時間内）

実務経験の有無 : 有

単元	時間	学習内容・学習方法	担当講師
1. 臨床看護 の実践	20	1. 業務遂行のためのマネジメント 1) 複数患者を受け持つための情報収集・管理 2) 一日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 2. 複数患者への援助の実際と看護技術評価 1) 多重課題の計画立案 ・急性症状を呈する患者および日常生活援助を必要としている患者など複数の患者を事例設定する。 ・グループで患者の状態・状況をアセスメントして1日の行動スケジュールを立案する。 ・安全・安楽の確保、自立度に合わせた援助を計画する。 ・複数の患者への実施すべき援助の優先順位と効率性を考えて計画する。 2) 援助の実施 ・援助を実施する上で必要な技術を練習し学生間で評価し合う。 ・課題の実施をグループで発表する。 ※演習 : 多重課題	紺谷 泉
	10	3. 看護技術の演習と評価 1) 演習で体験する技術項目 ※演習 : インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告 一時的導尿 2) 看護技術の総合的評価 ・多重課題の事例に関連する看護技術を1つ取り上げ、看護の三原則に基づき実施する。 ・準備、説明、実施、報告、後片づけなど一連の援助の到達度を評価する。 ・看護技術到達度チェック終了後、多重課題の取り組みを含めて、自己の看護技術の到達状況の評価し、課題を明確し、レポートを提出する。	田中 亜由美

テキスト : 系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践①, 医学書院.
 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ, メジカルフレンド社.
 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メジカルフレンド社.
 看護がみえる Vol① 基礎看護技術, メディックメディア.
 看護がみえる Vol② 臨床看護技術, メディックメディア.

科 目 名 : **看護研究**

1 単 位 : 3 0 時間

- 目 的 : 1. 看護に対する理解を深めると共に、研究的態度を養う。
2. 看護を論理的・科学的に思考する能力を養う。

- 一 般 目 標 : 1. 看護研究の意義を知り、研究の基本がわかる。
2. ケーススタディの基本を学び、プロセスが理解できる。
3. 自己の看護実践を振り返り、看護であるものとなないものの視分け方がわかる。
4. 自己の看護実践をケースレポートにまとめることができる。
5. 主体的に学ぶ姿勢を身につけ、問題解決能力を高める。
6. ケーススタディを通し自己洞察の機会とし、看護者としての今後の課題がわかる。

評 価 方 法 : 試験 (時間内)、提出物、発表会参加

実務経験の有無 : 有

単 元	時 間	学 習 内 容 ・ 学 習 方 法	担 当 講 師
1. 看護研究の基本	8	1. 看護研究の基本 1) 研究の定義 2) 看護研究の意義・必要性 3) 看護研究の種類と方法、進め方 4) 看護研究に関わる倫理的問題と倫理原則 5) 文献検索と文献クリティーク	木村真由美
2. ケーススタディの実際	22	1. ケーススタディの基本 1) ケーススタディとは 2) ケーススタディのプロセス 3) ケーススタディのまとめ方 4) 論文作成時の留意点 2. ケーススタディの実際 1) 計画書作成 ※ 2年次から3年次夏期休暇前までの実習の中からケースを選択する。 ※ 担当教員の面談指導を受けて計画書を作成する。(面談指導は、ケース選択、計画書及び論文作成に対して各1回とする。) 2) 論文作成 ※ 学生同士で、動機・目的と結論が一致しているか、論文作成規程(論文の構成要素、書式・文字数など)にそっているか確認しながら作成する。 3. ケーススタディ発表会 1) 発表技法と準備 2) 発表会の運営 発表 10 分×5 人=50 分 質疑応答 =20 分 1 ブロック 70 分×4×2 会場 ※ 論文印刷、会場設営はその他の時間とする 3) 発表後のまとめ・振り返り	

テキスト : ひとりで学べる看護研究, 照林社.

進度表																																								
分野	科目名	単位数	時間数	配当 年次	1年次(令和8年度)												2年次(令和9年度)												3年次(令和10年度)											
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基礎 分野	日本語表現法	1	30	1																																				
	情報科学Ⅰ	1	15	1																																				
	情報科学Ⅱ	1	30	2																																				
	倫理学	1	16	1																																				
	コミュニケーション論Ⅰ	1	30	1																																				
	コミュニケーション論Ⅱ	1	30	2																																				
	生活科学	1	30	1																																				
	体育	1	30	1																																				
	英語Ⅰ	1	15	1																																				
	英語Ⅱ	1	30	3																																				
	心理学	1	30	1																																				
	文化人類学	1	30	1																																				
家族社会学	1	15	1																																					
芸術	1	16	2																																					
専門 基礎 分野	解剖生理学Ⅰ	1	15	1																																				
	解剖生理学Ⅱ	1	30	1																																				
	解剖生理学Ⅲ	1	30	1																																				
	解剖生理学Ⅳ	1	30	1																																				
	解剖生理学Ⅴ	1	30	1																																				
	栄養学Ⅰ	1	30	1																																				
	栄養学Ⅱ	1	15	1																																				
	病理学総論	1	15	1																																				
	微生物学	1	30	1																																				
	病理学Ⅰ	1	30	1																																				
	病理学Ⅱ	1	32	1																																				
	病理学Ⅲ	1	15	1																																				
	病理学Ⅳ	1	30	1																																				
	病理学Ⅴ	1	15	2																																				
	薬理学	1	30	1																																				
	病理生理学	1	30	1																																				
	社会保障論Ⅰ	1	15	2																																				
	社会保障論Ⅱ	1	15	2																																				
	関係法規	1	15	3																				</																